

81  
841

京都名勝帖

025383-000-4

81-841

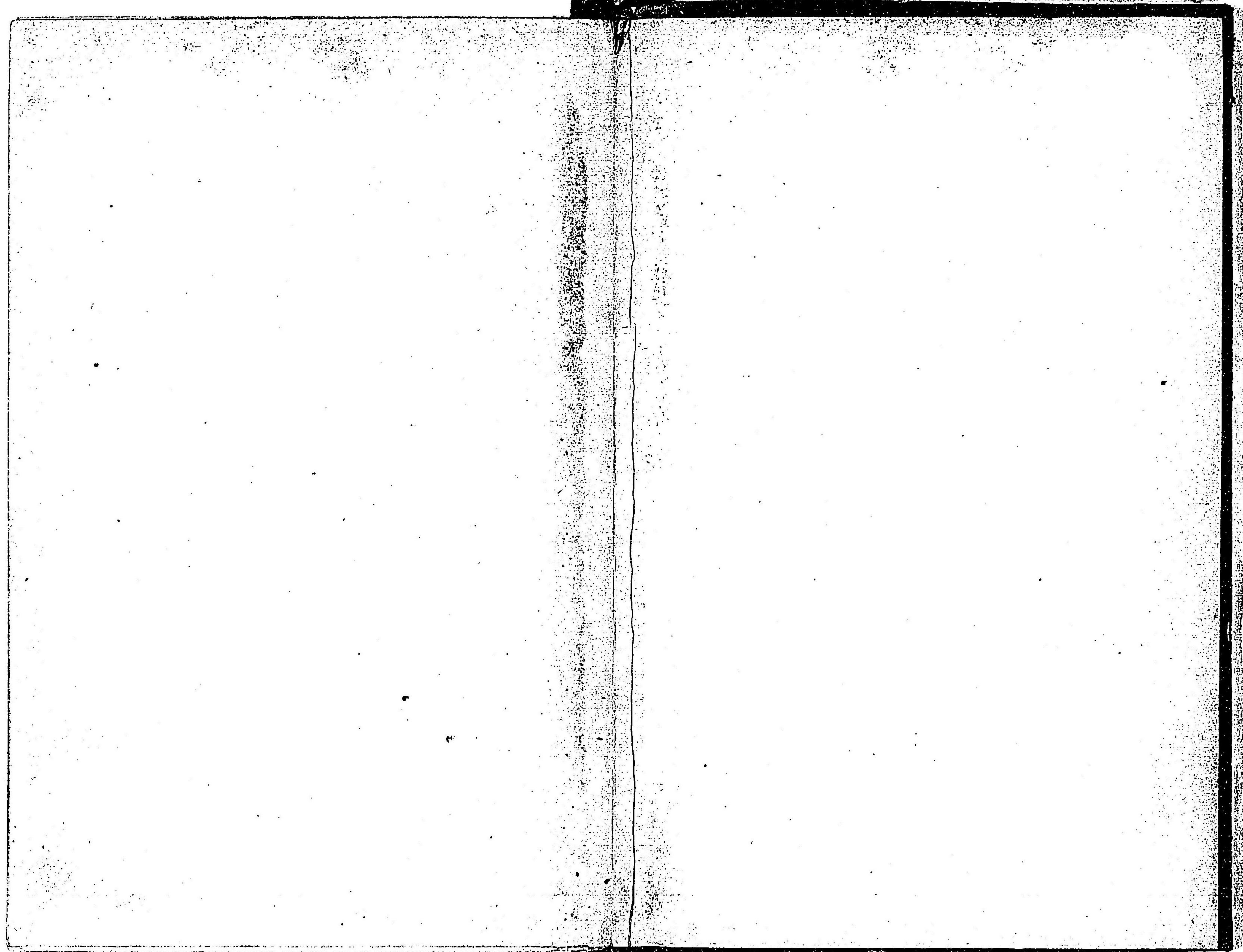
京都名勝帖

藤井 孫六 / 編

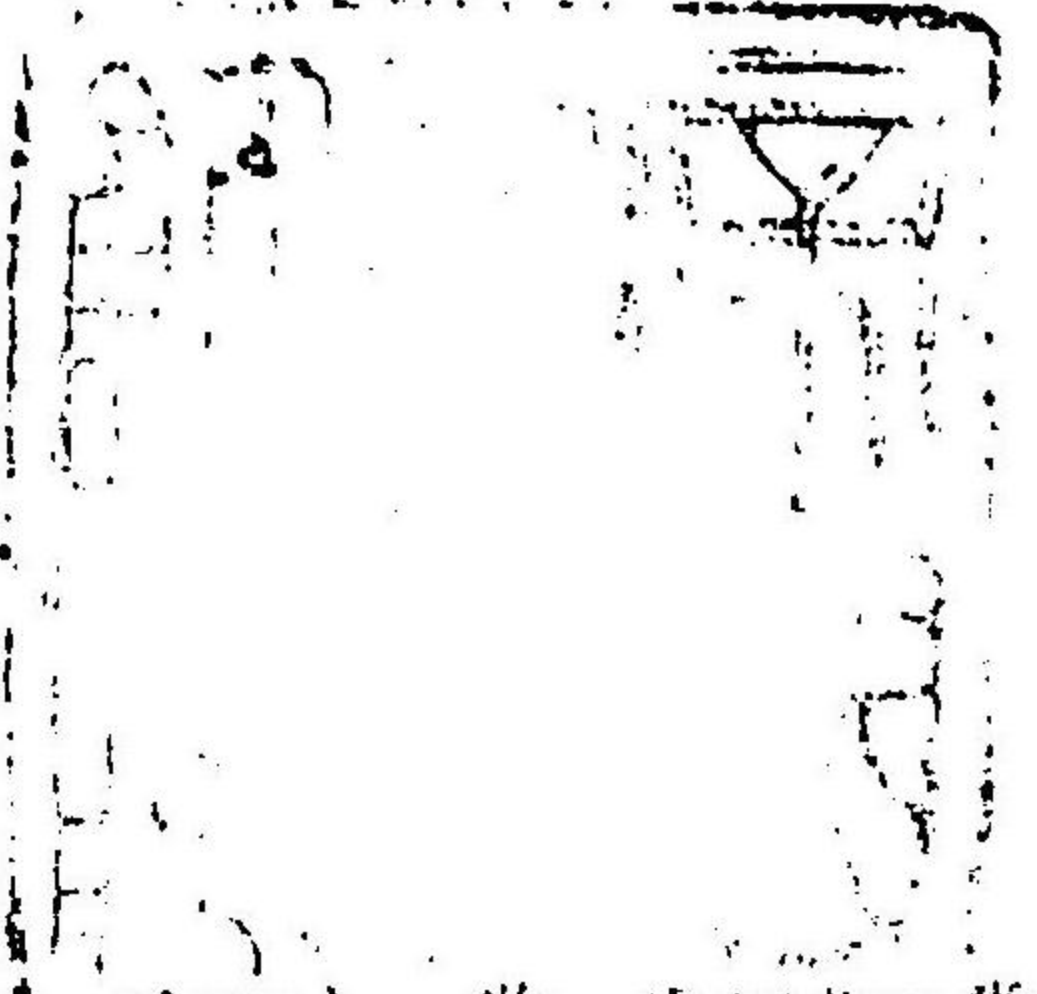
M36

ADC-2828





178-13



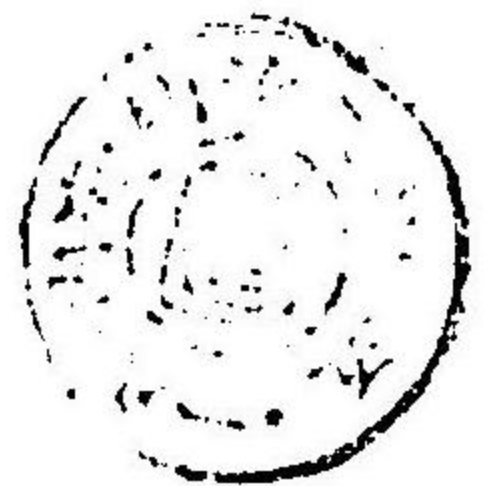
小引

名勝は美人の如し既に其秀色を餐するもまた常に目眩に在るを欲す未だ其麗容に接せずまゝ必らず夢寐に勞滯す愛するの深くして思ひの至れば也此帖は即ち京洛の名勝百餘ヶ處を收め煙霞霧鬢花粧月姿嫋然として笑ひ蕭然として語らんとす既に秀色を餐する者も觀るべし未だ麗容に接せざる者は尙ほ觀るべしたゞ余が文の未だ妙境に入らずしてその丰韻を躍然生動せしむる能はざるを憾ひ也

明治癸卯暮春の時

綠葉深處に於て

三田天外しゅうす



京都名勝帖目次

(1) 皇宮  
 (2) 疏水インクラインノ景  
 (3) 永観堂  
 (4) 吉田神社  
 (5) 下加茂神社  
 (6) 三軒院  
 (7) 比叡山  
 (8) 東山ヨリ市街ヲ望ム景  
 (9) 圓山公園夜櫻  
 (10) 四條橋  
 (11) 西谷

二條離宮  
 北垣男爵銅像  
 若王子  
 銀閣寺  
 糺森  
 音無瀧  
 根本中堂  
 市街ヨリ東山ヲ望ム景  
 八坂神社  
 都路  
 八坂塔

南禪寺山門  
 眞如堂  
 知恩寺  
 來迎院  
 高臺寺  
 (一)

(37) (36) (35) (34) (33) (32) (31) (30) (29) (28) (27) (26) (25)  
 毘 宇 藤 稻 男 楊 向 法 天 廣 高 仁 上  
 沙 治 森 荷 山 日 輪 龍 隆 和 茂  
 門 神 神 神 神 神 寺 寺 寺 尾 寺  
 堂 橋 社 社 社 谷 社 寺 寺 寺 尾 寺 社

天  
 大 興 桃 人 淀 王 善 松 嵐 清 桐 妙 鞍  
 津 聖 形 店 山 峰 涼 心 馬  
 街 寺 山 景 川 寶 寺 社 山 寺 尾 寺 寺  
 道 寺 山 景 川 寶 寺 社 山 寺 尾 寺 寺

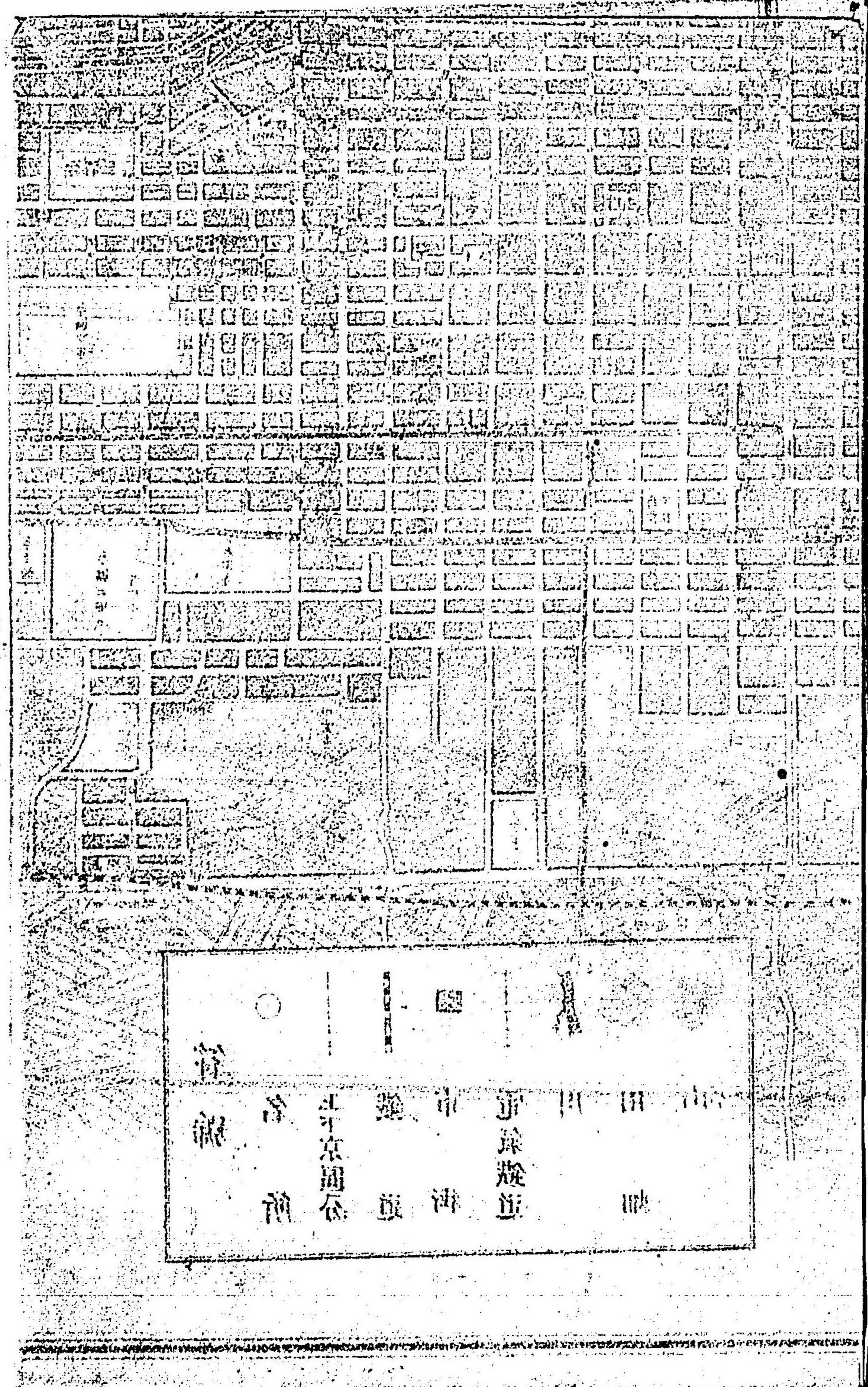
(三) 諸 鳳 觀 石 光 梅 保 二 楨 貫  
 羽 鳳 月 峰 長 明 津 尊 船  
 神 堂 橋 寺 岡 寺 宮 川 院 尾 社  
 社 堂 橋 寺 岡 寺 宮 川 院 尾 社

(24) (23) (22) (21) (20) (19) (18) (17) (16) (15) (14) (13) (12)  
 北 大 相 六 六 西 佛 三 平 通 帝 豐 清  
 野 德 國 角 孫 本 條 安 室 國 水  
 神 寺 寺 堂 王 寺 寺 橋 苑 橋 館 廟 寺  
 社 寺 寺 堂 王 寺 寺 橋 苑 橋 館 廟 寺 入口

飛  
 金 建 大 中 島 雲 因 新 武 泉 三 大 清  
 關 勵 極 京 島 閣 幡 京 德 涌 十 佛 水  
 寺 社 殿 ノ 原 東 藥 極 殿 寺 三 三 鈞 寺  
 寺 社 跡 店 原 本 師 極 殿 寺 堂 鐘 本  
 寺 社 跡 店 原 本 願 寺 殿 寺 堂 鐘 堂

今 上 梨 東 神 劇 時 豐  
 宮 御 木 寺 涉 泉 代 國  
 神 鑿 神 寺 成 苑 場 祭 神  
 社 社 社 塔 園 苑 場 祭 社

(三)



目次終

(41) (40) (39) (38)  
笠青隨勸

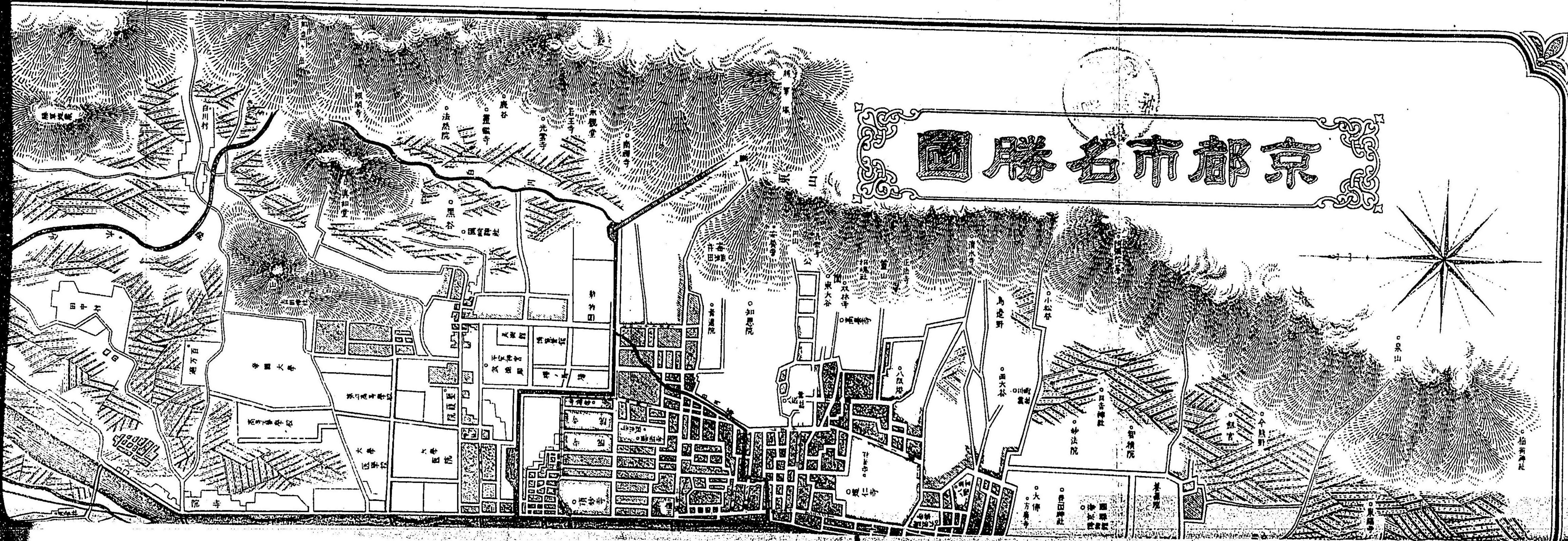
置心修

寺谷院寺

木津川  
笠置山  
望景  
巨椋池  
醍醐寺  
寢殿  
岩屋寺  
大石遺跡ノ景

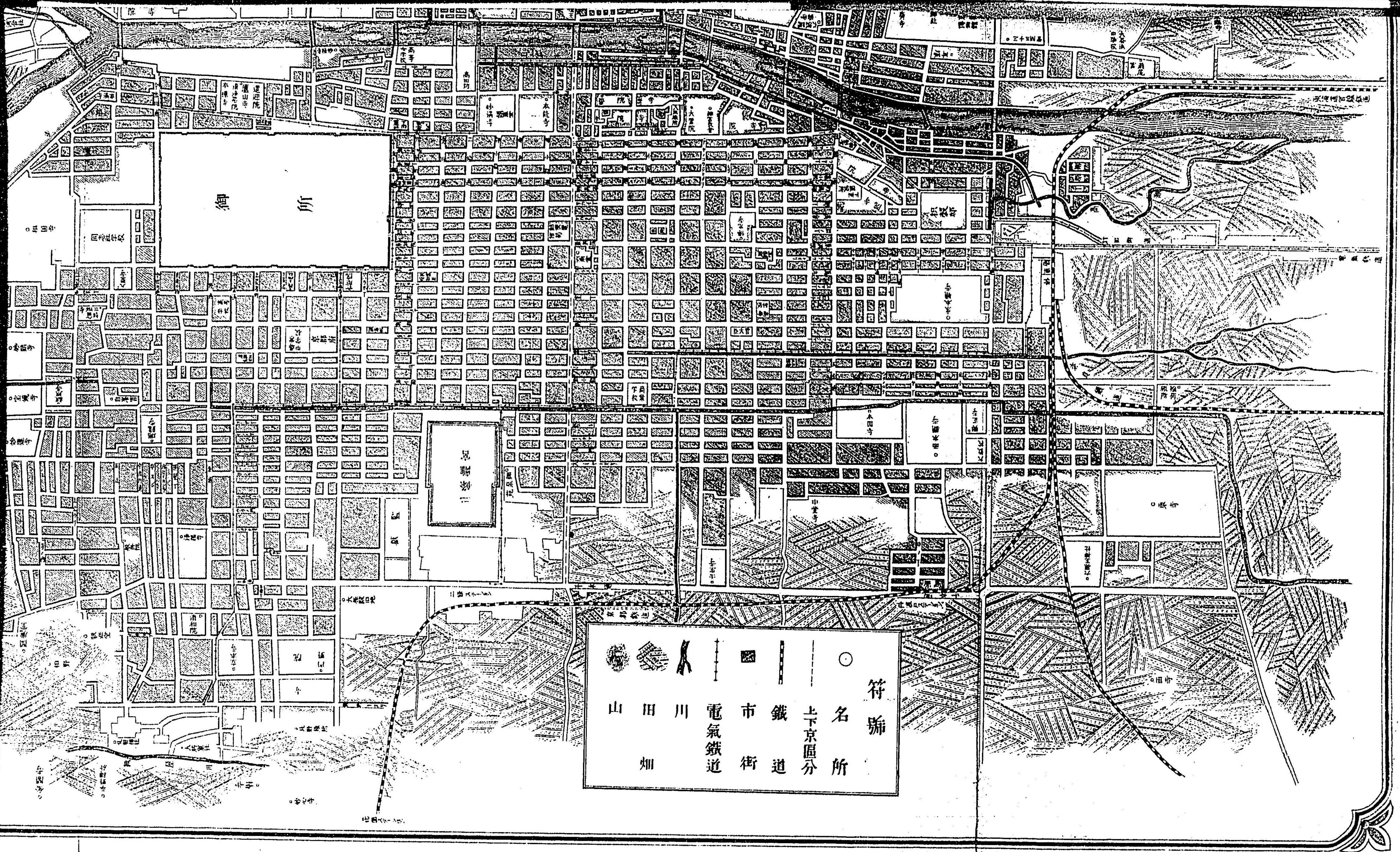
笠置温泉  
木津橋  
法界寺  
田村磨ノ墓  
(四)

# 京都市名勝圖









山 田 川 電 市 鐵 上 名  
 畑 畑 川 氣 街 道 京 所  
 畑 畑 川 鐵 街 道 區 分 所  
 畑 畑 川 鐵 街 道 區 分 所

御所

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

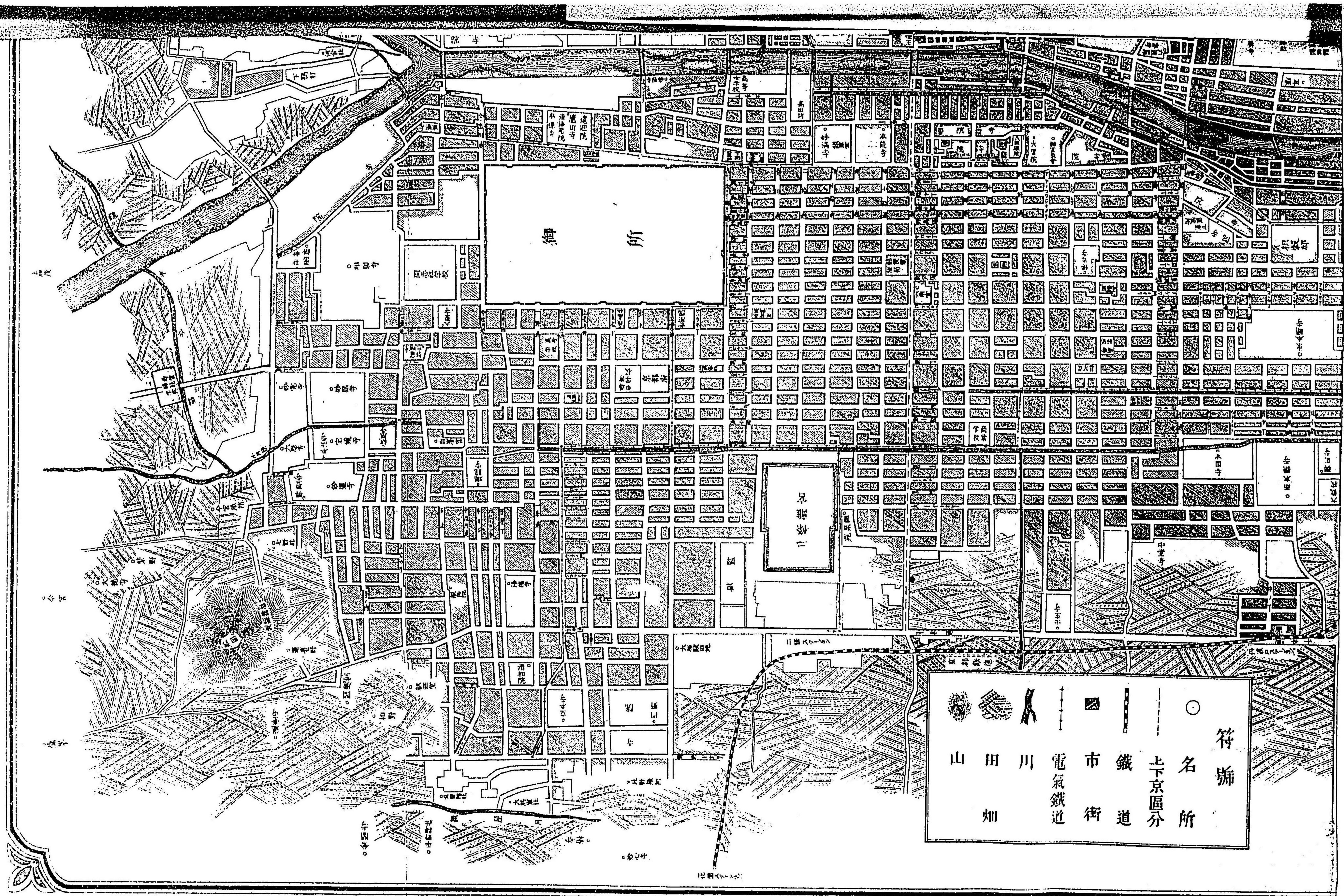
山崎

山崎

山崎

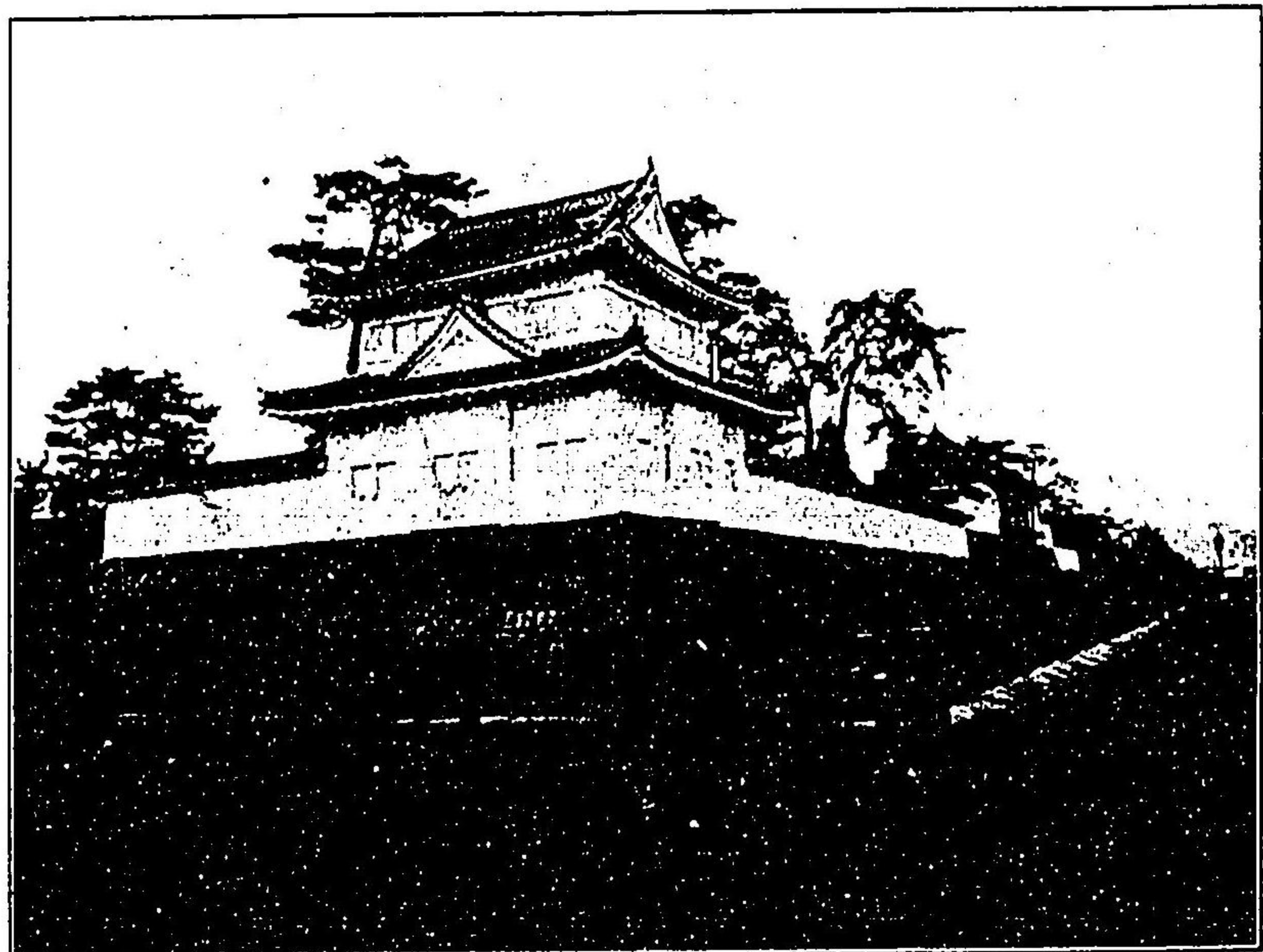
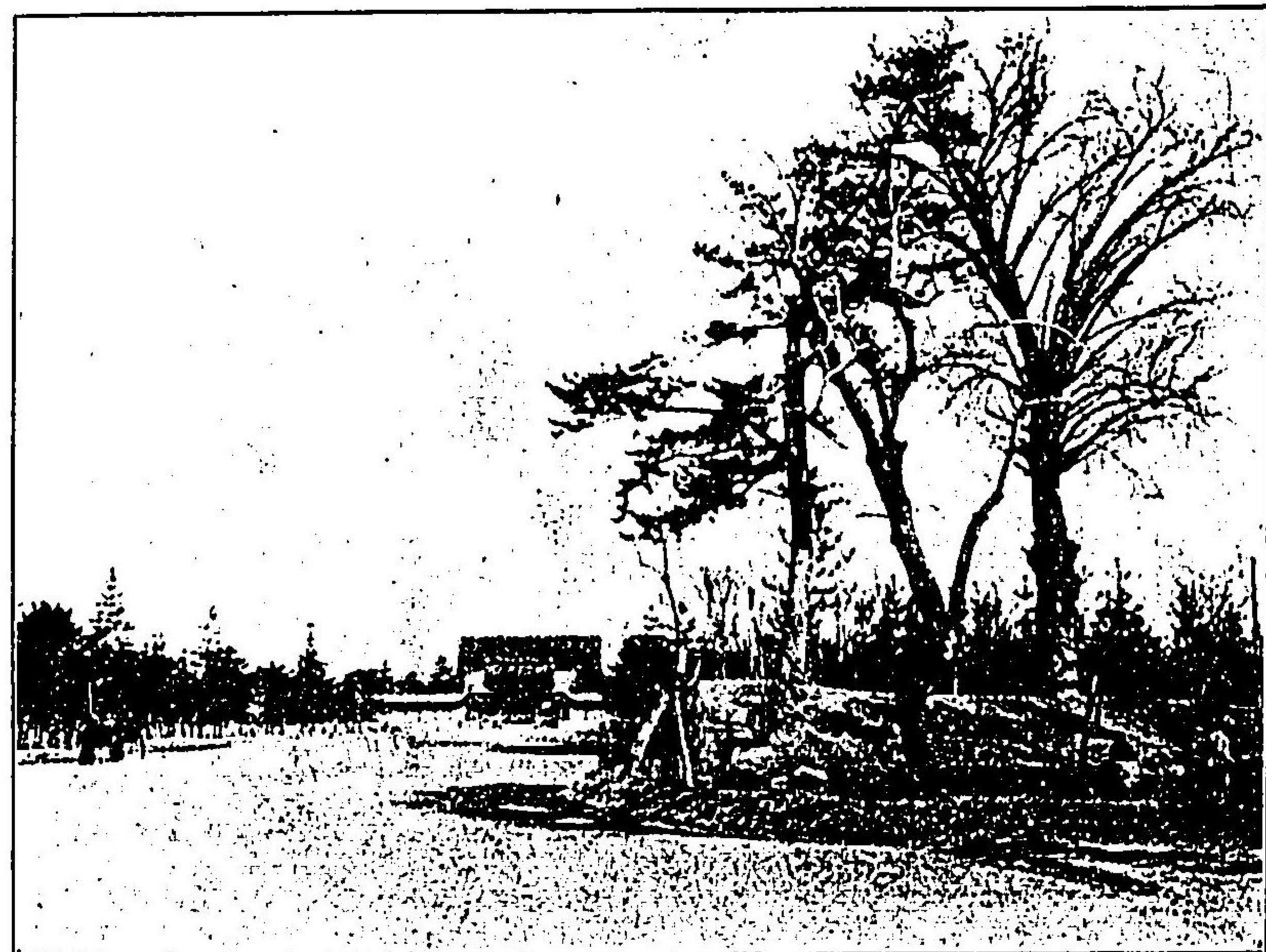
山崎

山崎

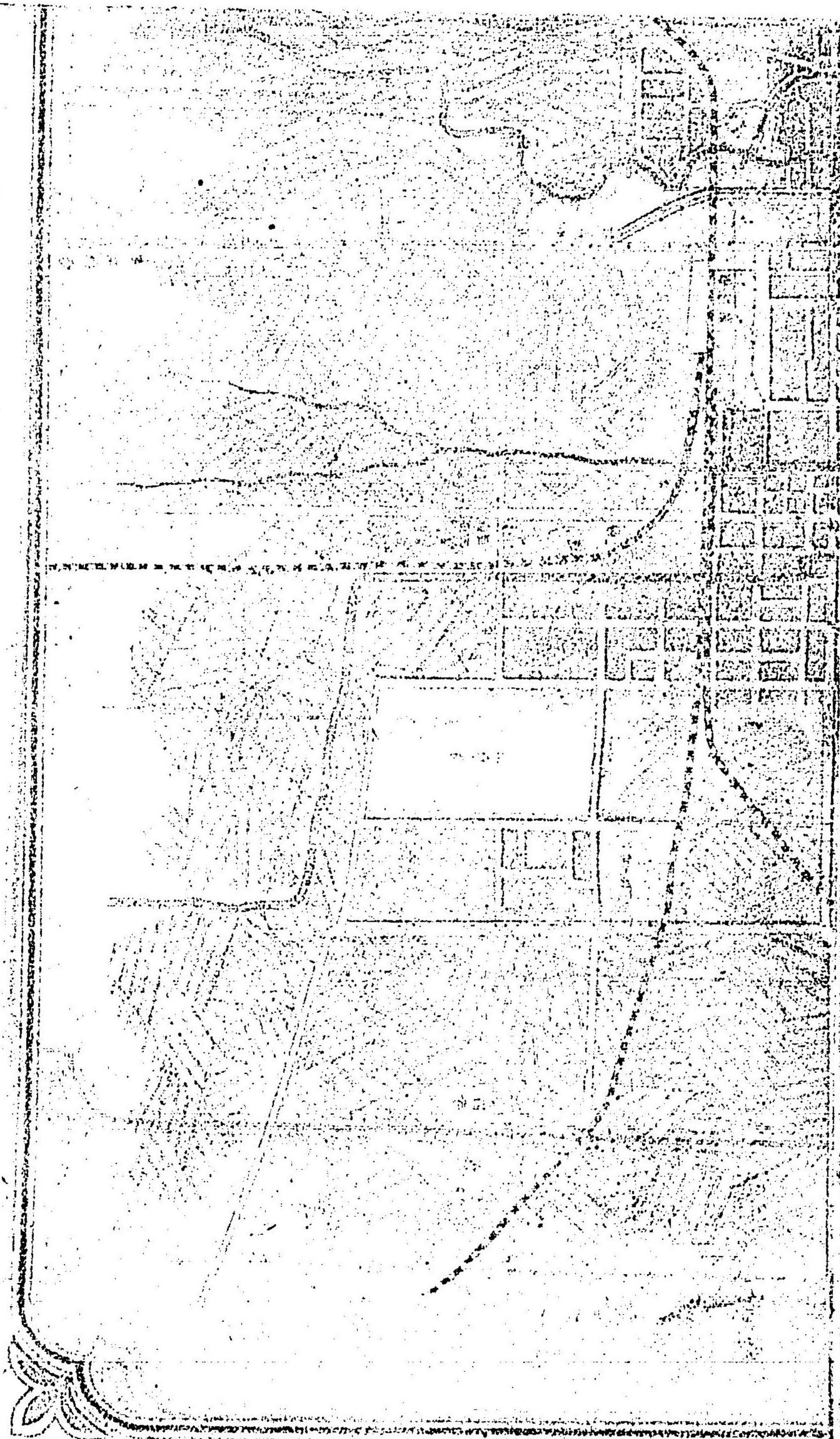


○	名所
—	上下京區分
—	鐵道
—	市街
—	電氣鐵道
—	川
—	田
—	山
—	知

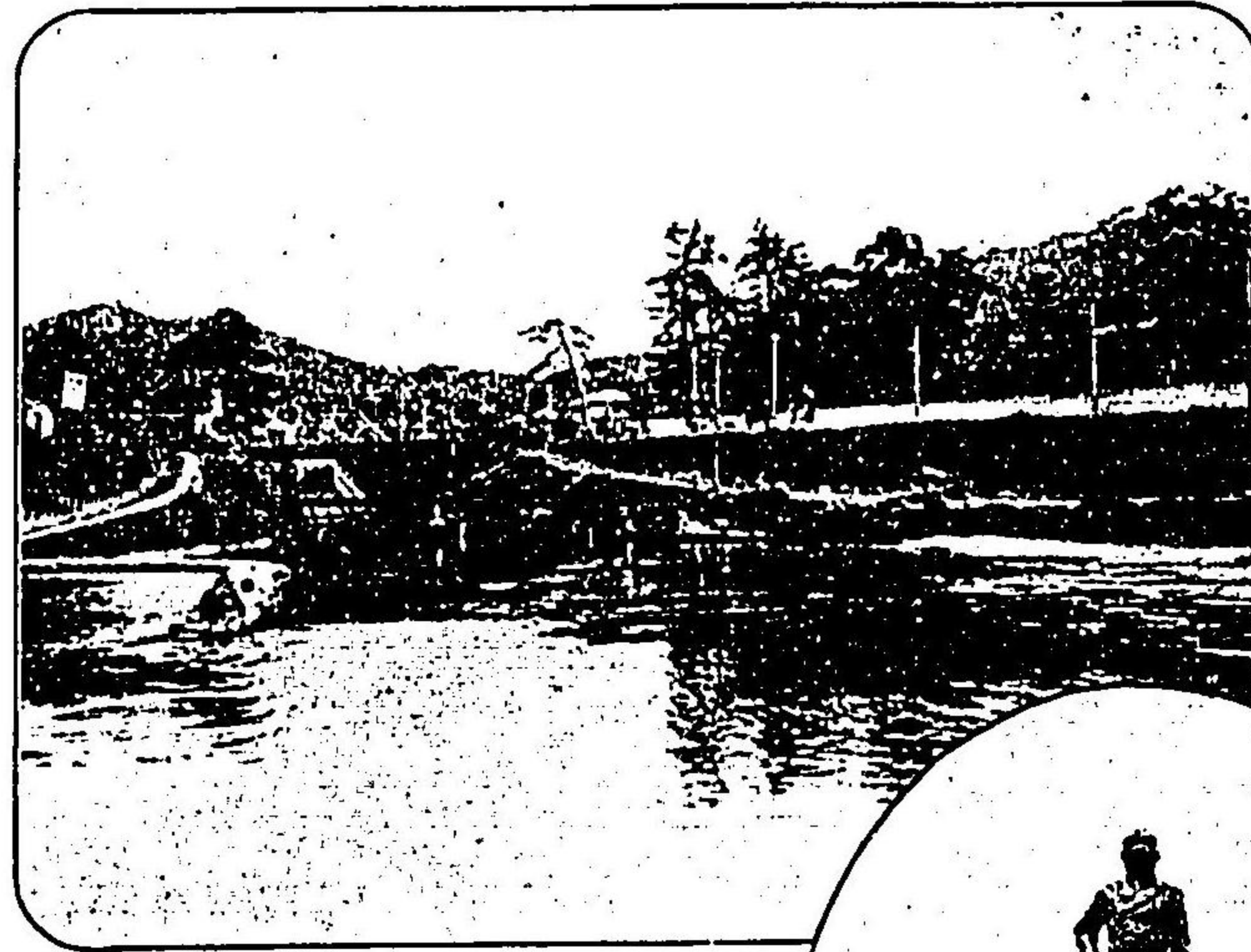
御 所



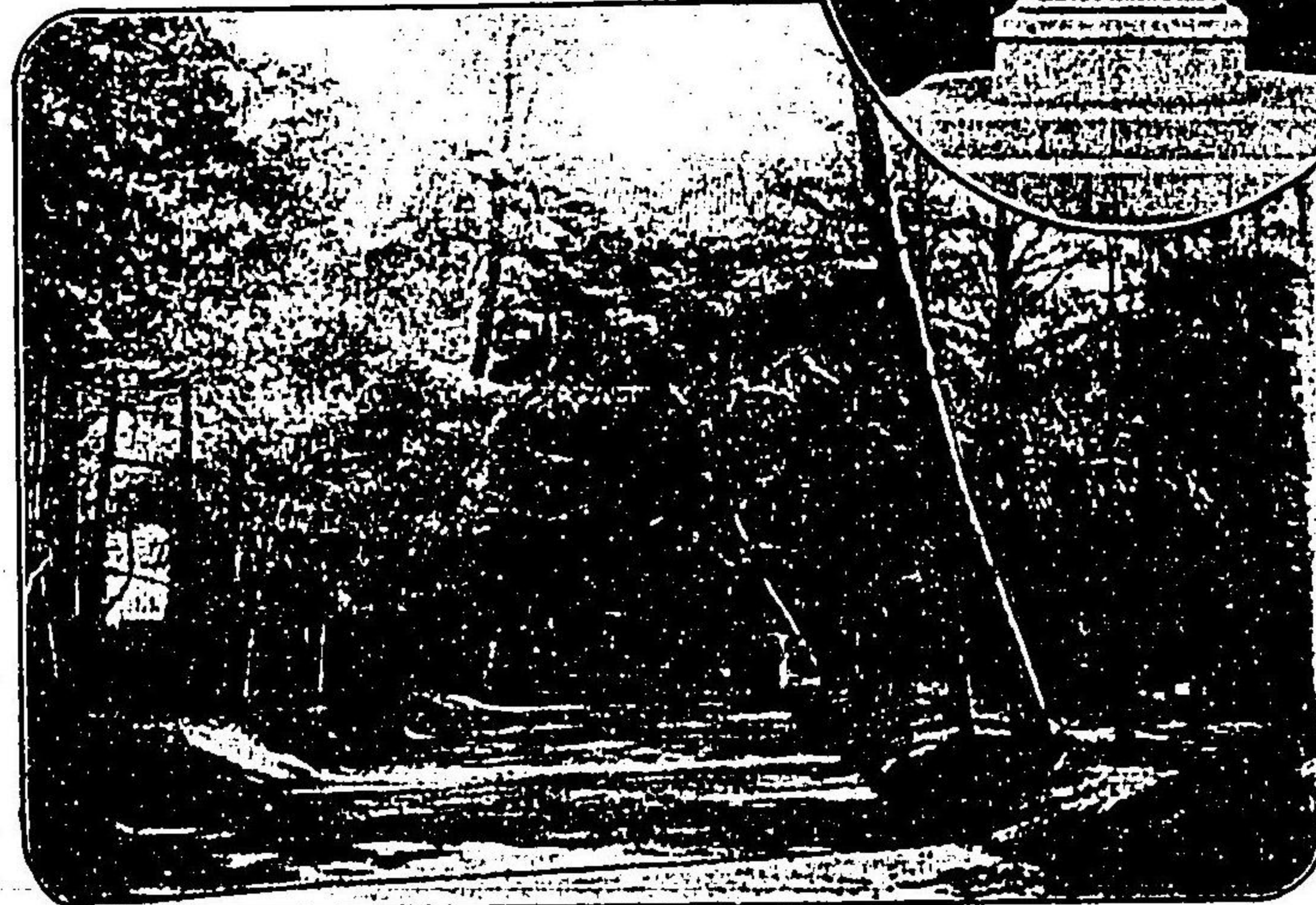
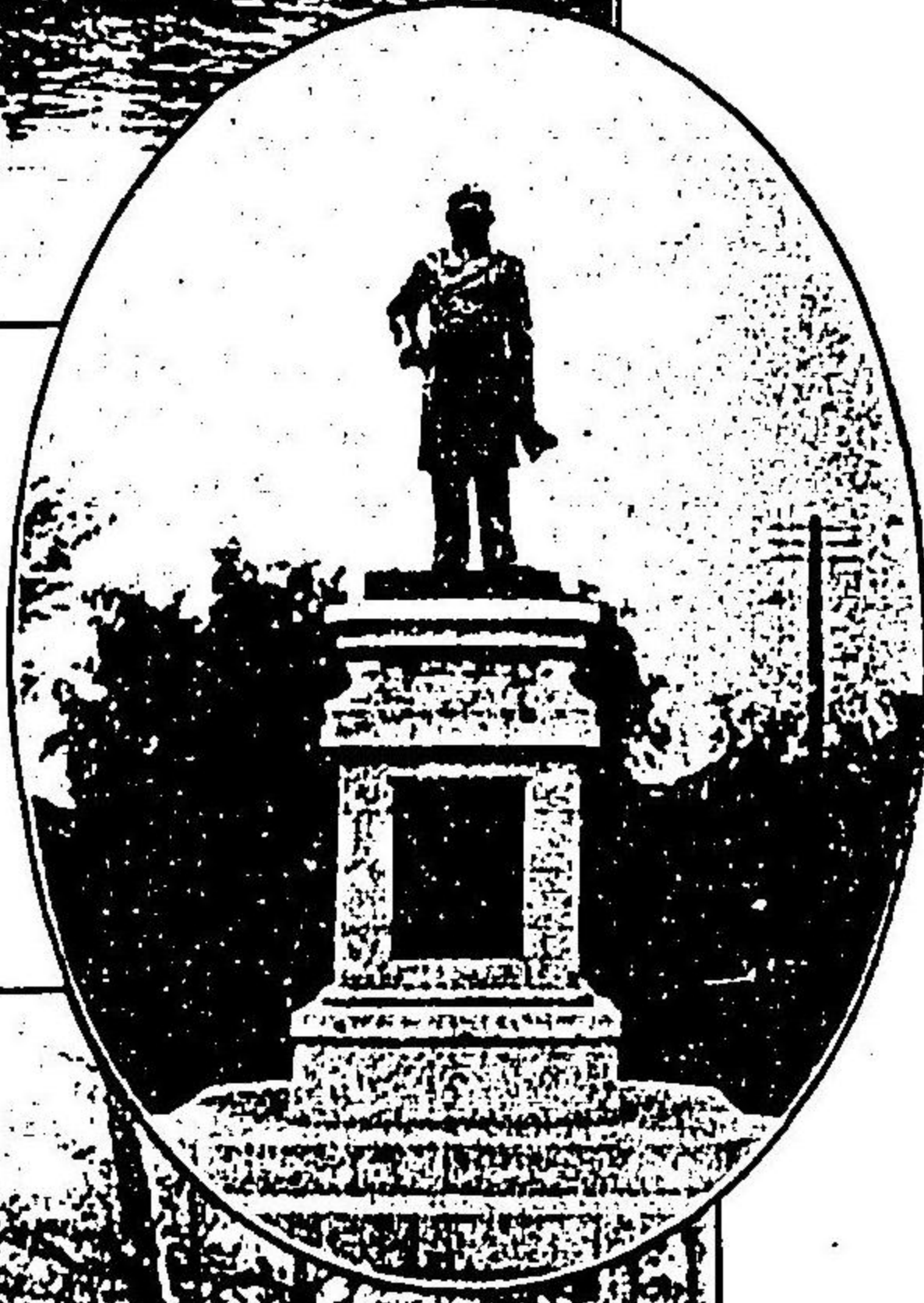
二 後 離 宮



景ノイラケンイ水疏



北垣男爵銅像



門山寺南

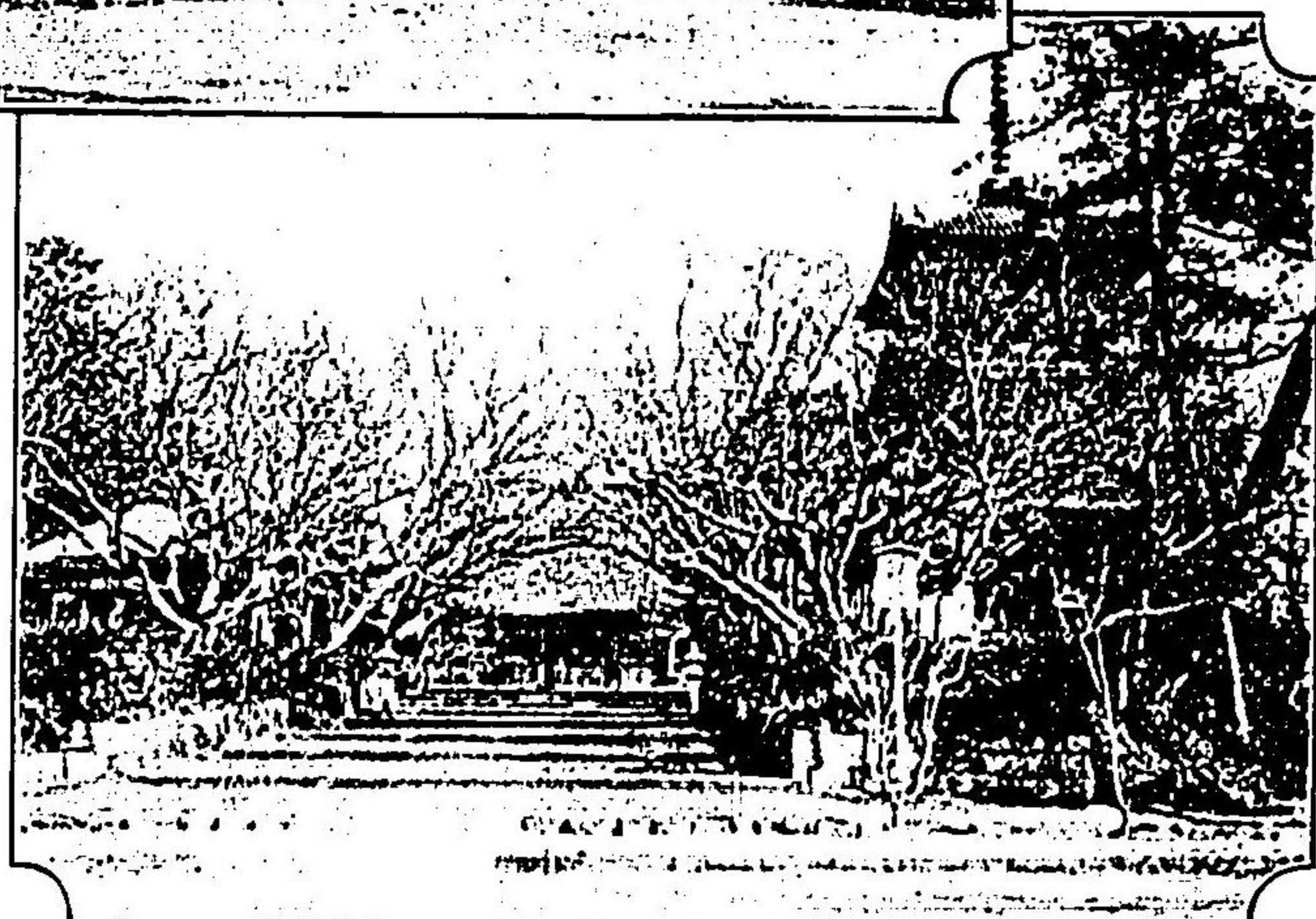
京都御所は上京區御苑内の中央にありて、東西百三十七間南北二百四十六間あり。紫宸殿は正中に位し、西に清涼殿あり、南に宣陽殿あり、東に常御殿あり、東北に小御所あり、其他御學問所迎春殿、皇后殿等尙多し。南門を建禮門といふ、即ちここに撮影せる處にして、御苑の翠松老樹相掩映し、いと莊嚴宏壯を極む。

二條離宮は上京區二條堀川西にあり、即ち舊二條城にして、寛永三年徳川氏は、後水尾天皇の行幸を仰ぎ、天下の諸侯を率ゐ御前に盟ひ、同十一年將軍家光三十萬の兵を率ゐ上洛してここに駐蒞し、二百餘年後家茂上洛の時またここに入り、慶應三年將軍慶喜が大政返上の表を草せしも、明治元年今上天皇の親征の詔を啗ち玉ひしも皆此處とす。雄塚いと白く老松空に吼ゆ。

永 觀 堂



若 王 寺



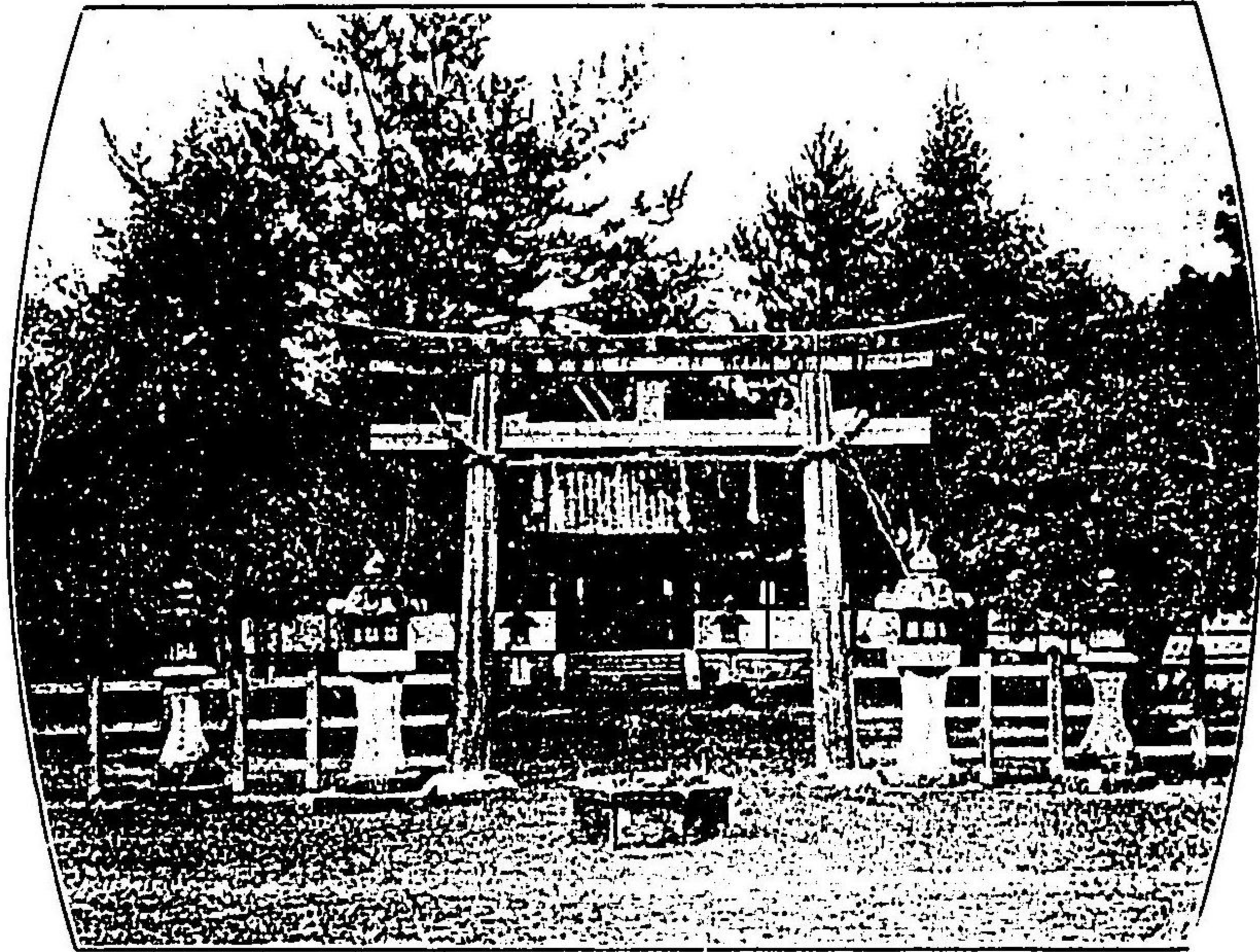
真 如 堂

疏水は近江國琵琶湖の水を疏し、重々たる山嶺を開鑿して之を京都に落し、百般工業の原動力を生じ、併せて運搬、灌漑等に便するものにて、明治十八年工を起し、自後九星霜を経て成る、我國空前の大工事なり。  
インクラインは其一部にしてドラム作用により船舶蠕々として丘陵を昇降す、また奇觀なり。

北垣男爵銅像は  
疏水中島にあり、即ち此大工事の企畫成功者にして、沈毅の態、溫和の容、殆んど揃すべし、其左手にせるは即ち疏水測量圖なり。本像は實に京都に於る銅像の寶天にして、鑄造は當地の平野英帝堂の作に於る。

南禪寺は南禪寺町にあり、禪宗の巨刹にして、五山の上と定めらる。山門は五鳳樓といひ、寛永年中藤堂高虎の建立せしものにて、巍々煥々たり、傍ら老松古柏蒼蒼とし、風光極てよし。

吉 田 神 社



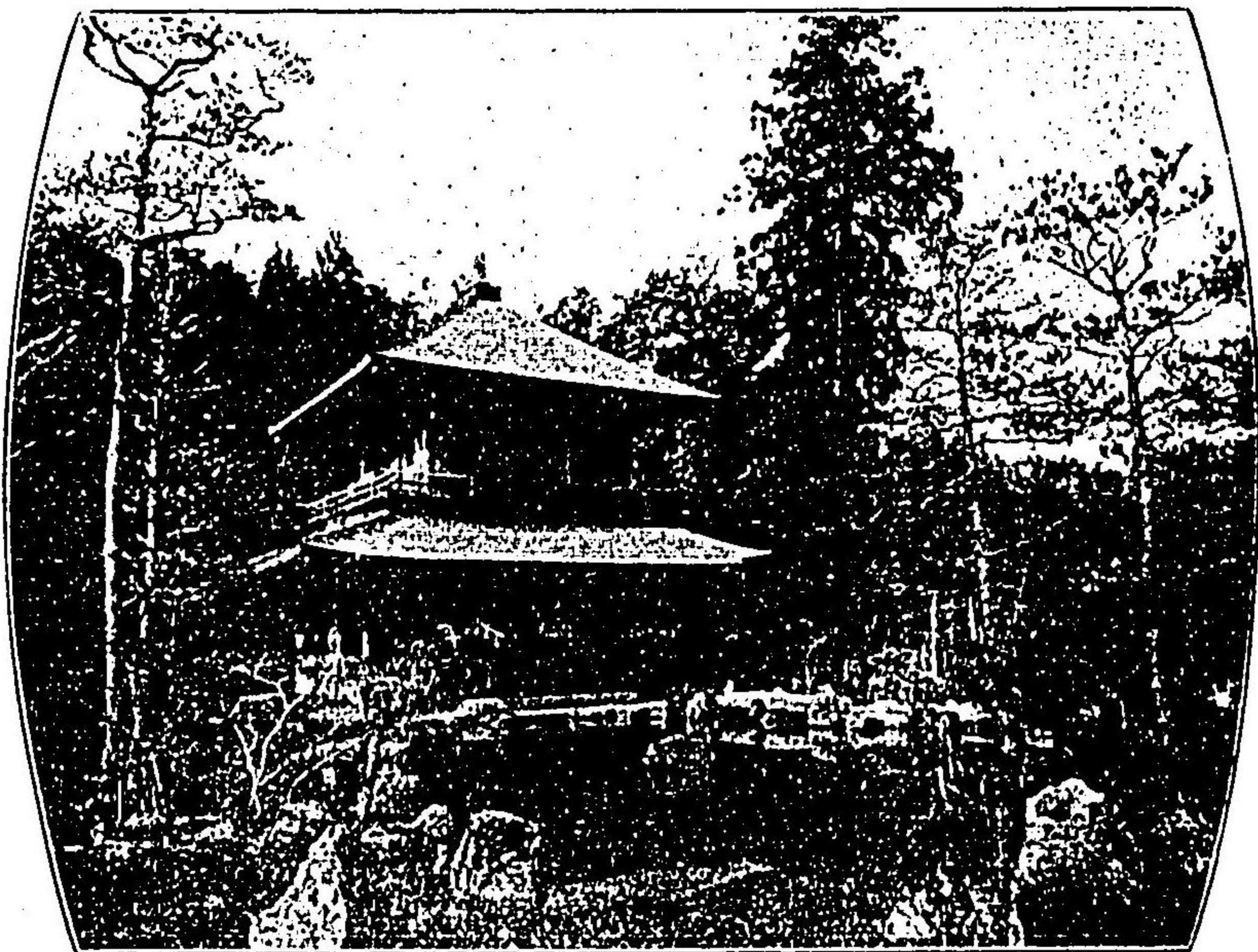
永観堂は前神寺の北にあり、  
來迎山禪林寺と稱し、淨土宗  
西山派の本山なり。本尊は願  
階(みろ)の本尊とて世に  
名高し。境内に辨天池あり、  
池畔は楓樹多く、晩秋の景は  
實に錦天鋪地となす。

若王寺は永観堂の北にあり、  
紀州熊野神社を勧請し、後白  
河天皇の創立なり。山上櫻楓  
樹多く、溪間に三箇の瀑布あ  
り、四邊幽邃にして夏季晩秋  
共によし。

(有 功)  
名に高き瀧の白糸

されはこそ  
花の錦も  
おりいたしけれ

眞如堂は吉田町にあり、本尊  
阿彌陀佛は慈覺大師の作な  
り。本堂の外、元三大師堂、藥  
師堂、三重多寶塔等あり。境  
内楓樹多く、三秋の眺めは幽  
麗甚の如し。



銀 閣 寺

下加茂神社



糺  
森

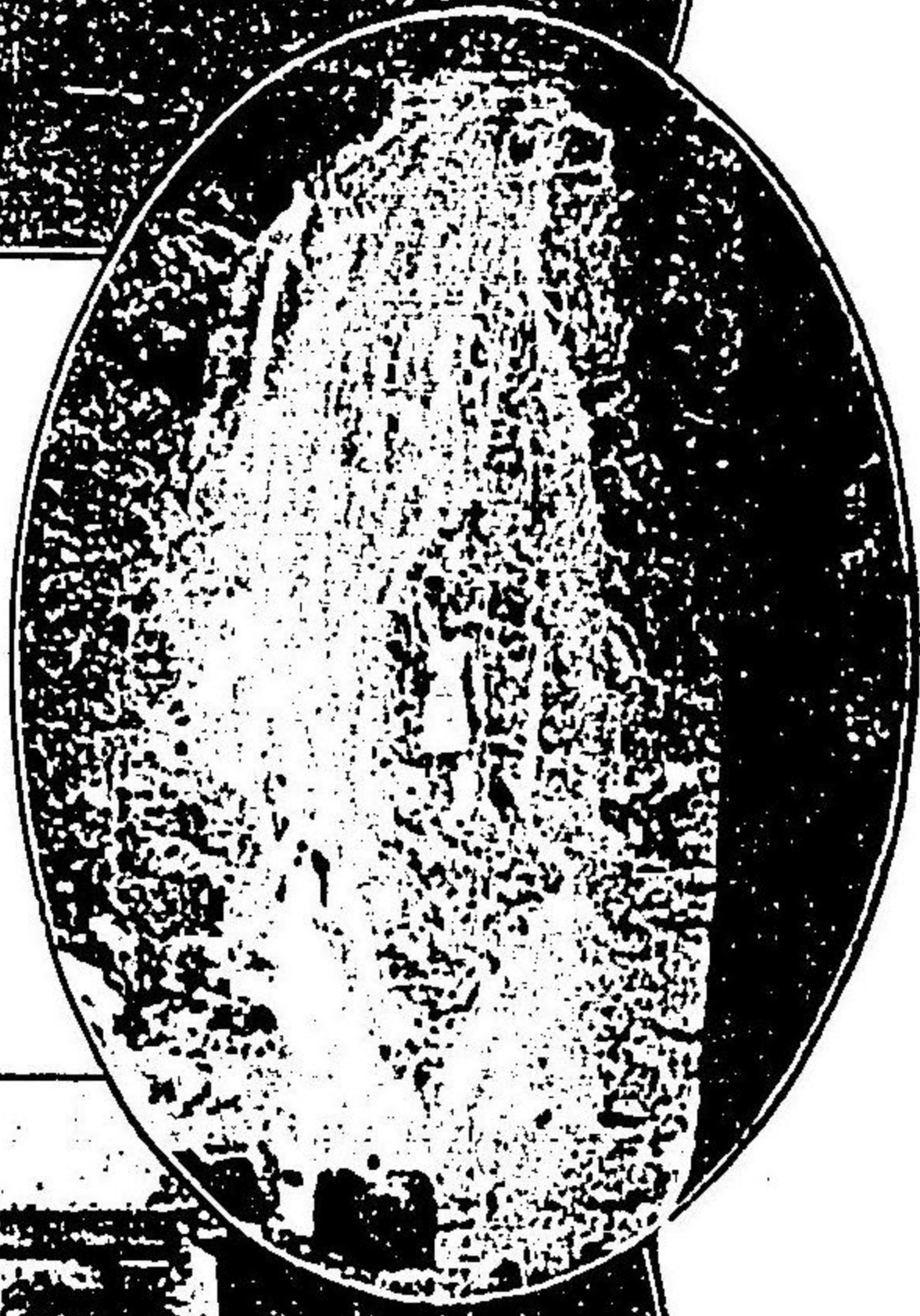


知恩寺

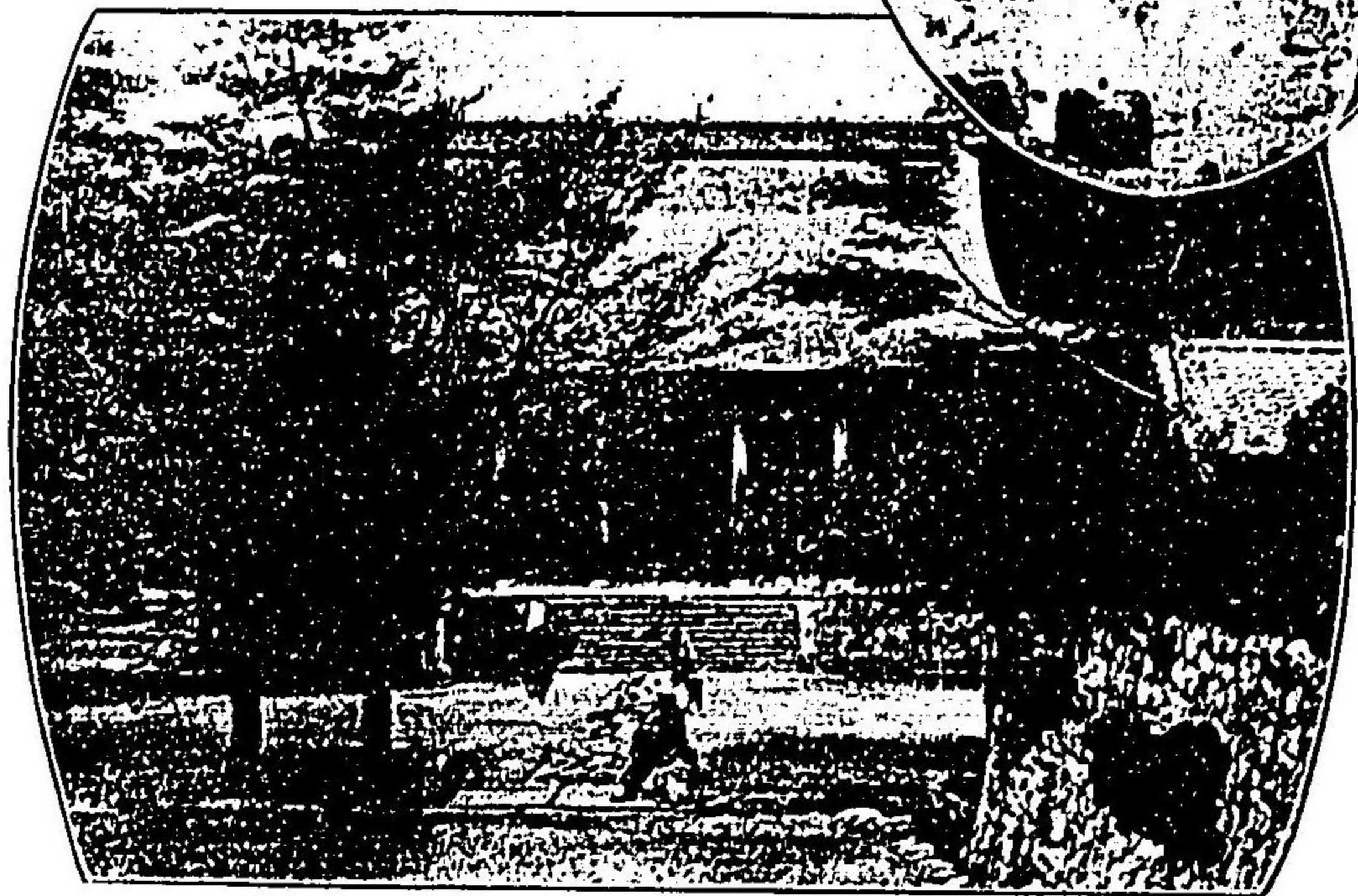
吉田神社は吉田町河原岡にあ  
り、官幣神社にして、貞觀三  
年中納言藤原山陰始めて祀る  
處とし、祭神は武甕槌命、齊  
主命、外二座を鎮す。殿舎壯  
麗にして、境内幽邃、神さび  
ていと尊し。

銀閣寺は淨土寺町にあり、禪  
宗にして慈照寺と號し、夢想  
國師の開山なり。舊は足利義  
政の山莊なりしが、豊去の後  
遺命により任利とす。銀閣は  
二層閣にして、上層を心空殿  
といひ、下層を潮音閣といふ。  
庭苑は相阿彌の作にして、奇  
樹名石多く、樓閣と掩映して  
風光いはん方なし、實に東山  
の名刹なり。

三 千 院



音 無 瀧



來 迎 院

下加茂神社は愛宕郡下鴨村にあり、官幣大社にして火雷神、並に玉依姫を祀る。欽明天皇の御宇創祀なし、天武天皇の白鳳五年始て殿社遺營あり、桓武天皇遷都以來歴代の天皇崇敬いと厚し。殿社樓門頗る壯麗にして、共に古代の式を存す。

乳森は、下加茂神社の社頭に於て源泉涌出す、下流を御手洗川といふ、四邊幽邃にして夏時納涼によし。毎年七月中旬より三週の間、御手洗會あり、則ち古代経綫の遺風なり。

君を祓る心の奥を  
人とは、  
たすの宮と  
あけのたまぐさ

知恩寺は愛宕郡田中村にありて、淨土宗鐵西派の本山なり。元弘年中國中疫癘大に起り、死者其數を知らず、當時の住職善阿上人後醍醐天皇の勅を奉り、七日間専心念佛するこゝと一百萬回に及び、惡癘忽ち止む、因て百萬遍の號を賜ふ。堂殿宏壯なり。



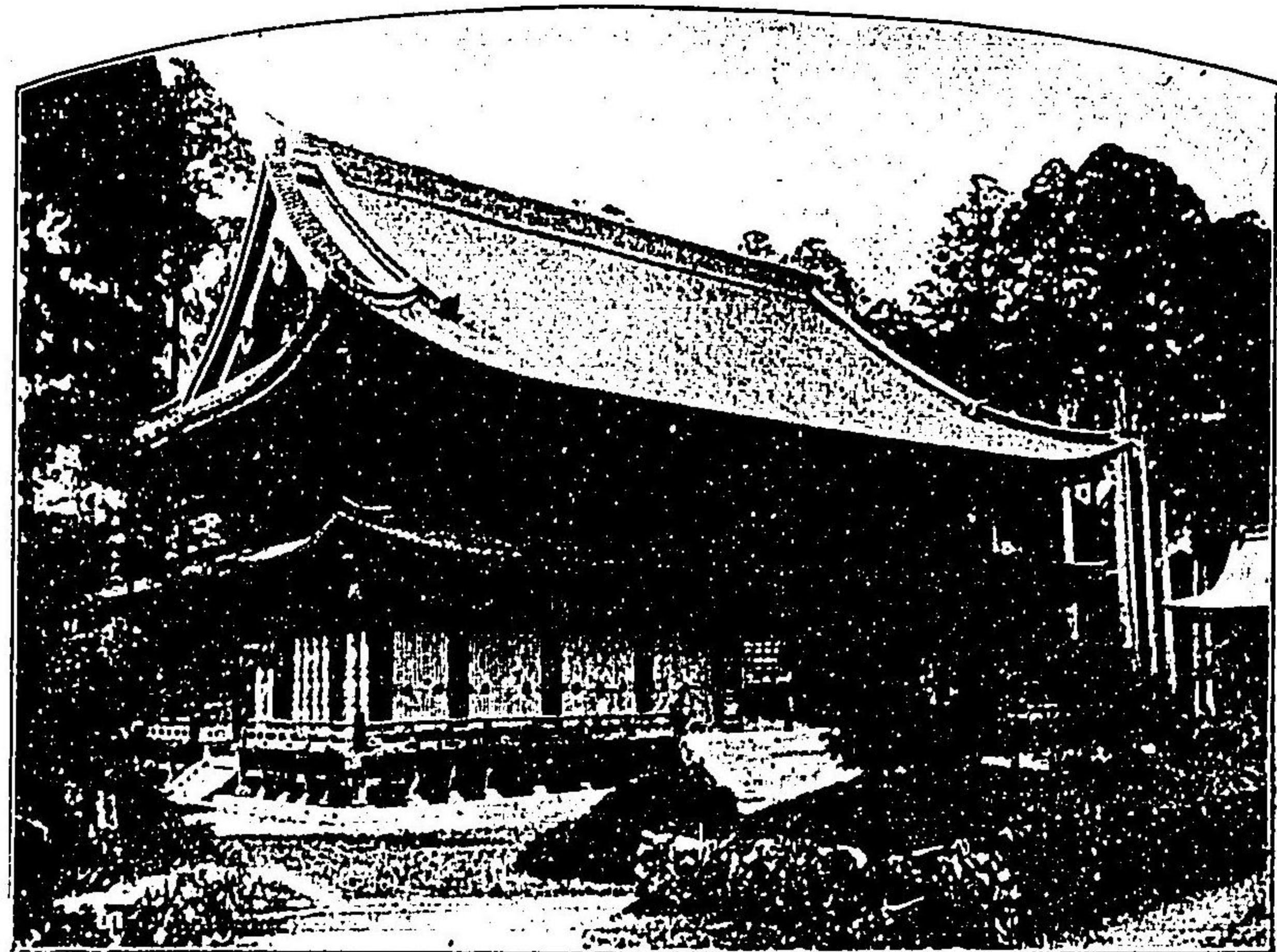
三千院は愛宕郡大原村にあり、開基は傳教大師とし、天台座主の住院にして、殿舎雅潔なり。門前の馬場は櫻樹多く、大原女の頭上に茶など頂き來るさま頗る雅趣あり。また附近に呂川、清和井水等の名所あり。

音無淵は三千院の東、數丁の奥にあり、高さ凡そ二丈にして、一條の瀑布岩壁を傳ひて靜かに流れ下る、因て音無と名く。四邊は樹木鬱蒼とし、夏日も尚ほ寒きを覺ゆ。小野山のうへより落る (西行) 瀑の名の音なしにのみ ぬる、袖かな

來迎院は三千院の東にあり、本尊藥師佛は行基の作、左釋迦、右阿彌陀佛は惠心の作なり。本寺は聲明音律の本山にして、堂宇の規模悉く支那天台山に則り、建築見るべし、堂傍に獅子石あり、其忍和尙文珠の法を修せし時、此石獅子と化し吼たりといふ。

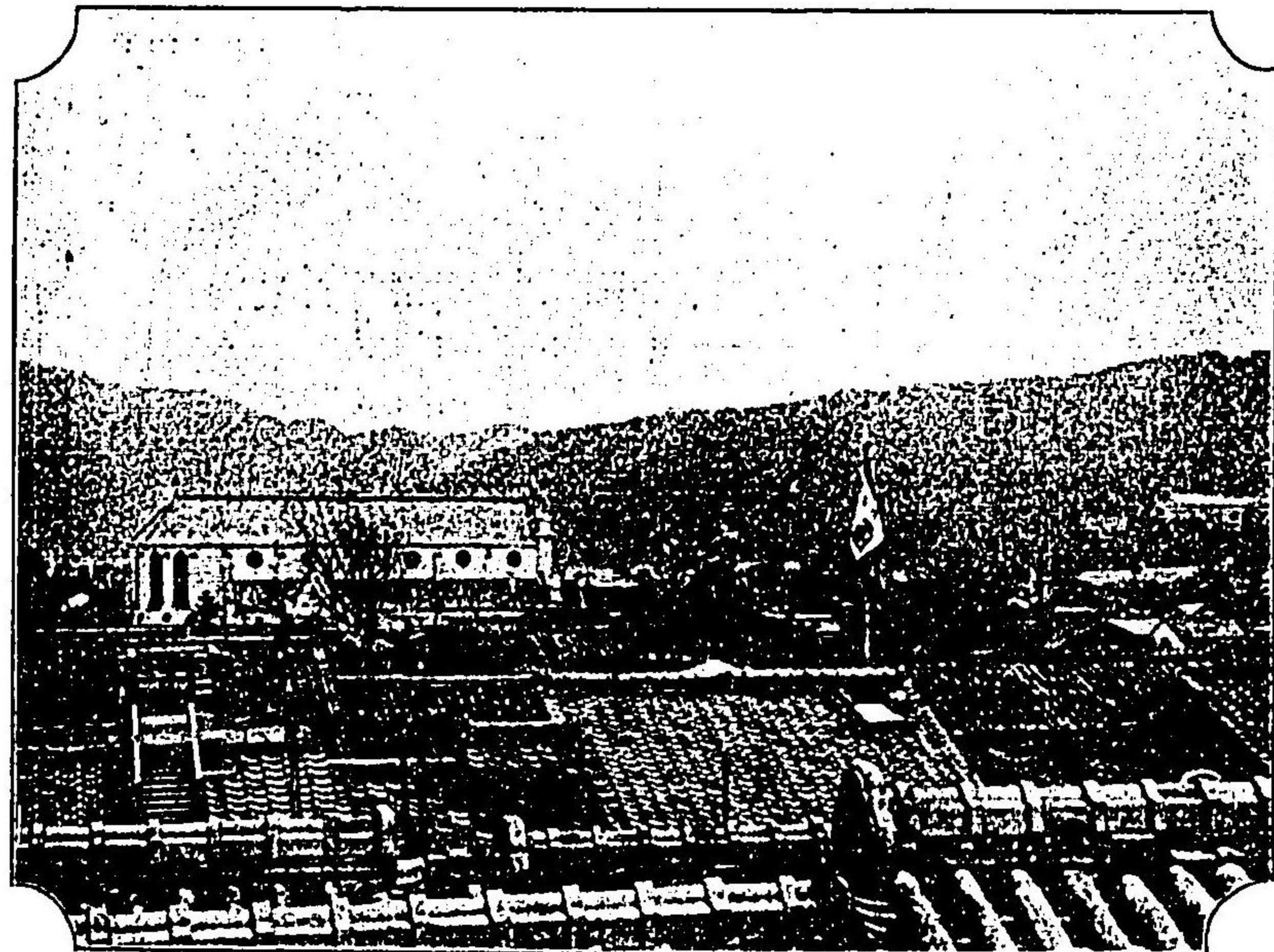


比 叡 山



根 本 中 堂

景ハ望ヲ街市リヨ山東



景ハ望ヲ山東リヨ街市

比叡山は山城の良位に横はる  
大嶽にして、往昔桓武天皇  
都の初め、傳教大師に勅して  
伽藍を此山に造營せしめ、以  
て玉城の鎮護となし玉ふ、山  
勢雄峻として、朝暈晚紫尤も  
入目を爽にす。

(入江兼通)

山枕平湖一踏更除。風氣佳  
氣鎮京華。飛樓湧閣神僧  
座。枯木寒巖羽客家。九折  
坂連。青草渡。四明洞對。赤  
城霞。東方亦有天台勝。  
欲下蓬。劉郎。飯中熟麻。

根本中堂は叡山東塔にあり、  
延暦七年傳教大師の創立にし  
て、鎮護國家の道場となす。  
銅扉丹柱にして、梁椽等藻繪  
を極め、瓊城燦爛たり。常堂  
の常燈は其昔。大師の手づか  
ら點せし處にして、千有餘年  
の久しき曾て滅せしことなし  
といふ。

阿耨多羅三藐 (傳教)

三菩提の佛邊

我立柚に

冥加あらせ玉へ

圓山公園夜櫻



八坂神社

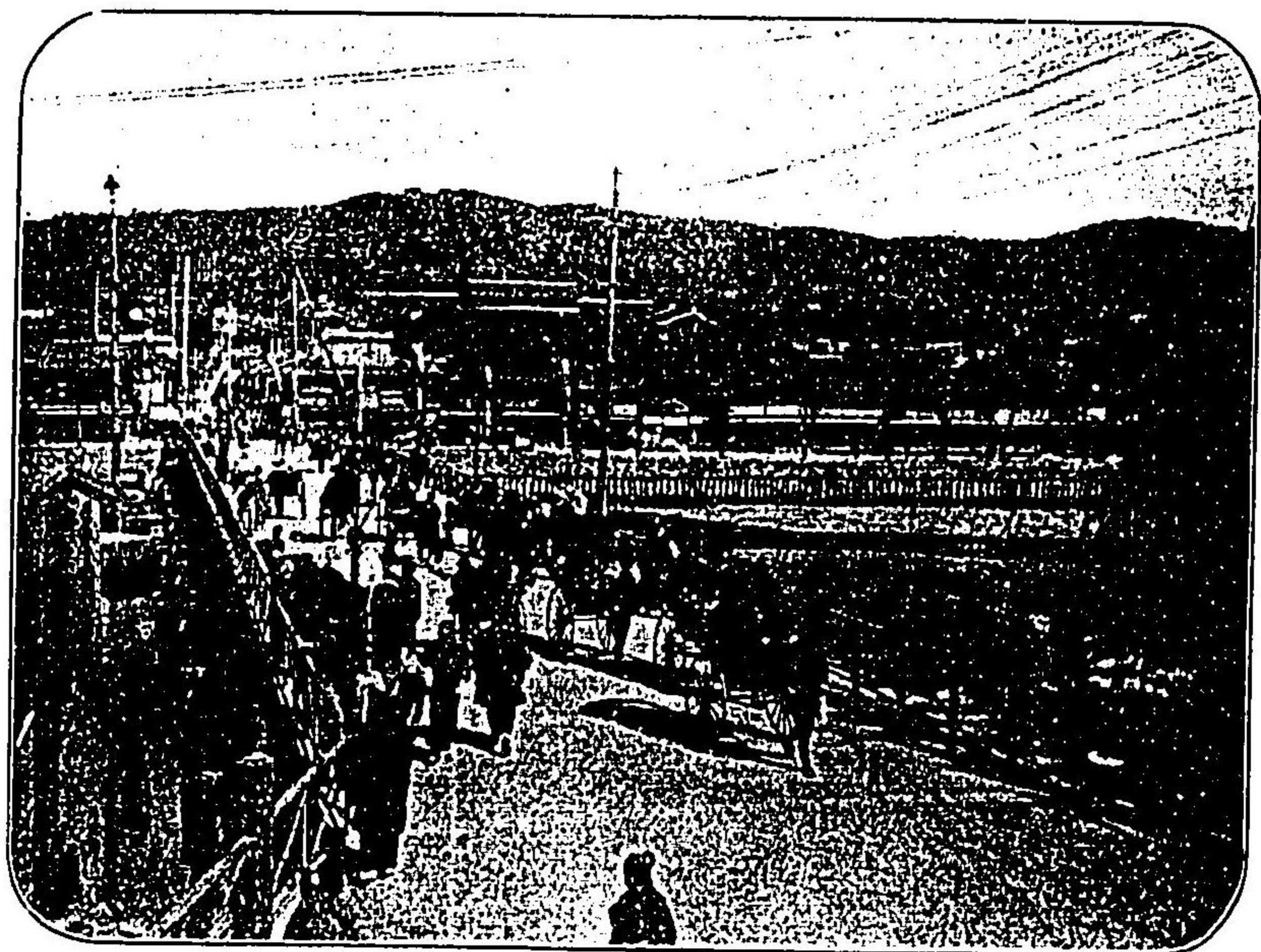
東山は洛東諸山の總名にして北の方如意嶽より、逶迤として稻荷三ヶ峰に至る、概して三十六峰と稱す。山上神祠伽藍多く、楹によりて京洛萬葉を認めば、楹比鱗次、直ちに一陣の下にあり、雪の暎、霞の朝ぼらけ風光最もよし。

山たのみ都の春を（高倉）  
みわたせば  
た、一むらの  
霞なりけり

市街より東山を望めば、山容温藉にして恰も臥するが如く、春は櫻花峰々の間に白く、夏は新樹の緑滴らんとし、秋は楓葉錦繡を晒し、冬は瑠璃玉樹を現し、四時一として佳ならずなく、殊に幾多の塔尖影其間に参差とし、最も掩映の趣を極む。

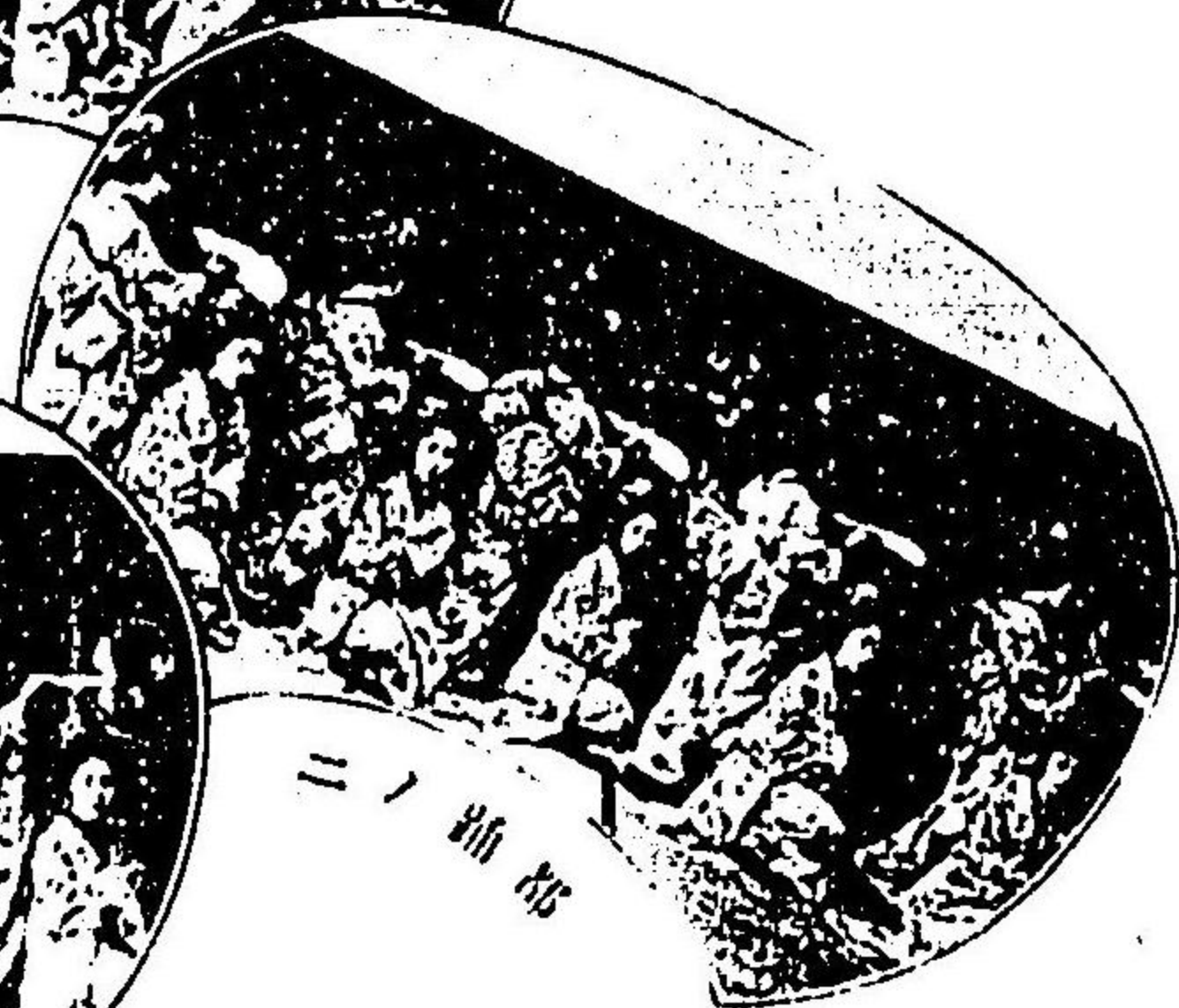
（頼山陽）  
日掃屋押午風晴。已認東山  
花事繁。寺々紅雲供三指點。  
高爲三長樂二下知恩。

四 條 橋



四山公園は東山の麓にあり、樹木鬱鬱、空氣清涼、最も都人の憩處に適す。中央小丘の上には稀有の大垂絲榎あり、毎年花時に至れば、萬餘の垂絲は紅色風氣として、恰ながら瑤塔の空にのびる如く、其美觀いふばかりなし。夜に入れば其下に篝火を焚き、茶店酒舖は數千の紅燈を點し、遊人群集して酔歌觀賞す、之を夜櫻といふ。春宵一刻、其直たゞに千金のみならず。

都踊ノ一



三ノ踊都

八坂神社は四山公園の西にあり、祭神は素盞鳴尊にして、稻田姫、八王子を合祀せり。殿舎壯麗にして、拜殿、神樂殿、拾馬堂等多し。境内は廣大にして、神威の赫灼たるを、東山勝區の中心なるを以て、參詣の士女日夜織るが如し。有名の祇園會は當社の祭禮なり。

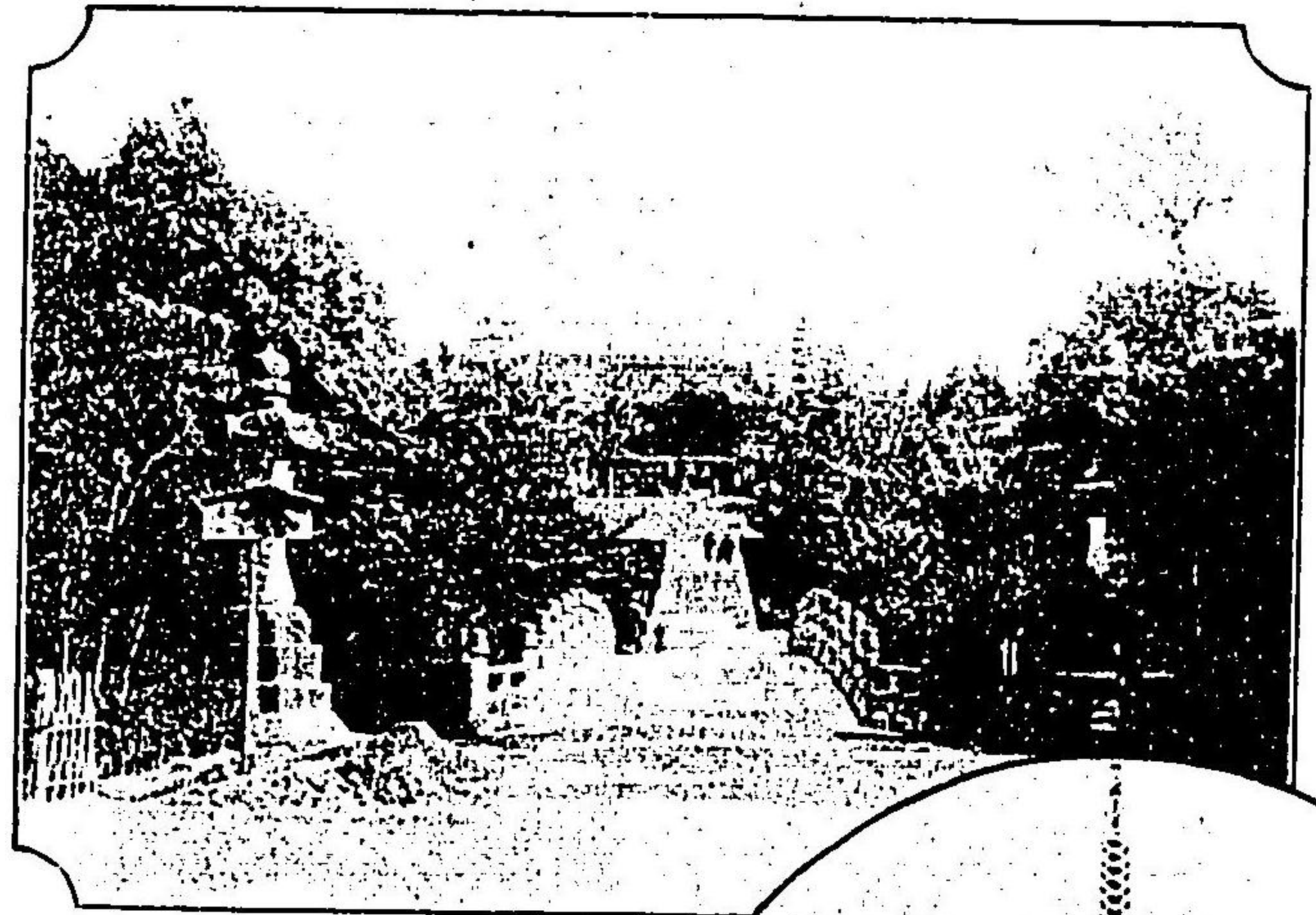
昔よりみいつ (忠起)

かしこみ諸人の

つとよ八坂の

神の園々な

西 大 谷



八 坂 塔



高 寺

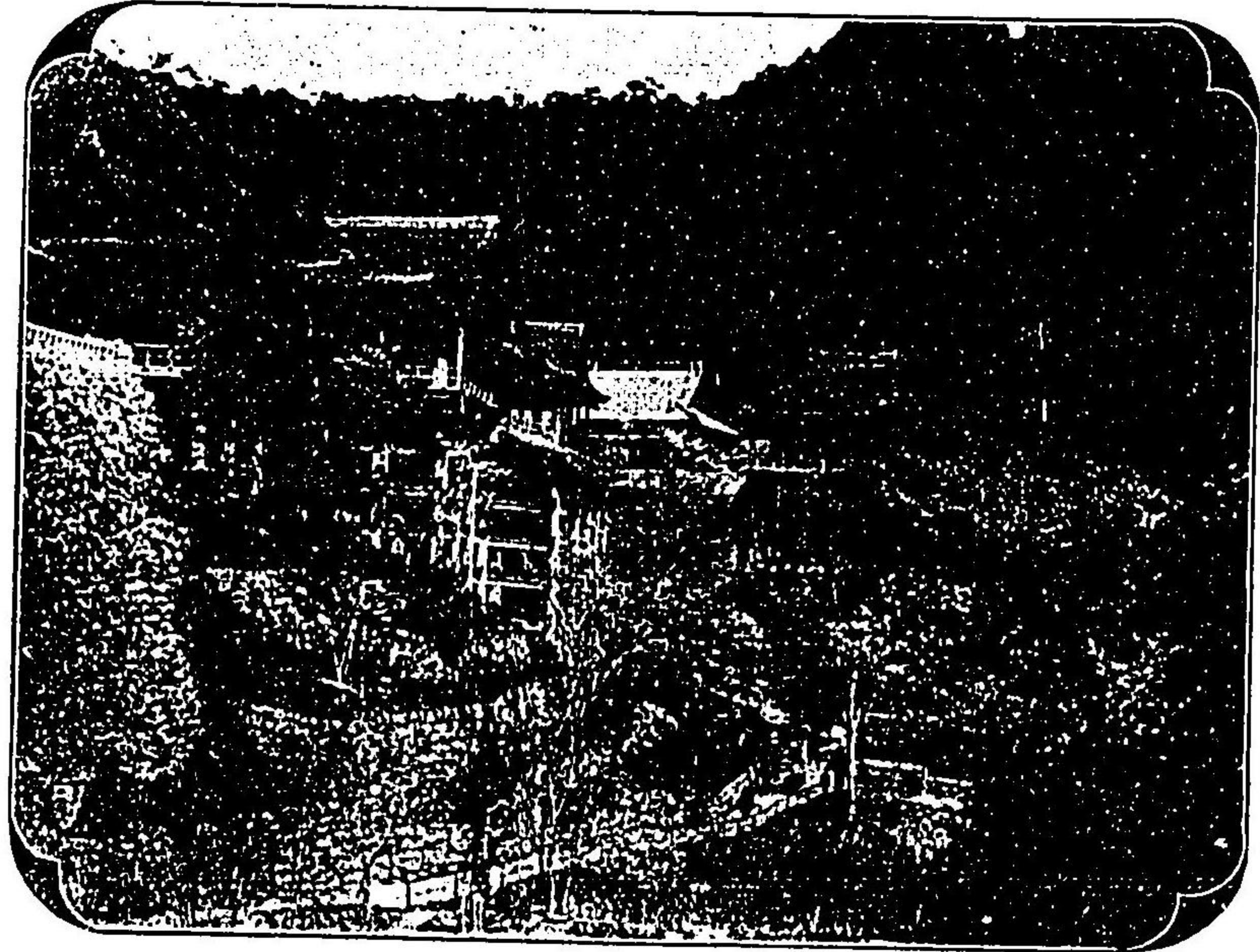
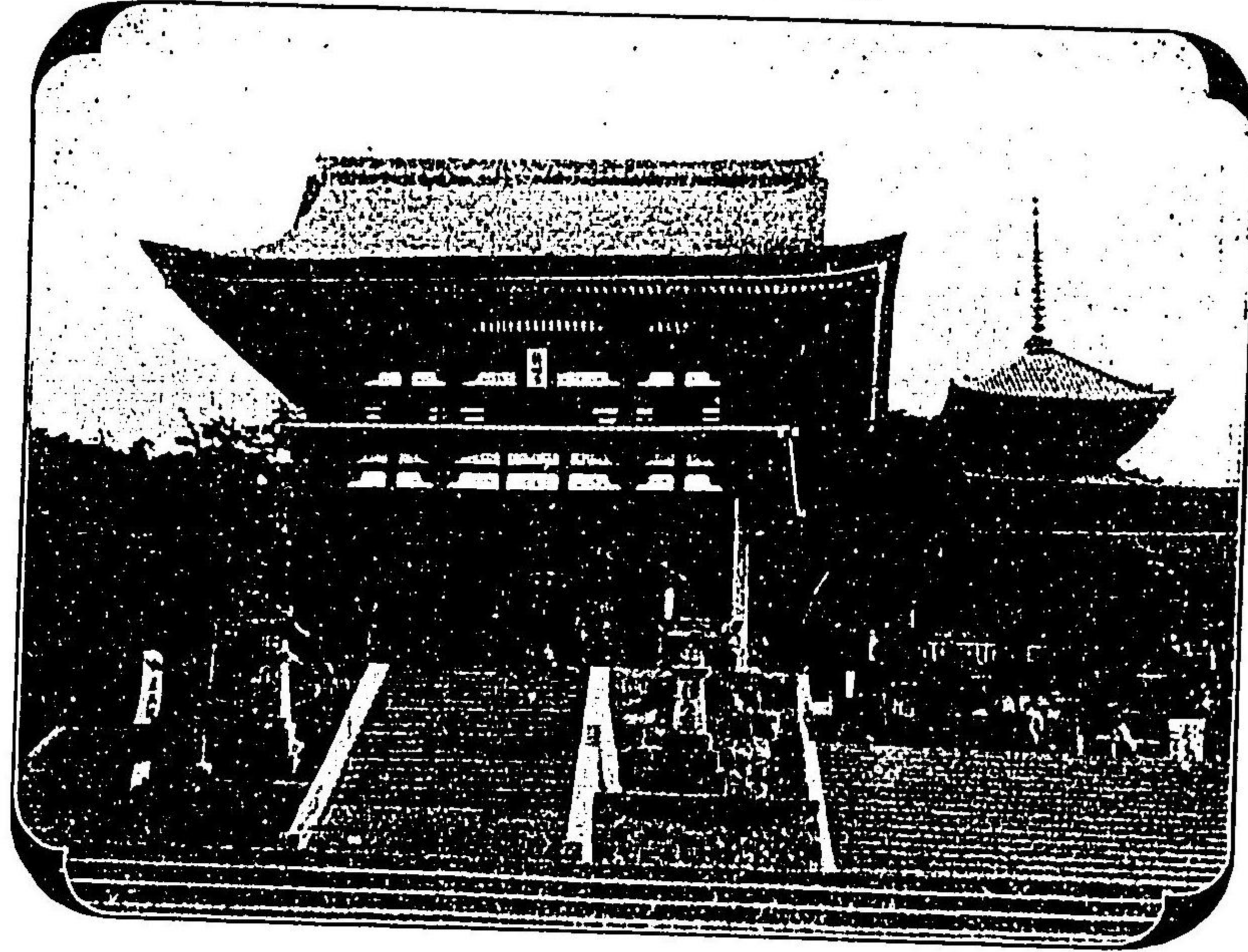
四條橋は四條通鴨川に架す、石柱にて鐵欄を設け、長さ五十四間、幅四間あり。橋東は紙園新地に連なり、橋西は先斗町に接し、直ちに四條通に逆す。京都繁華の中心にして橋上人馬の往來織るが如く、欄に凭りて東を望めば、六々峰巒綿々として翠を拖き、四山の樓臺、花頂の佛閣、歴々として指點すべし矣。

都踊は京都の一名物にして、毎年四月上旬より紙園花見小路、歌舞練場にて開催す。舞臺の構造裝飾善美を盡し、地方、親子、踊子等いづれも華

麗なる揃への衣裳を着し、年々新作の歌曲に合せ、兩隊の美女侖々として練出し、金鉦華發は燦爛たる電燈に映り、粉として立舞ふさま、嬌艶いはん方なし。

觀：都踊（成島柳北）  
隊々紅粉合又分。  
釵光扇影映雲雲。  
看來粉陣多殊色。  
不讓吳宮舊女軍。

清水寺入口



清水寺本堂

西大谷は五條橋通東端にあり、真宗本派本願寺の廟所にして、親鸞上人の本廟なり。門前の池を皎月池といひ、之に架するを圓通橋といふ、世に眼鏡橋と稱す。池には蓮花多く、附近には櫻柳の名種を雜栽し、實に洛東の名境となす。

八坂塔は清水三年坂の下にあり、聖徳太子の創立にして、日本寶塔の嚆矢なり。世勢嵯峨天牛に湧出し、六波羅全盛時代には、此塔を以て軍兵の遠見所に供せしといふ。

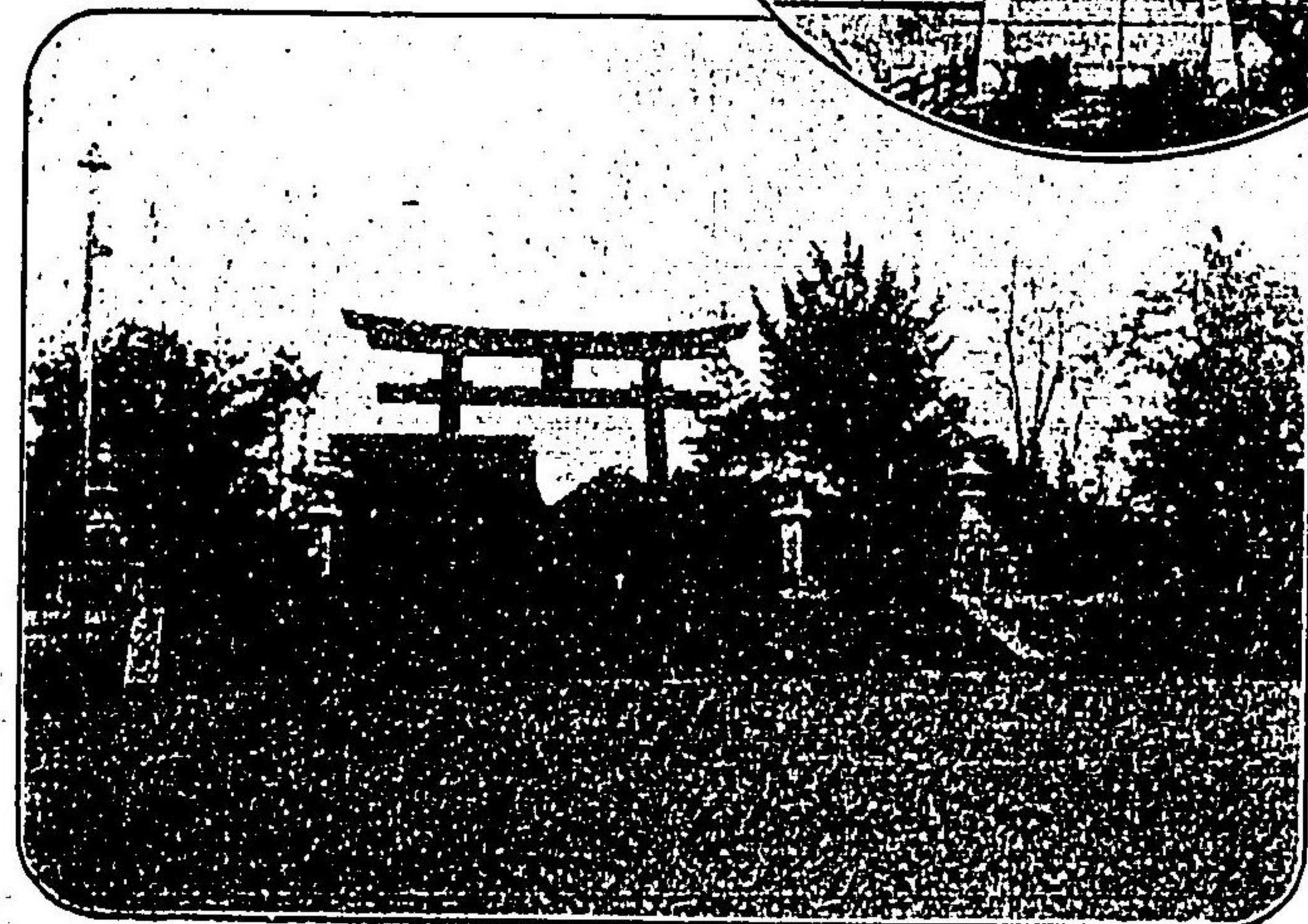
高臺寺は八坂塔の東北にあり、聖徳太子の夫人北政所高臺院の建立にして、開山堂、並に太閤及び夫人の靈舎は、魂麗いはん方なし。此園は兩方丈より開山堂に通ふ、樓船廊を擬影せしものとす。



大 佛 釣 鐘



豊 國 廟



豊 國 神 社

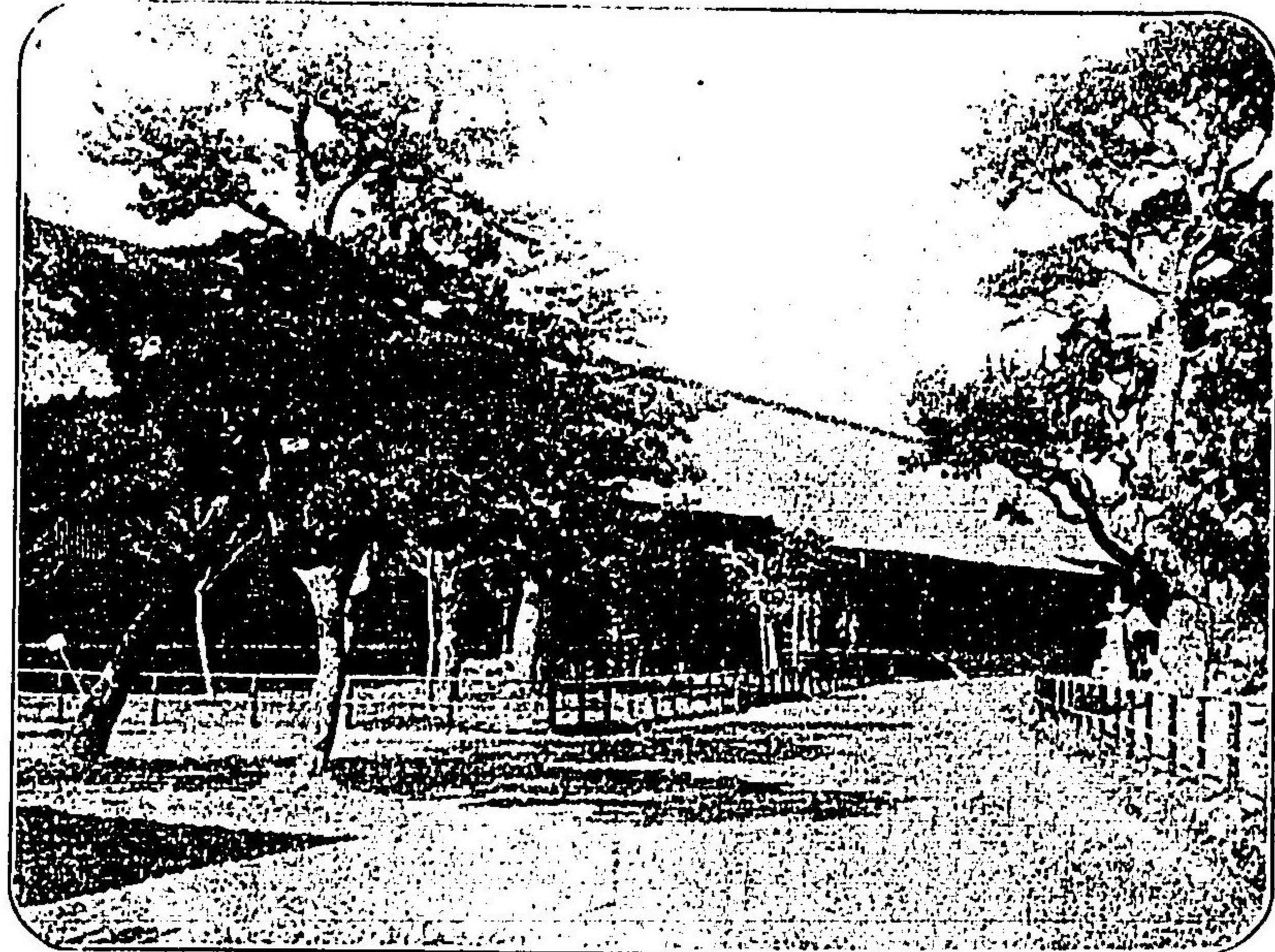
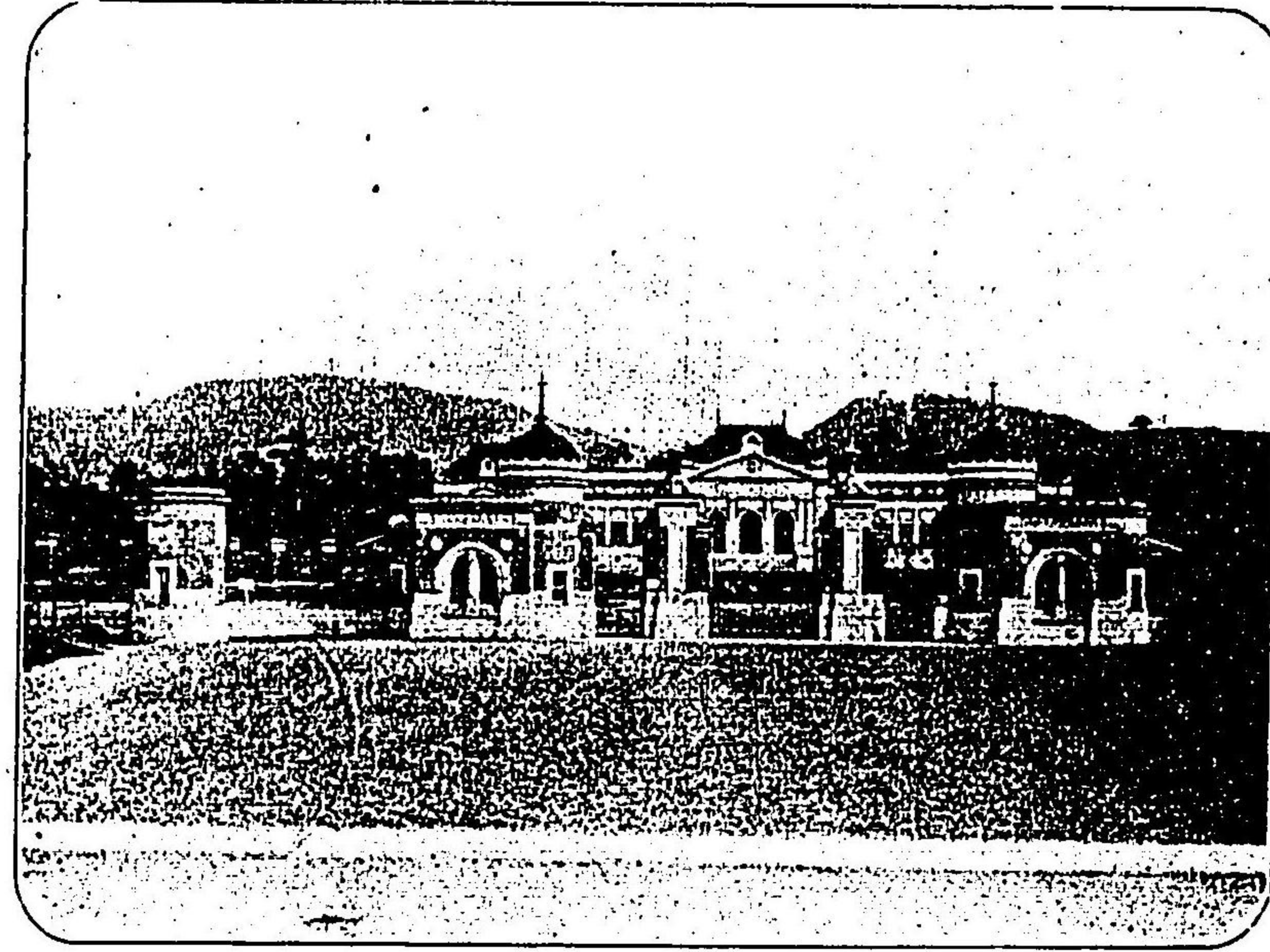
清水寺は清水町一丁目にあり  
大同二年將軍坂上田村麻呂の  
創立せし名刹にして、堂塔伽  
藍重々として極めて多し、櫻  
門は丹青燦然とし、左右に金  
剛力士を安んず。縁樹掩映し  
て、爽氣まづ面を撲つ。

清水寺本堂は柏皮葺殿舎造り  
にして、懸崖に凭り臥築し、  
前に舞臺を架す、世に之を清  
水の舞臺といふ。其他奥院、  
地主權現、田村堂等悉見す。  
音羽山は蒼翠濛々として後に  
翠岫、有名の音羽瀧は涼然と  
して其麓に鳴る。

登三清水大悲閣

(龍公美)

崗砂峻峭古佛樓。登臨縱  
目此中遊。九街春老神州色。  
匹練雲含鴨水流。初地泉鳴  
懸石上。晴天花散遍。欄  
頭。到來觀。世風塵外。始悟  
吾生如。是浮。



豊國廟は阿彌陀ヶ峰にあり、豊太閤の唐葺なり。太閤薨去後、に壯麗なる社殿を造營せしが、徳川氏の世に至り破毀せられ、自後二百餘年間荒弊寒燔に委せしを、近年更に之を修築せり。山上に高さ三十尺なる五輪の大塔屹然として輝け、風雲もまた色を變ず、眞に偉觀といふべし。

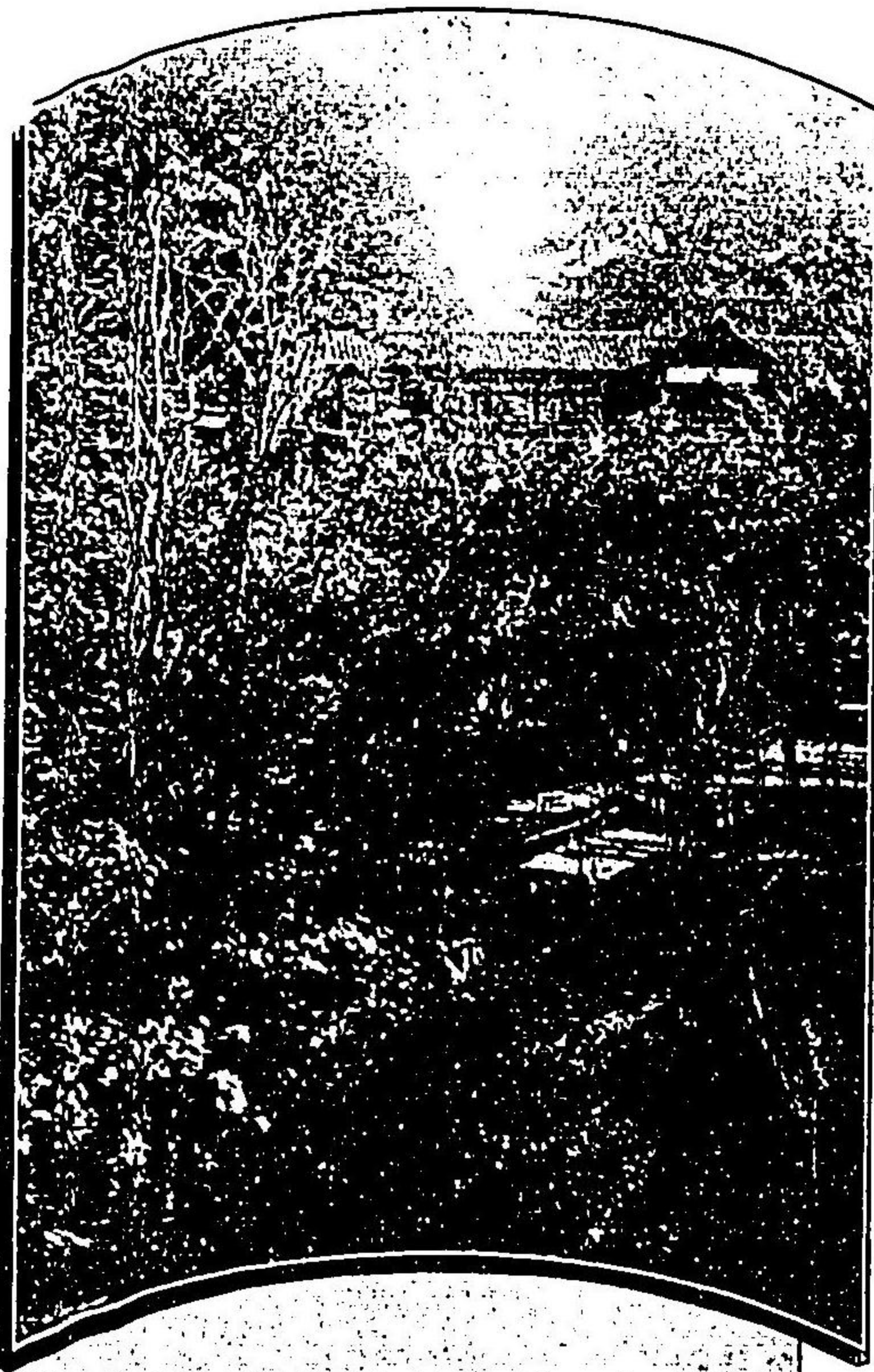
大佛洪鐘は伏見街道正而通東方廣寺にあり、慶長十九年豊臣秀頼の鑄造せしものにて、國家安康の銘文より物議を生じ、遂に豊臣家滅亡の因となりしは世の知る處なり。たゞし銘文は今銷磨せり。

豊國神社は方廣寺の南にあり豊太閤を祀る、即格官幣社なり。表門は桃山城より移せしものにて彫鏤觀るべく、社前の燈籠は名工與次郎の作なり、境内森多し。



京都帝室博物館は豊國神社の南にあり、明治二十五年六月工を起し、同二十八年十月に至り落成す。建築宏壯輪奐にして、本館を十七室に分ち、繪畫、彫刻、武器、圖書、其他稀有の寶物を蒐集す。庭園また極めて淨潔なり。

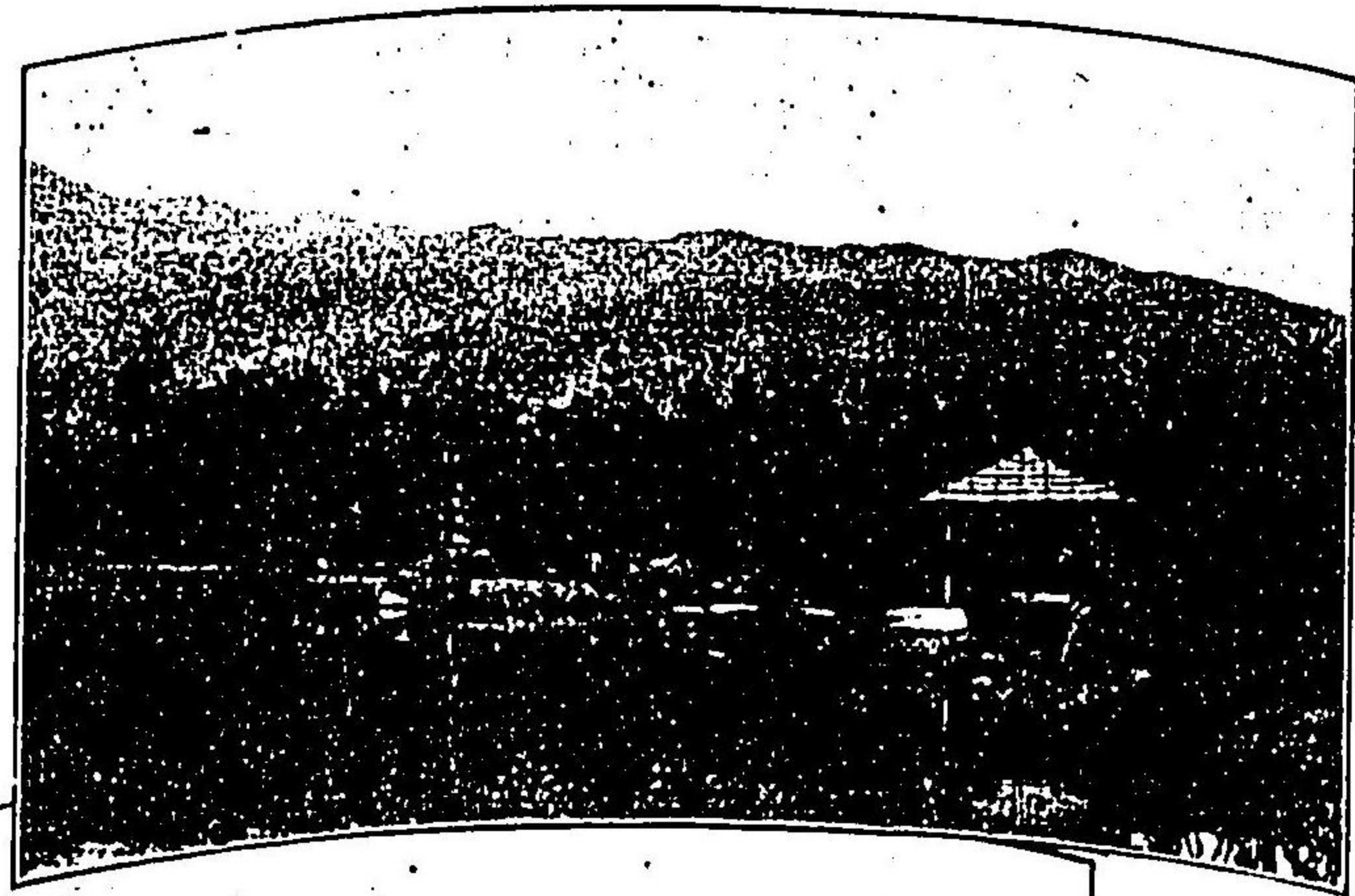
三十三間堂は博物館の南一丁許にあり、鎌倉王院といひ、後白河法皇の建立なり。構造は長方形にして南北に亘り、凡そ六十六間あり、二間を隔て、柱を建てるを以て、三十三間堂と稱す。本尊は千手観音にして、脇立二十八部衆の外、千手観音一千體あり。瓦葺丹柱にして、内部は彩繪を施し、中古建築の優秀なるものとす。古來本堂の裏にて大矢敷と稱する射式を行ひしことあり、境内杜若多し。



通  
天  
橋



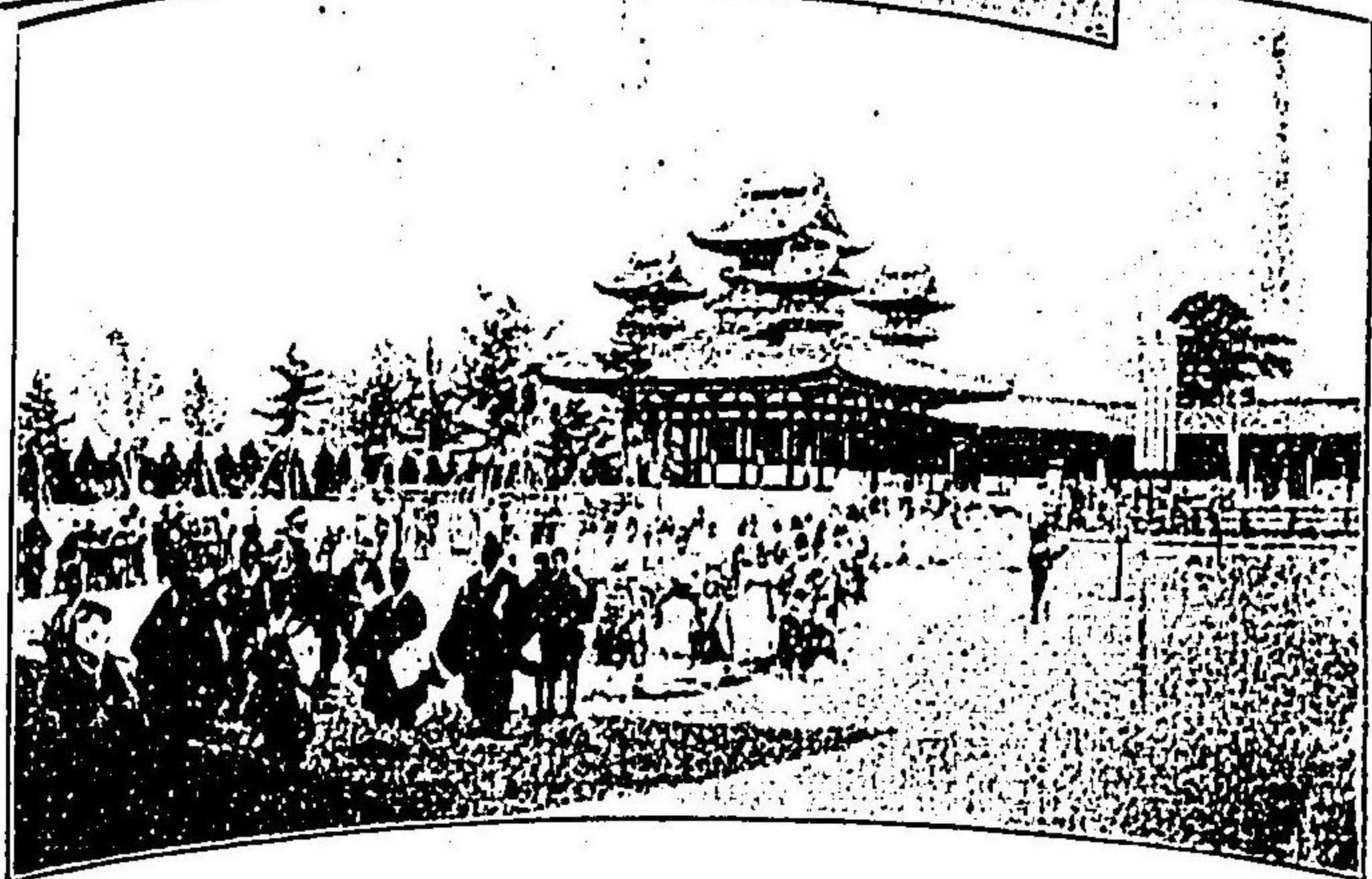
寺  
涌  
泉



平安神宮神苑



武徳殿



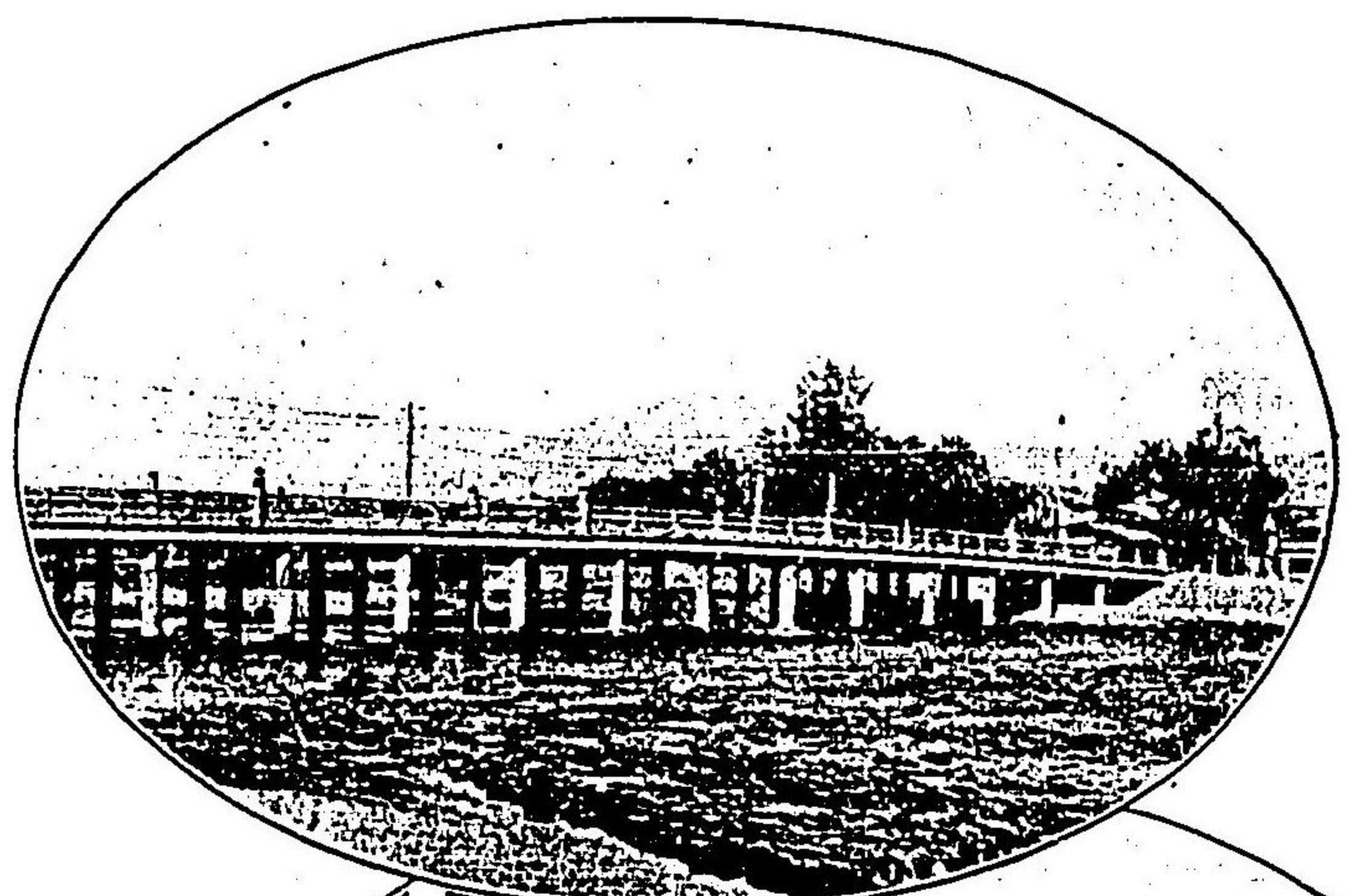
時代祭

通天橋は伏見街道二の橋東なる東福寺にあり、幽邃なる深溪の上に架し、四邊皆楓樹にして、晩秋の候橋上より下瞰すれば、兩岸錦繡をかけた清流に映照し、絶景いふべからず。

星ならで  
紅葉のばしの  
往來かな  
(信徳)

泉涌寺は伏見街道一の橋の東にあり、麓に清泉涌出するを以て寺號とす。當寺は朝廷の御香華所にして、後山には歴代の天皇、皇后、及び皇族の御陵墓多く奉安す。境内の風景頗る幽靜にして、老松古杉鬱蒼とし、殿宇樓閣其間に掩映せり。

泉涌寺 (伊藤長風)  
開創宏泉涌。此中。更治。回廊。二到。琳宮。五陵。七層。栖真處。遺澤尚思松栢風。



三條大橋



新京橋



劇場

平安神宮は岡崎町にあり、桓  
武天皇を祀る。神苑は本社  
の後にあり、池水涸々、樹木葱  
葱、油酒として殆んど點塵を  
絶つ。頭をあぐれば大極殿の  
碧瓦朱楹は、燦然たる金鶴と  
共に忽ち輝輝を射、掩映最も  
よし。

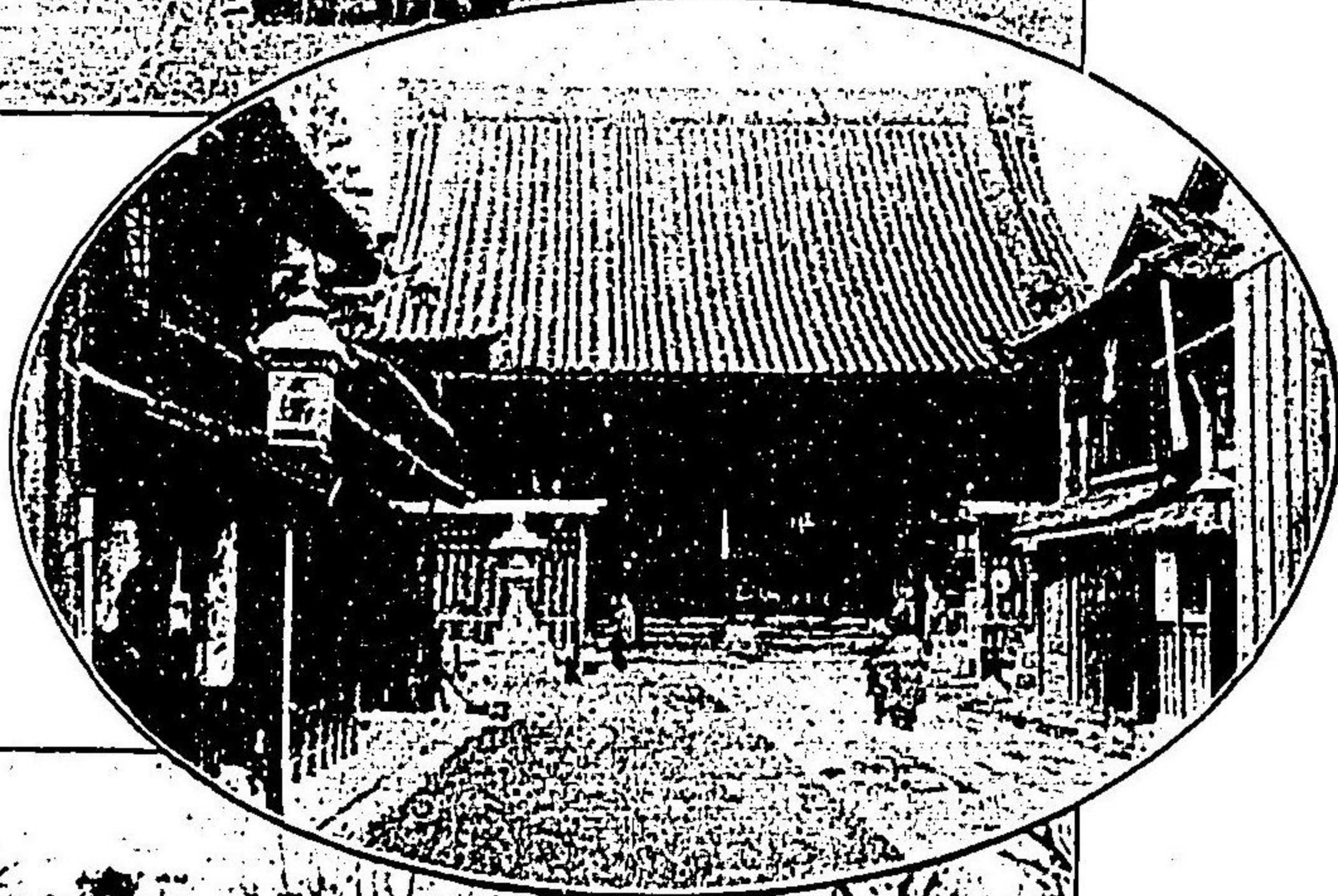
武徳殿は平安神宮の西にあ  
り、其昔桓武天皇が大内裏に  
武徳殿を造營し、専ら武道を奨  
勵し玉ひし宏謀に則り、明治  
卅二年に建營せしものにて、  
毎年五月全國の武術家をこゝ  
に合し、各種の武術を演ぜし  
めて所遊を作興す。建築宏壯  
給與たり。

時代祭は平安神宮の私祭にし  
て、毎年十月二十二日之行  
ふ。こは桓武天皇が延暦遷都  
以來千百年間に於ける文物制  
度の變更せし時代を區別し、  
當時に於ける悉朝、凱陣、上洛  
等の行装を模出して祭典を粧  
飾するものにして、其行列は  
古代の衣冠、甲冑、袴、さて  
はヒ・サーイの槍奴まで、走  
馬燈の如く連り來り、非常の  
奇観なり。

佛 光 寺



因 幡 樂 師

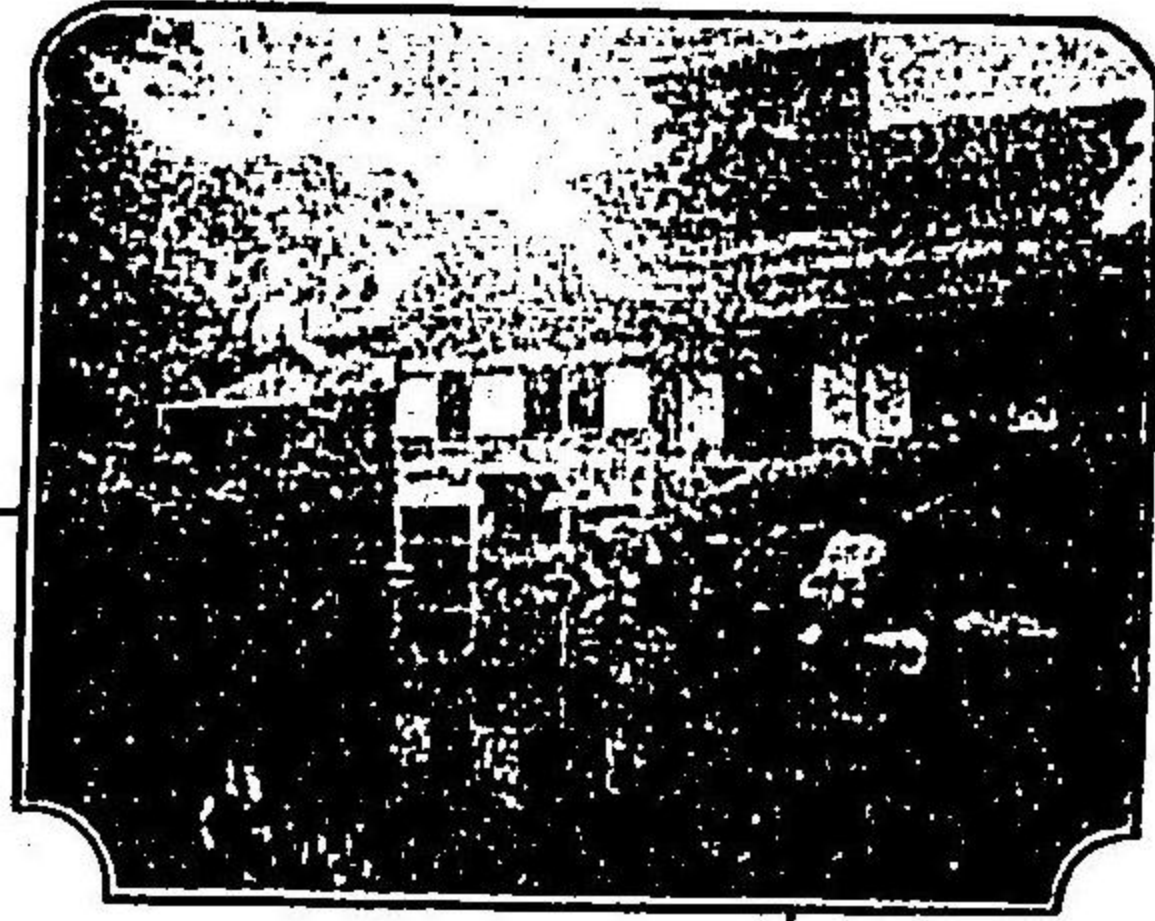


神 泉 苑

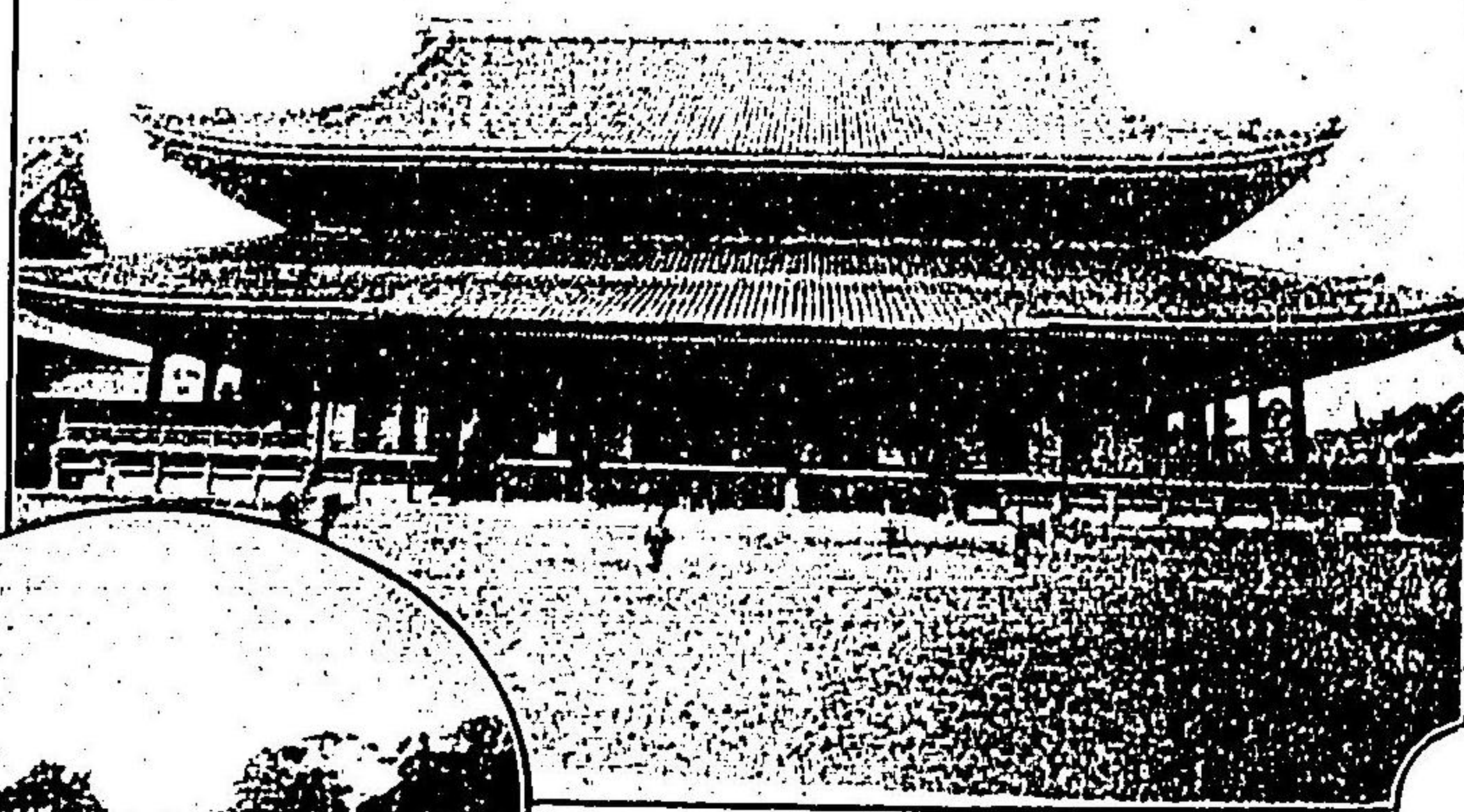
三條大橋は  
三條通鴨川に架  
す、即ち天正十八年  
豊太閤が初て造營せし  
ものにして、其橋銘向ほ存  
す。橋成て程なく太閤は十數萬  
の大軍を率ゐ、相州小田原の北條  
征伐に進發し此橋を過ぐ、想ひ  
見る氣概燦然、旌旗天を蔽  
ひ豊公馬上頓馬してい  
かに得意なりしや  
を、現今里程元  
標に在り。

新京極は  
寺町の東にあ  
りて、三條通より  
四條通に達す、京都第  
一の熱鬧場にして、演劇、  
音曲、輕技、軍談、落語の興行  
場、并に種々の飲食店、玉  
突、其他さまざまの商  
舗多く、遊人層  
して日夜雜  
を極む。

飛雲閣



西本願寺



東本願寺



沙成園

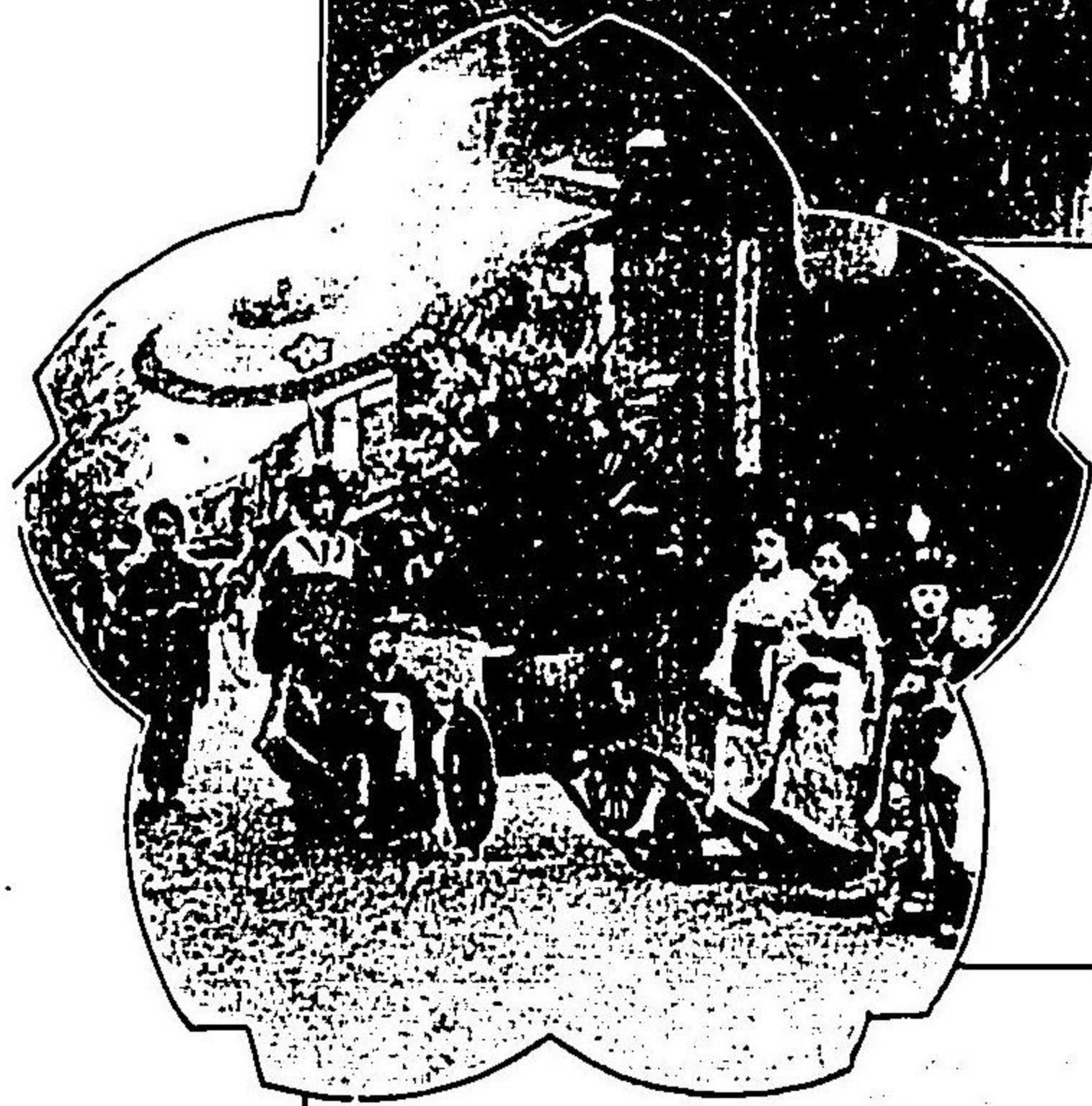
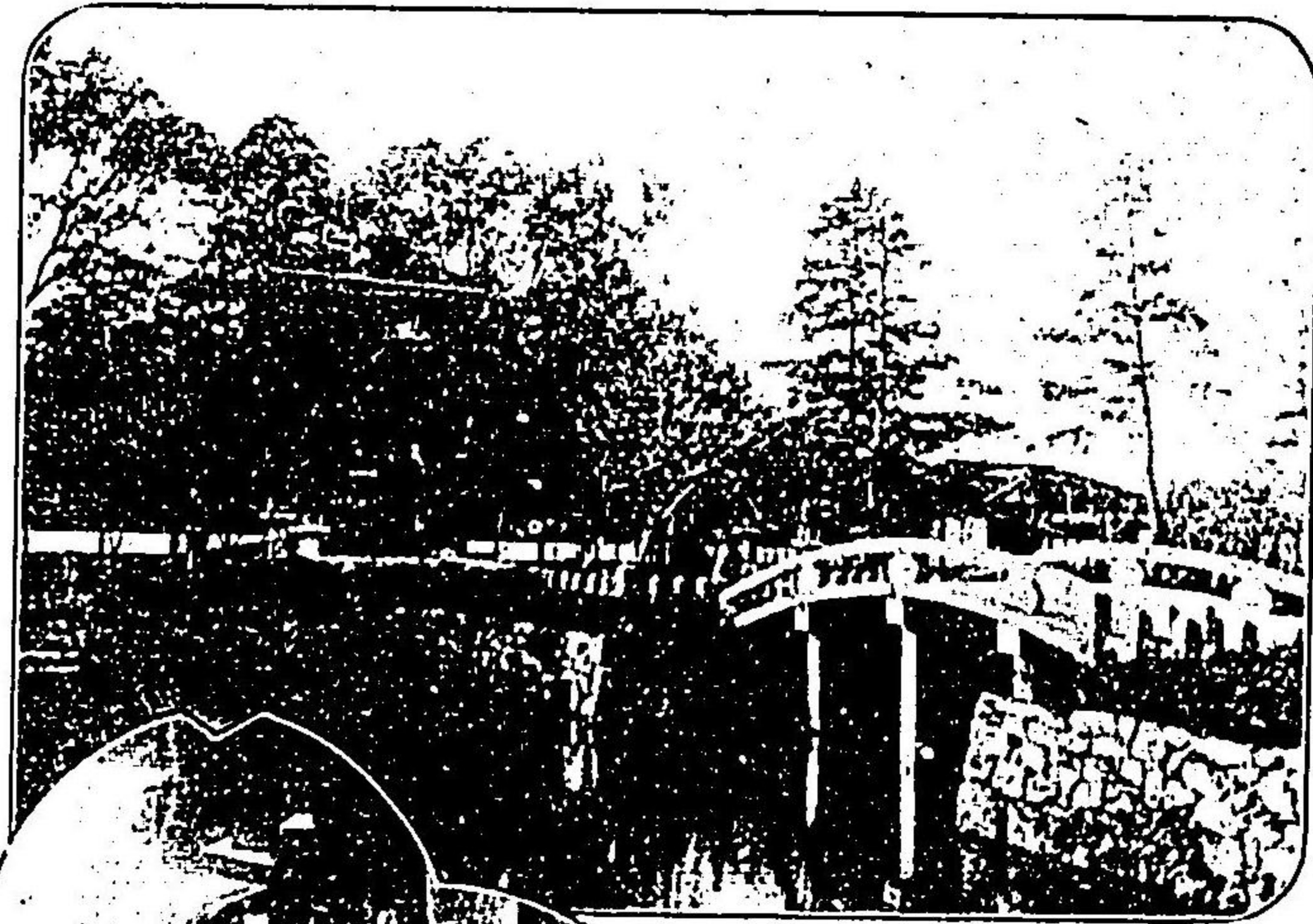
佛光寺は佛光寺通高倉南にあり、即ち眞宗佛光寺派の本山にして、建暦年中宗祖親鸞上人山城園山科に創建し、後寺基を東山遊谷に移し、豊太閤大佛殿を建るに及び更に今の地に移りしものなり。堂宇輪奐として、其規模東西兩本願寺に彷彿たり。

因幡樂師

は松原通高丸東にあり、本尊樂師如來は嵯峨釋迦佛、善光寺如來と共に日本三如来と稱し、天徳三年因幡國賀留浦の海底より出現せし靈像にて、國守權行平之を奉り京に歸り、其邸宅を以て佛殿となし之を安置す、今の因幡堂即ち是にて、靈驗著るしく香華いと盛んなり。

神泉苑は御池通大宮西にあり、桓武天皇以來歷代天子遊覽の林苑にして、古昔は封疆頗る廣大なりしが其後大に荒廢し、現今のものは元和年間僧覺雅が一部を修補し、眞言の坂場を開きしものなり。境内蓮池あり、島中善女龍王と辨財天女を祀る。

六 孫 王



島 原



東 寺 塔

飛雲閣

(九條尚實)  
開闢二橋翠園中一景。  
欄入三滄浪池上。浮。  
寫字止時何限興。  
遺通無日不風流。

西本願寺は堀川通七條北にあ  
り、眞宗本派の本山にして、堂  
殿宏壯、雄麗無比なり、境内  
に水ふき銀杏樹あり。飛雲閣  
は寺の東南隅にあり、豊公、  
聚樂邸の遺構を移せしにて、  
建築の高妙驚くに堪たり、園  
を橋翠園といひ、十勝あり。

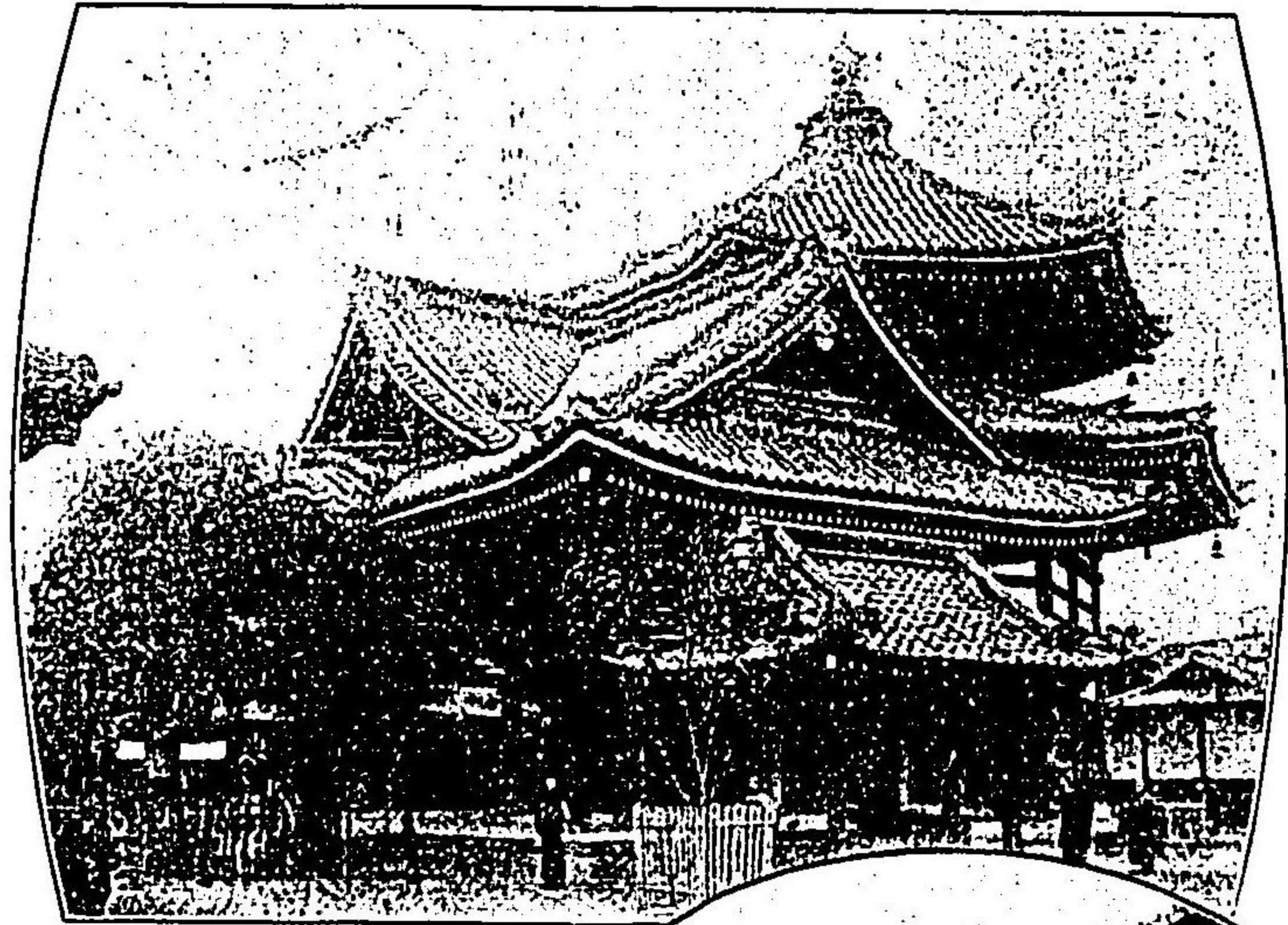
東本願寺は島丸通七條北にあ  
り、眞宗大谷派の本山にして、  
建築雄麗、粧飾莊嚴なり。滂成  
園は當寺の別墅にして、本寺  
の東積熾馬場にあり、此地は  
河原左大臣舊苑の遺址にし  
て、亭榭樹林の排置巧妙を極  
め、仙鶴珍禽多く、園中十三  
勝あり。

滂成園印月池

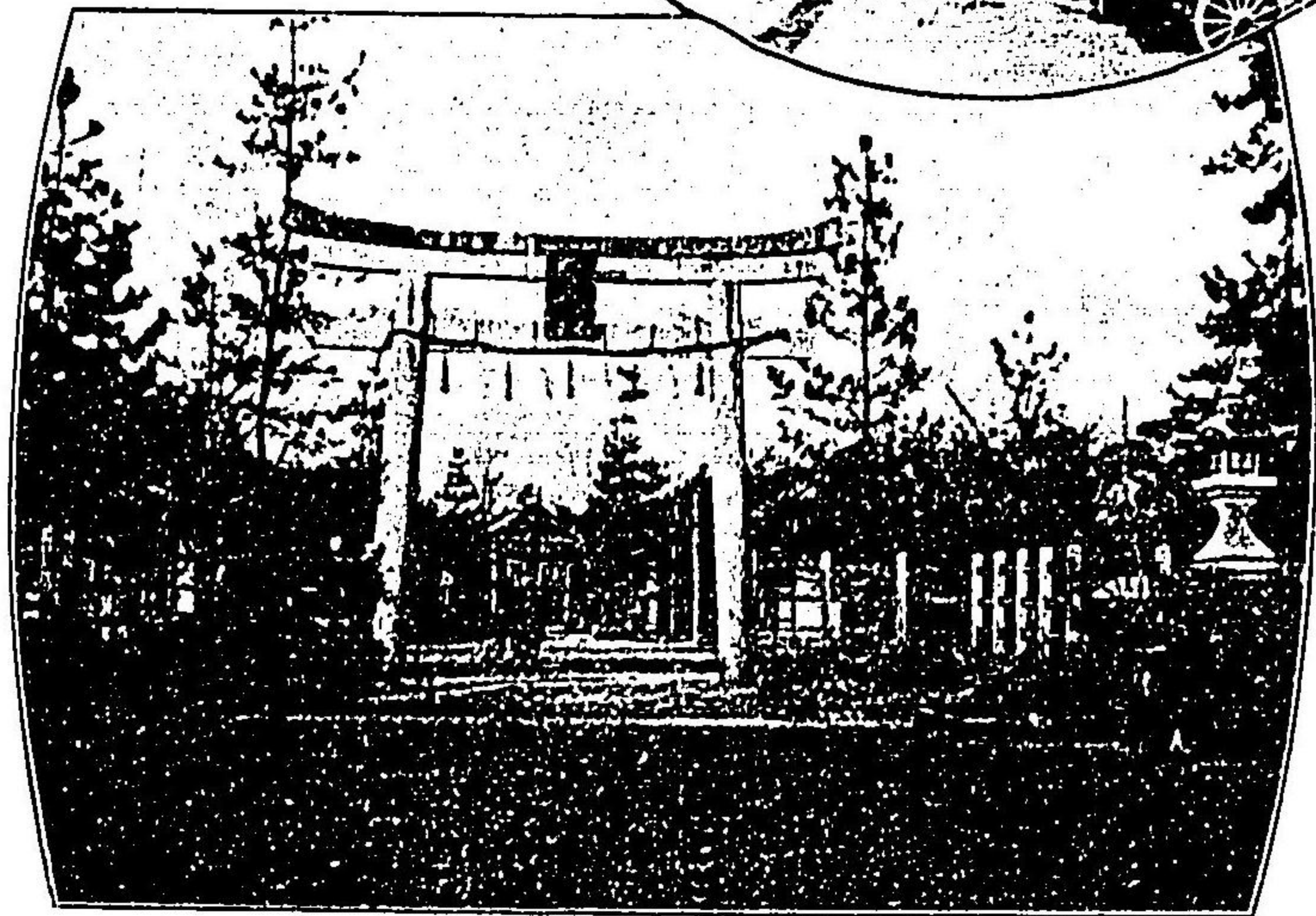
(中島標隠)

歴過繁華、水始分。  
一泓清澗翠成紋。  
半宵來照真如月。  
無復人間煩惱雲。

堂 角 六



中京ノ商店



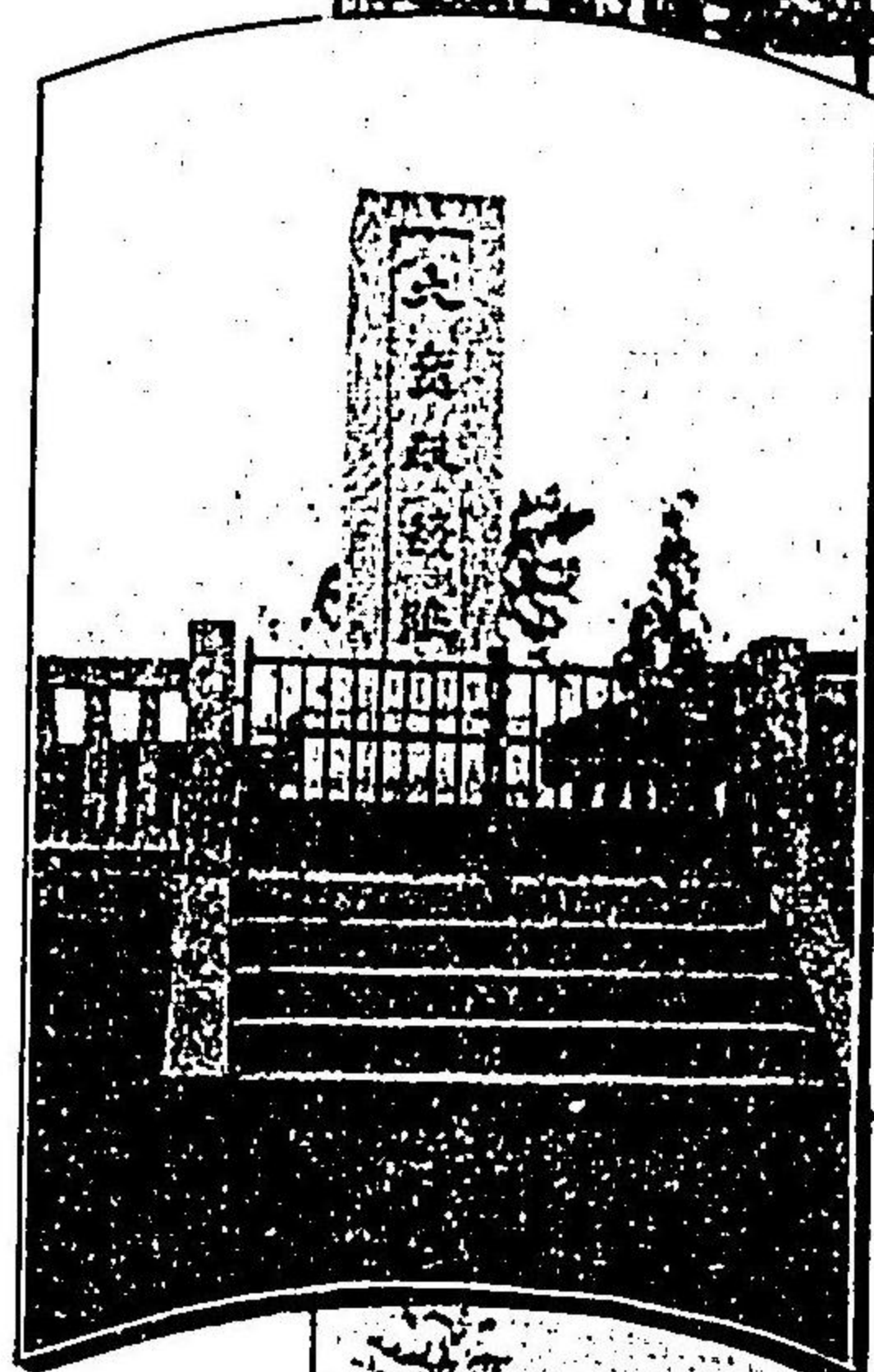
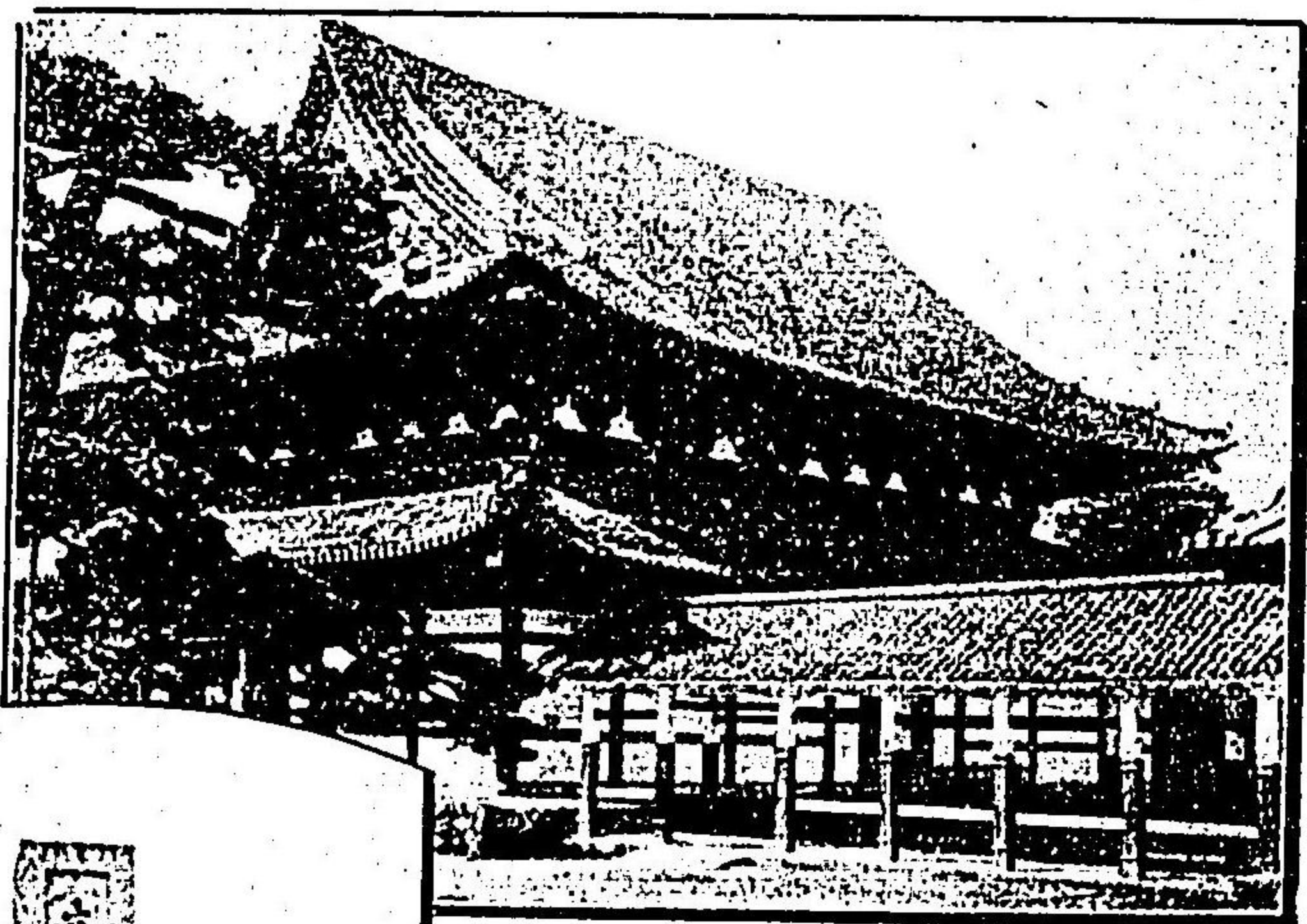
社 神 木 梨

六孫王神社は葛野郡大内村字八條にあり、即ち六孫王經基公の邸址にして、應和年間多田滿仲初めて社殿を建立し、元祿年中僧南谷之れを再造せり。社前の小池を神龍水といひ、石築之れに架す、境内幽靜なり。

島原は花屋町千本東にあり、俗に傾城町といひ、四周圍むに礮垣を以てし、別に一砲を構ふ、船樓軒を接し、古昔は全盛無比なりし。毎年四月二十一日太夫の道中を行ひ、婦女姿色艶美なるもの、盛粧を凝し小費を徒へ、藝妓は花車を來き那中を練行く、其繁華雜遝云ふばかりなし。

東寺は九條四條通にあり、教王護國寺と稱す、弘仁年間俊成天皇より弘法大師に賜ふ處にして、真言宗の名利なり。金堂、講堂、食堂、大師堂、南大門、八足門等いづれも宏麗にして、老樹鬱茂し風景蒼古なり。殊に五重寶塔を衆微斜陽の間に遠望する、最も壯麗あり。

相 國 寺



大極殿遺跡



上御社

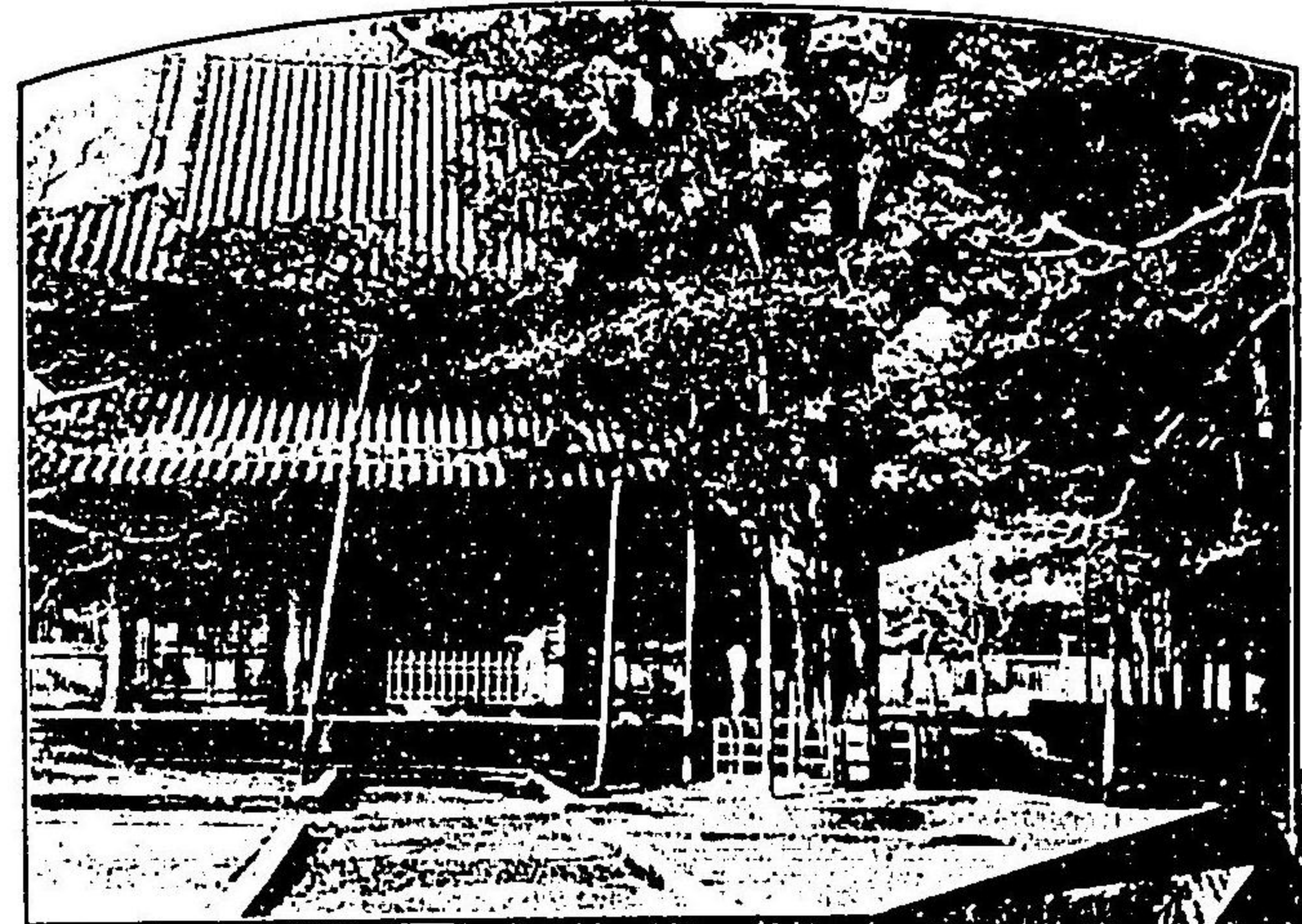
六角堂は六角通鳥丸東にあり、聖徳太子の開基にして、本尊如意輪観音は淡路國岩屋浦の海中より獲し一寸八分の黄金佛なり。堂の構造は六角形にして、元治兵燹後の再建に於て、塔中に池の坊あり、立花の祖家にして其名世に高し。

中京は京都富家  
の淵藪にして、大賈  
巨商肝を列ね張を接す、  
僚僕いと多く、日に貨  
車をひき市中をめぐる。  
これ其一ヶ處をうつ  
せるもの。

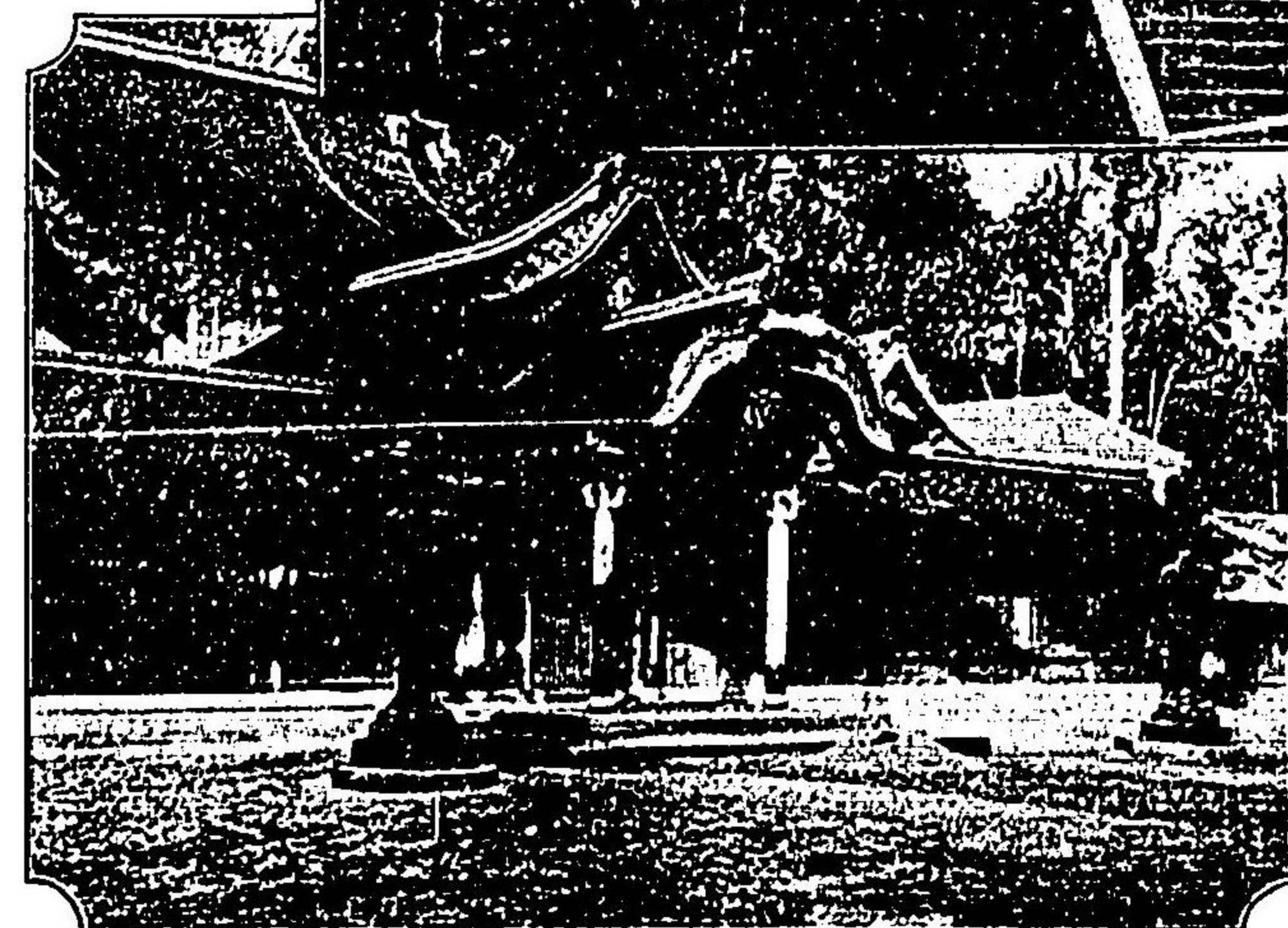
梨木神社は寺町通廣小路西にあり、別格官幣社にして、贈右大臣三條實萬公を祀る。此地もと三條家舊邸宅のありし處にて、梨木町と呼しにより社號となす。社内瀧酒として、別に同公の頌徳碑あり。



大 德 寺



建 勅 神 社



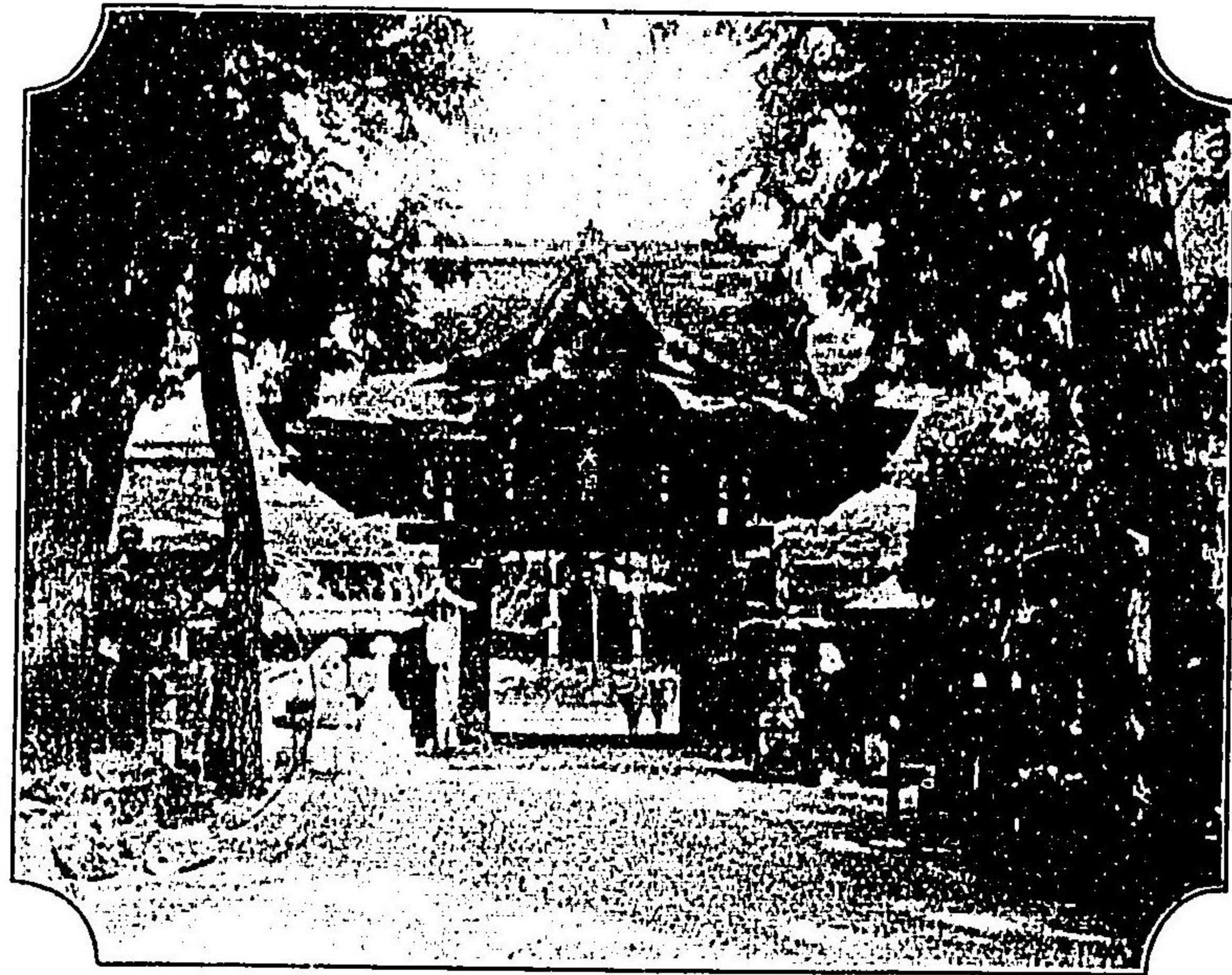
今 宮 神 社

相國寺は今出川通相國寺門前町にあり、禪宗の巨刹にして京都五山の一なり。永徳三年足利義滿の創立にして、夢窓國師の開基なり。境内廣帯にして、堂殿宏壯とし寶塔、祖堂等の外、塔中林光院に靈窟あり、普光院に藤原定家の墓あり、いづれも名蹟とす。

大極殿遺跡は葛野郡朱雀村字聚樂廻にあり、即ち桓武天皇が最も大御心を盡して造營し玉ひし大極殿の舊地にして、今に至るまで往々殘礎碧瓦を掘出すことあり、近年瓦礫を建て以て世に表す。

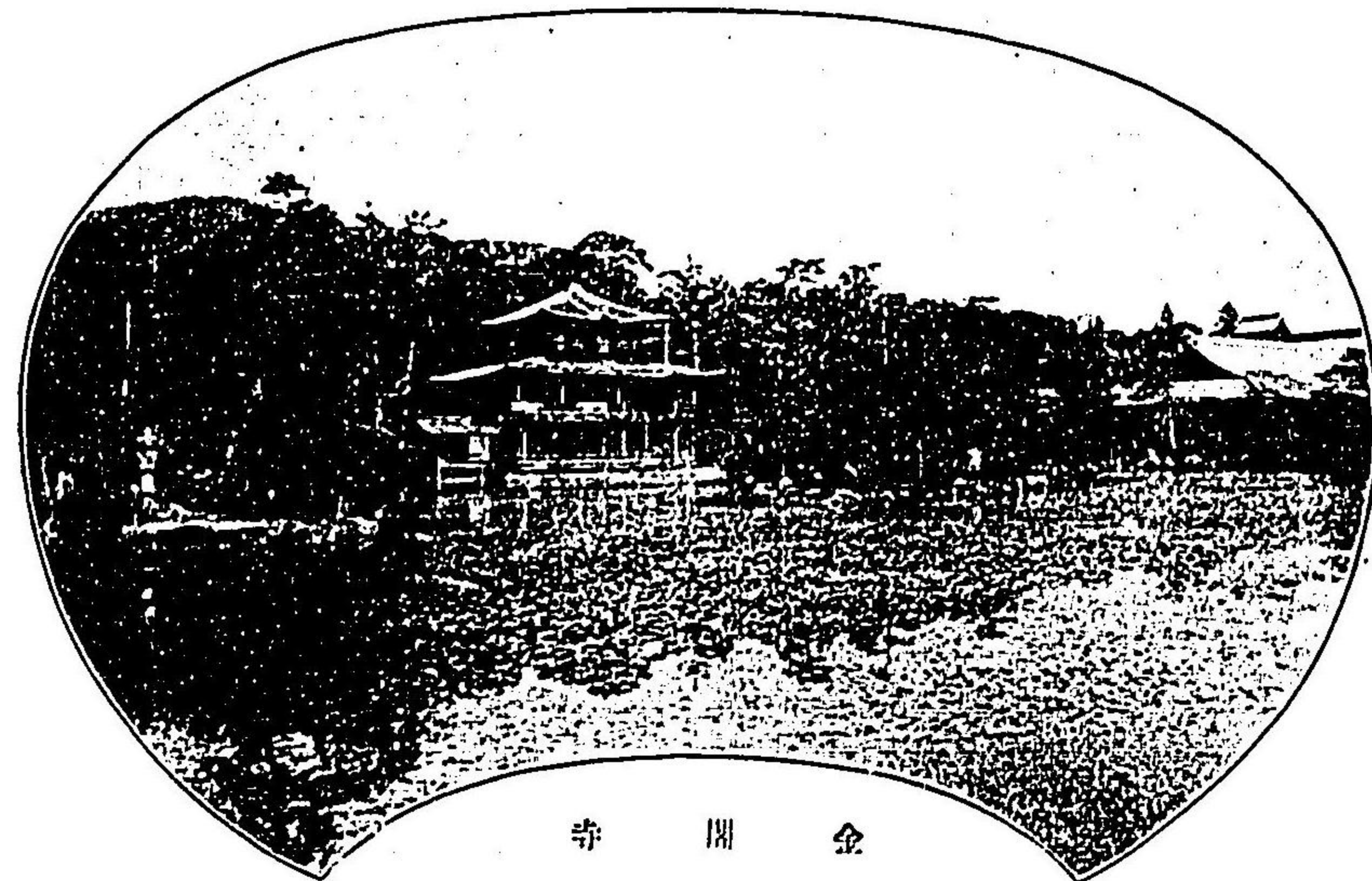
上御靈神社は鞍馬口通御靈町にあり、祭神は早良親王、伊豫親王、外六親を鎮し、堂殿宏麗なり。應仁の亂畠山政長此森に據て激闘せしこと古史に見ゆ。

北野神社



大徳寺は愛宕郡大宮村にあり、  
禪宗臨濟派の巨刹にして、正  
中元年大徳國師の開基なり。  
山門は蓮歌師宗長の建造にし  
て、千利休その樓閣を修補し、  
法堂及び佛殿は赤松圓心の建  
替なり。境内は香松深く寺院  
を擁し、幽邃の景いふべから  
ず。

建勳神社は同村船岡山の半腹  
にあり、社殿蒲池にして織田  
信長を祀る。後山は高爽にし  
て陀器に富み、圓融天皇讓位  
の後、此山にて子の日の遊び  
を催ふし玉ひしことあり。和  
歌多く、古來よりの名所なり



金国寺

今宮神社も大宮村にあり、崇  
徳鳴尊、及び稻田姫命を合祀  
す。若狭川の流を前にし、森林  
を背にす。正殿拜殿齋院神樂  
殿等あり。四月十日に「やすら  
ひ」祭といふを執行し、華嚴な  
る花傘の下に、赤毛黒毛の冠  
を被ふり、鐘鼓を鳴し踊りゆ  
く、洛下有名の祭禮なり。

社 神 茂 加 上



鞍 馬 寺



社 神 船 貴

北野神社は御前通一條北にあ  
り、村上天皇の天曆元年初て  
北野に奉祀し、祭神は菅原道  
真公なり、本殿は八棟造にし  
て、柏材を以て造營し、丹腫  
金碧其た莊嚴なり。境内は紅  
白の梅樹多く、春初の際は清  
香馥郁宮垣を蔽す。また老松  
も多し。

北野天満宮

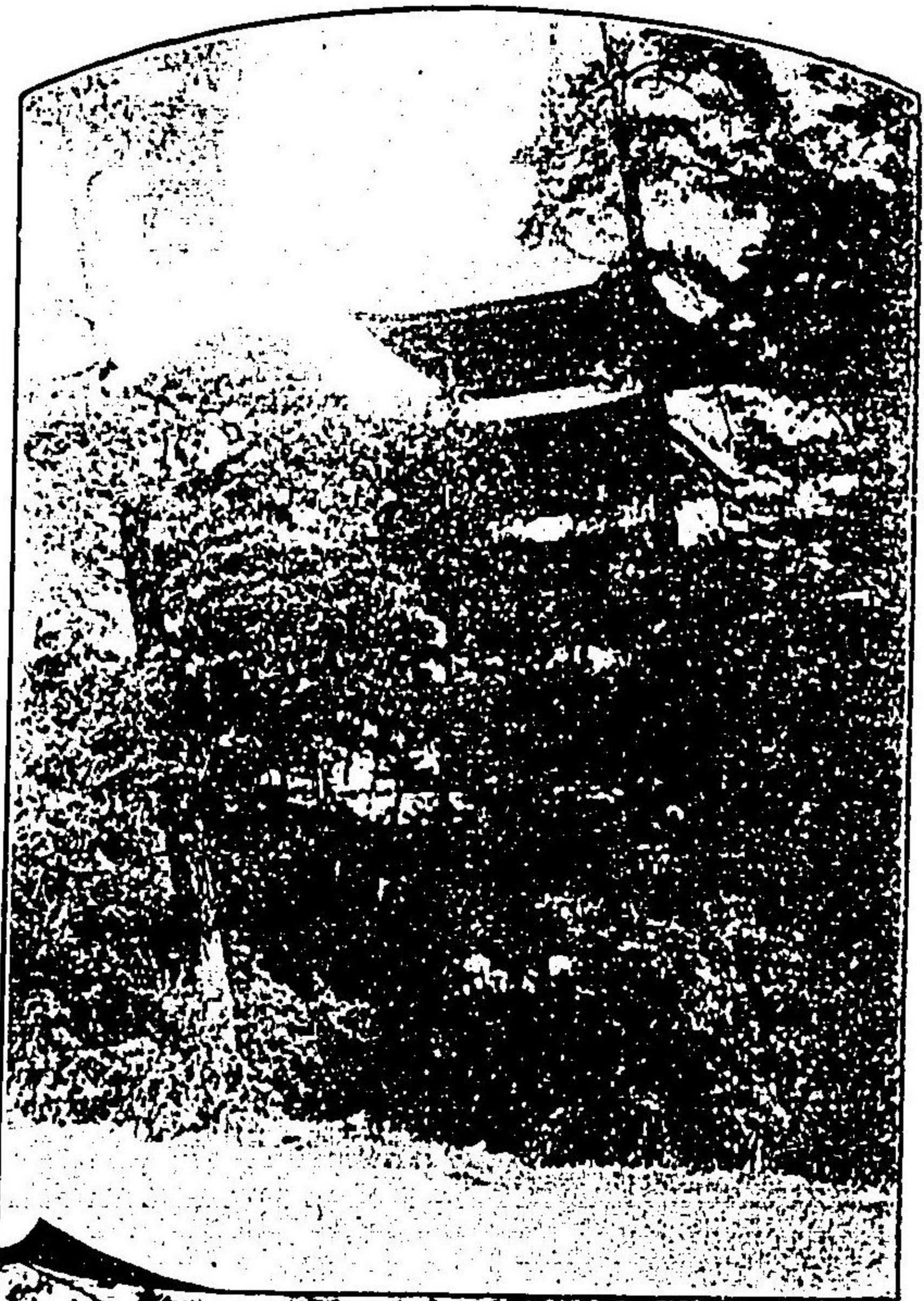
(河野鐵兜)

西郡風月附長嶺。  
回首浮雲是帝家。  
一去騎龍仙跡杳。  
空留正氣在梅花。

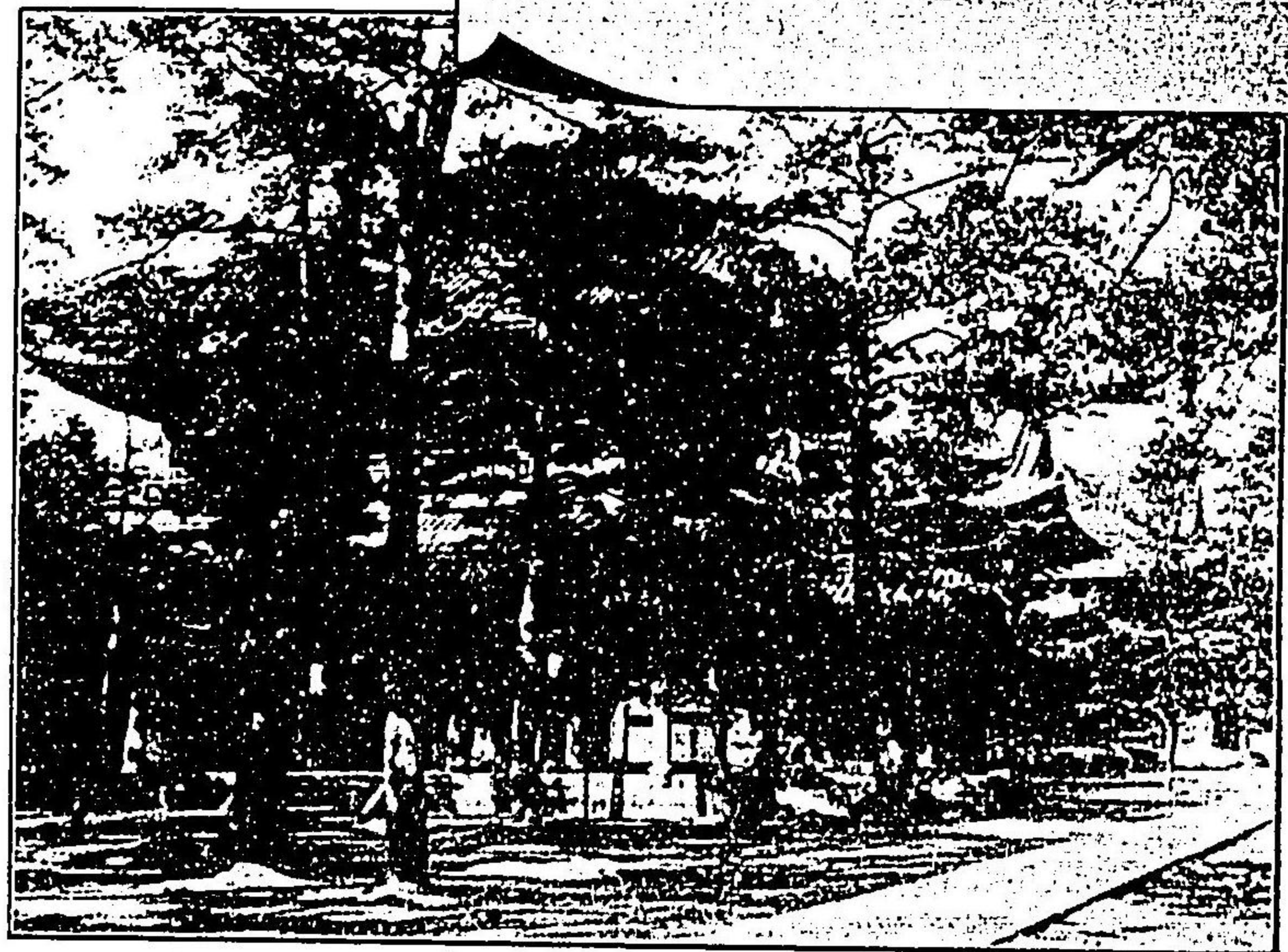
金剛寺は葛野郡衣笠村にあり  
鹿苑寺と號す、足利義滿の山  
莊にして、後ち寺院となる、  
開基は夢窓國師なり。林泉は  
廣密幽麗にして、三層の閣あ  
り、即ち金剛にして、前なる  
池を鏡湖といふ、其他辨雲閣、  
應下水、龍門瀑、銀河泉、虎  
溪橋、安民澤、夕佳亭等の名  
勝あり。

金剛寺 (遠山澗)

傑閣三層峻。彼蒼。衆客  
今已付空王。群黎未免  
刀兵劫。列國爭輸花石綱。  
金碧何知是膏血。山河徒閱  
幾桑滄。未。山。瀨。酒。第。陳  
迹。落日欄干心暗傷。



仁和寺



妙心寺

上加茂神社

は愛宕郡上加茂村にあり、官幣大社にして、賀茂別雷神を祀る、横門、中門、廻廊、本殿いづれも丹青彩繪の美を盡し、壯麗はん方なし。社前を繞るを御手洗川の清流とす、境内古木鬱蒼たり。

(散行)

ちはやふる賀茂の社の姫小松  
萬代ふとも色はかはらし

鞍馬寺

は愛宕郡鞍馬山の山上にあり、本尊は毘沙門天にして、天降の遺像なりと。山内古跡多く、涙の飛泉、九折坂、閻伽井、其他諸堂あり。西の方僧正谷は牛若丸が劍を學びし處にして傍らに施主堂あり、俗に太郎坊といふ。全山松杉鬱蒼として、雲尚ほ暗し。

遊鞍馬山 (長戸護)

不レ辭鞍馬遠。來訪古招提。  
閣宿千年火。山懸百丈梯。  
怪禽啼三絕谷。驚鹿走一幽蹊。  
欲問牛耶跡。喬杉夕日西。

貴船神社

は鞍馬村字貴船にあり、祭神は高祖神を祀る、古へより雨を請ひ、晴を祈るに應驗著るといふ。境内は老松怪杉鬱蒼として梧て幽邃に、貴船川は其流を環り流る、瀑布あり、又名石多し。

(俊成)

貴船川玉散る瀬々の岩波は  
氷をくだく秋の夜の月

高尾



尾



尾



高尾

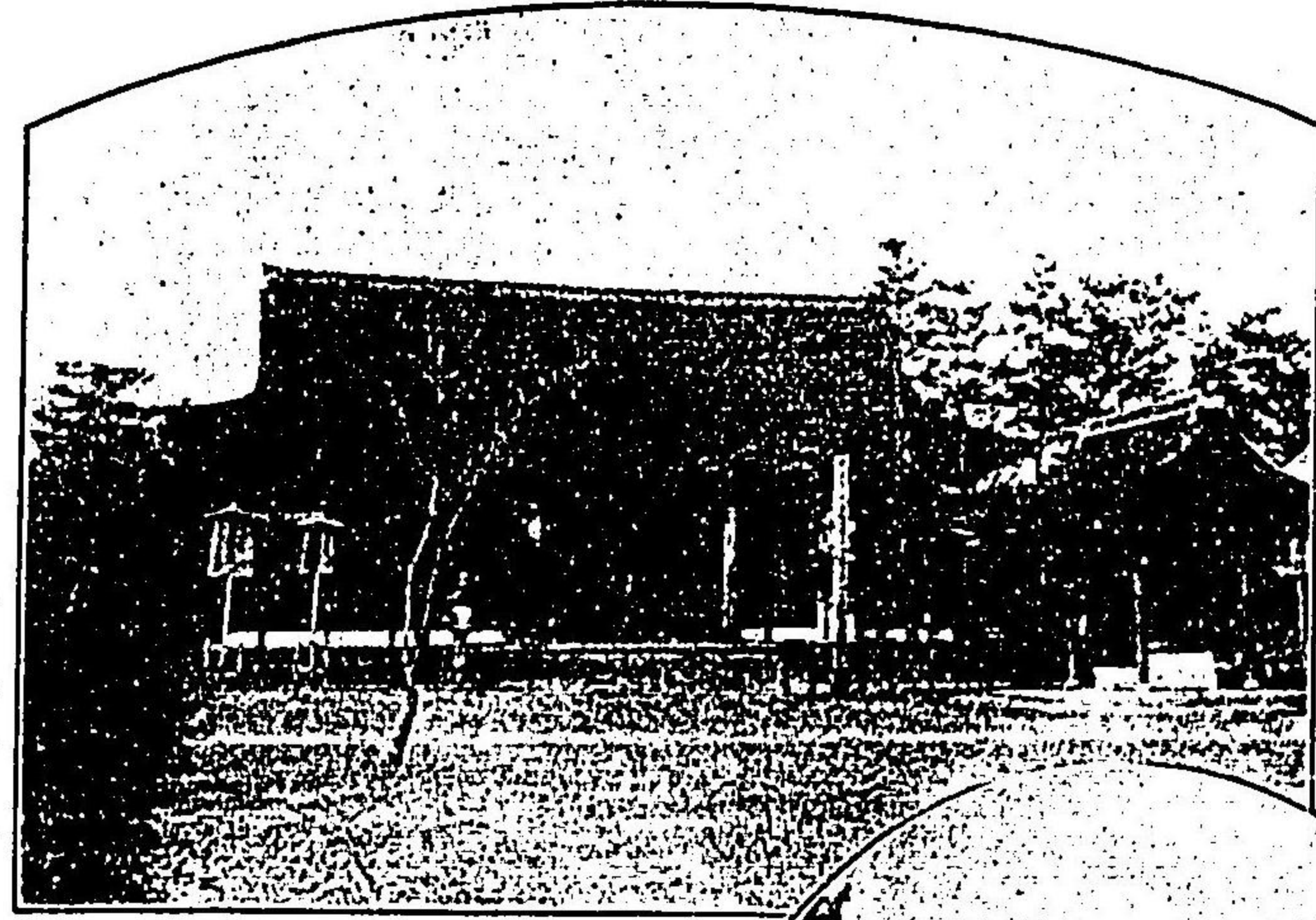
仁和寺は葛野郡花園村にあり、光孝天皇仁和四年の創建にして、宇多天皇御落飾の後當寺に入り宮殿を造營し玉ひしより、御室、また大内山の稱あり。眞言宗の名刹にして、金堂、御影堂、觀音堂、五重塔等いづれも建築雄麗なり。境内樓閣多く、枝幹蟠屈して花は皆重瓣とし、艶麗他に異なり、御室の花見とて世に名高し。

九重にたつしら殿と見ゆるは（出雲）

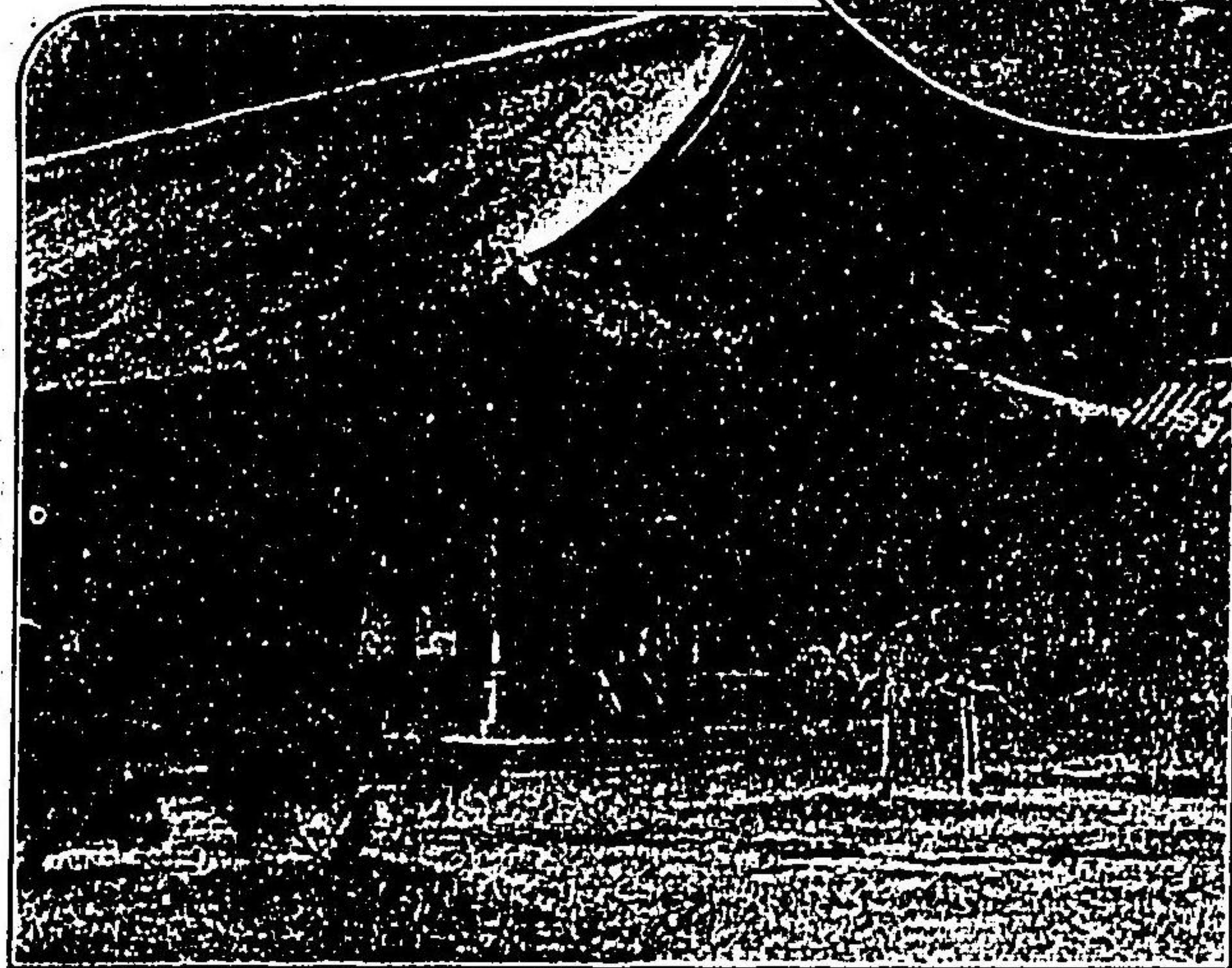
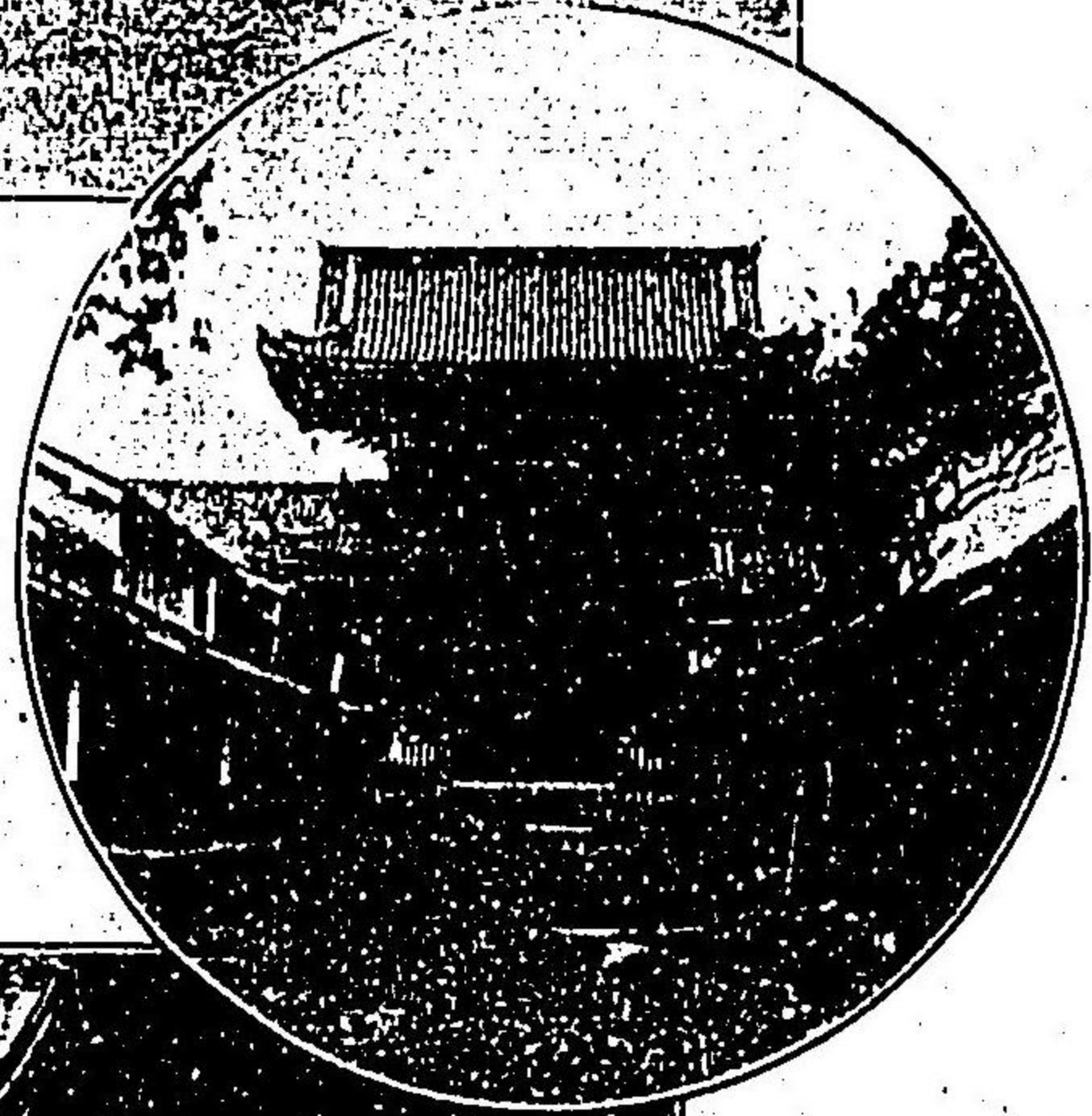
大内山の櫻なりけり

妙心寺は同上花園村にあり花園上皇此地の風景を愛し離宮を營み玉ひ、後伽藍となし、關山國師をして開祖となし玉ふ。寺内の玉鳳院は當時上皇の隠栖し玉ひし故跡なり。堂殿宏麗にして、法堂天井の極彩色蟠屈は狩野探幽の名筆とす、境内老松多し。

廣 隆 寺



清 涼 寺



二 尊 院

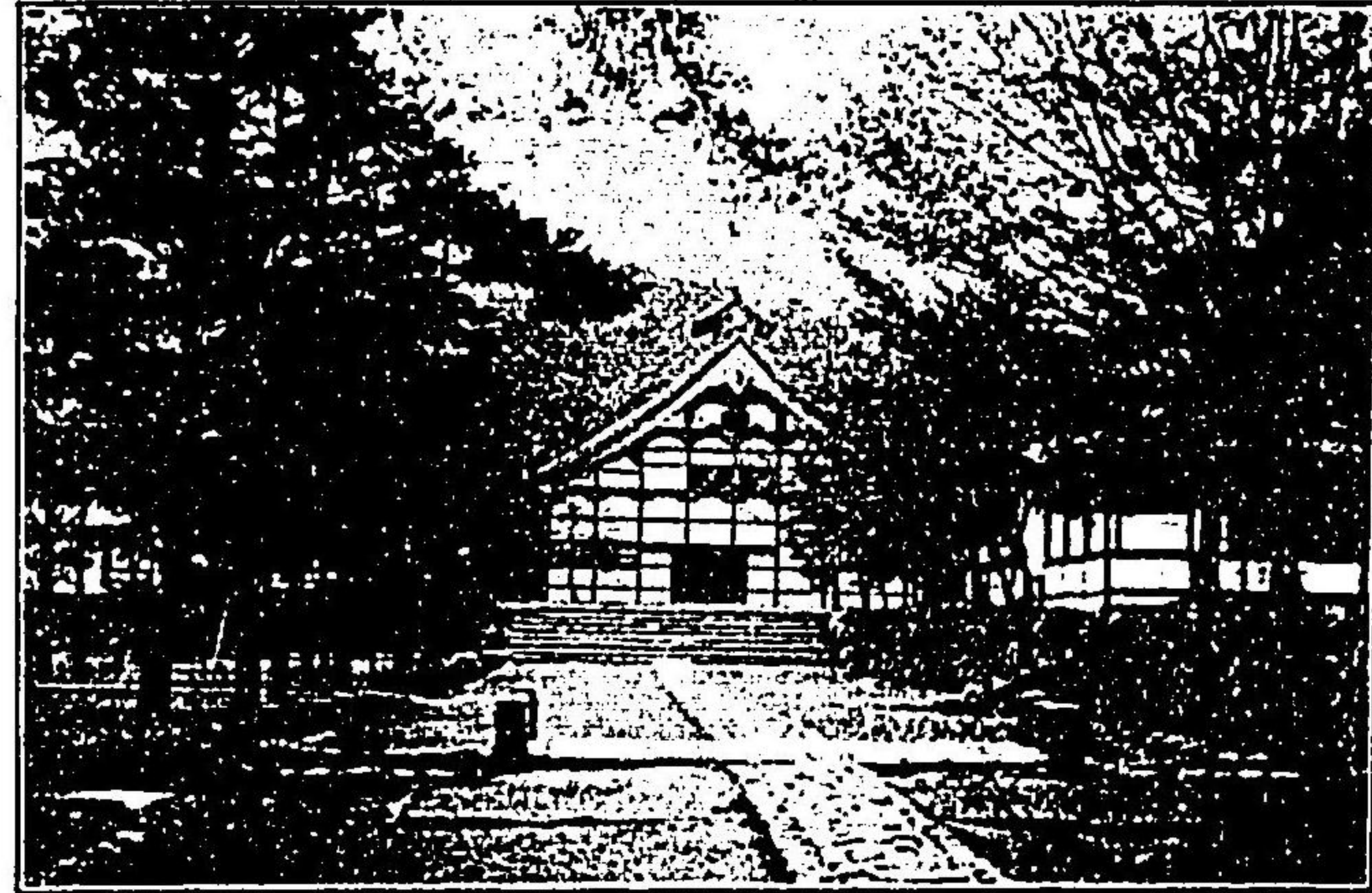
高尾は葛野郡梅ヶ畑村にあり  
三尾の一にして、山上に神設  
寺あり、名跡極めて多し。滿  
山老松古杉鬱蒼として、楓樹  
其間に掩映し、殊に地藏院址  
は境内第一の佳景にして、清  
澗川は其下を繞り、兩岸の紅  
楓は鮮艶燃ゆると欲す、實に  
霜葉の大観なり。

梅 尾

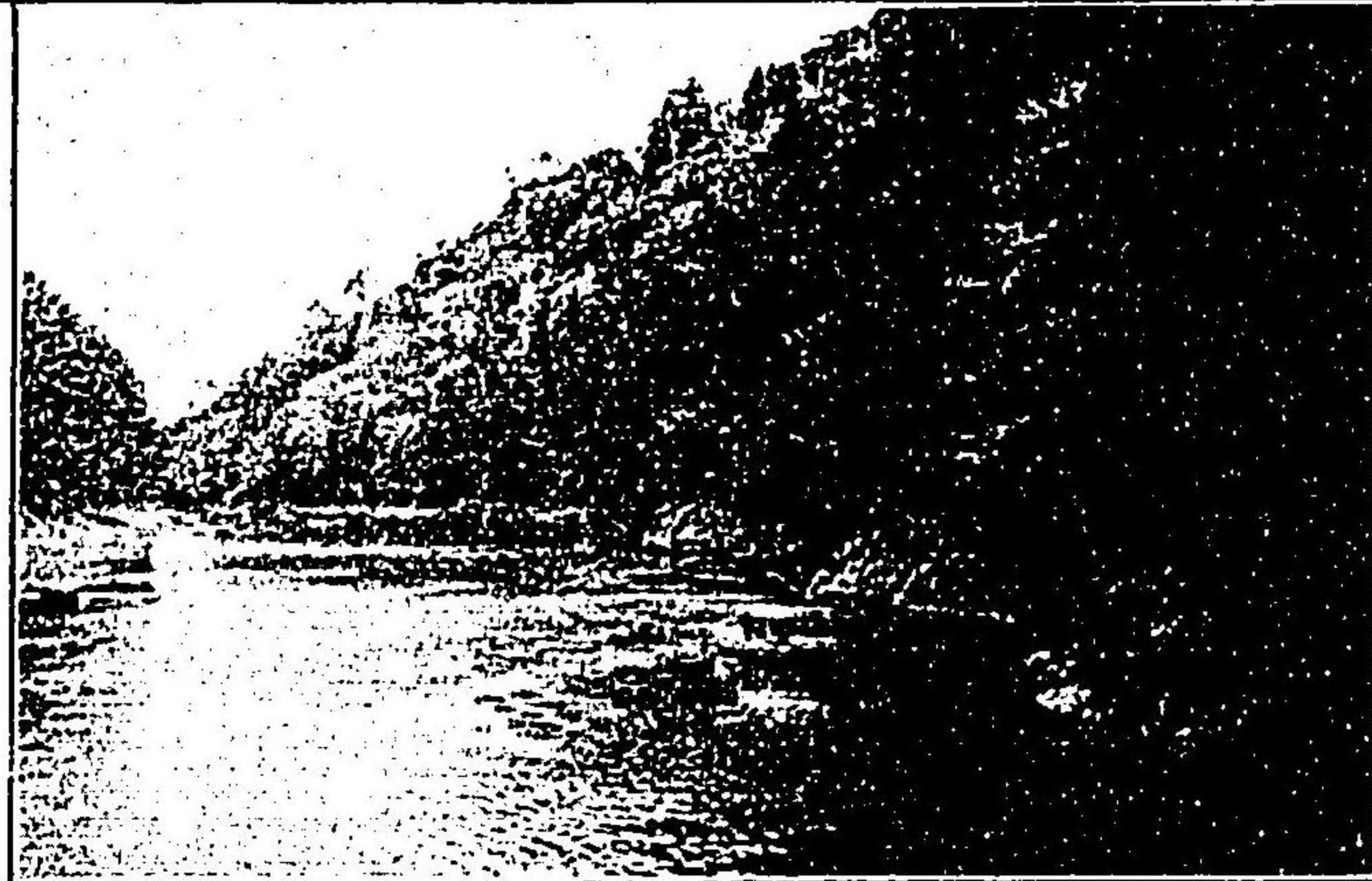
同行にあり、入口な  
る白雲橋より北は、兩岸  
の楓樹清澗川の溪流に臨み、  
深紅淡黄、燦然として水を照し山  
に映り、恰ながら錦繡を掛け  
たる如し。一寺あり高尾  
寺といふ、また名蹟  
あり。

梅尾は高尾と梅尾との中間に  
あり、伽藍を西明寺といふ。  
此處は楓樹多からずと雖も、  
幽邃靜寂、別に一境を占め、  
梵唄聲自づから塵心を脱せ  
しむ。木橋は其入口にして、  
石瀬涓々楓影を碎き、また頽  
る冷絶。

寺 龍 天



嵐 山



川 津 保

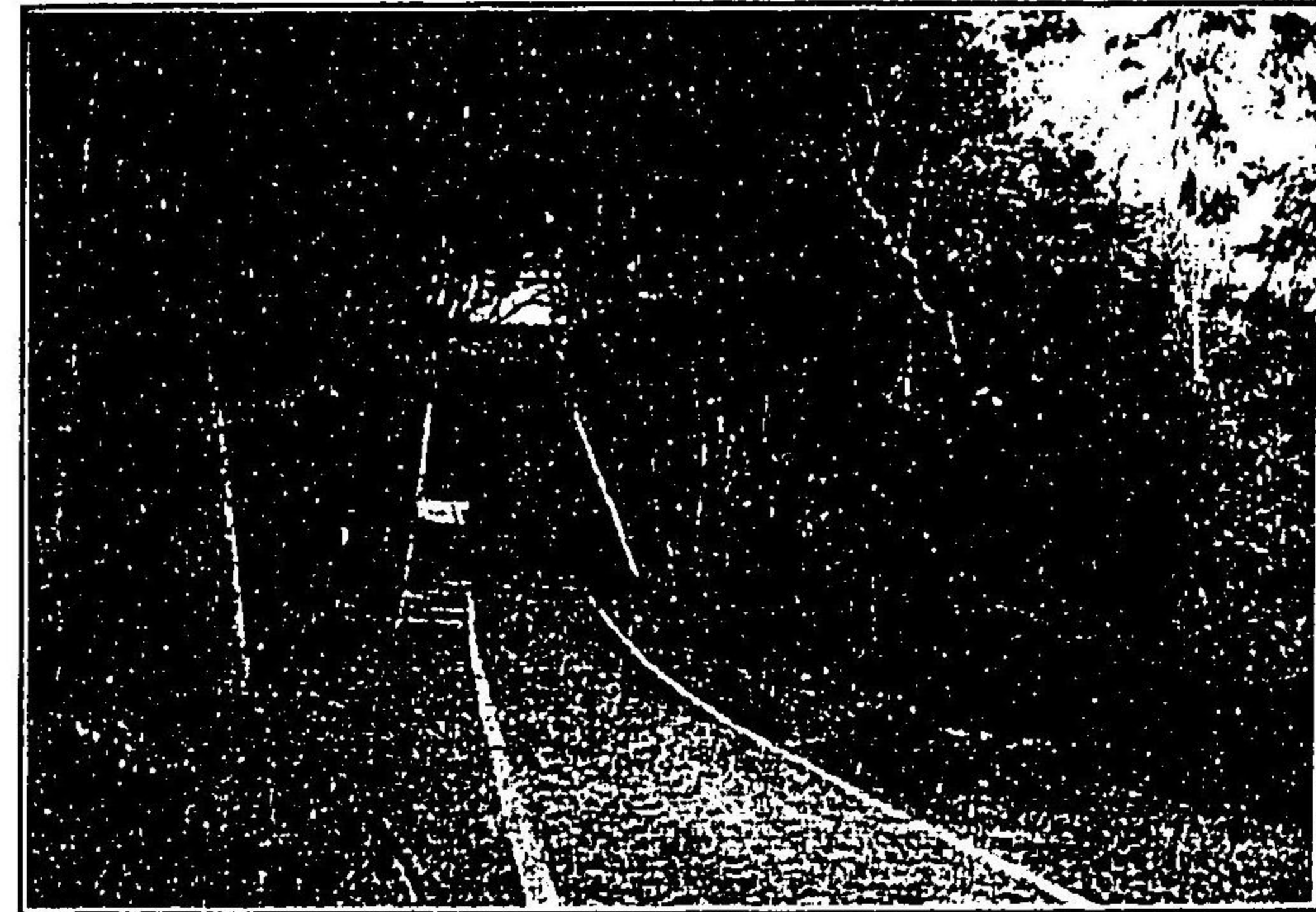
廣隆寺は葛野郡太桑村にあり  
推古天皇十二年、聖德太子、  
奈川勝に命じ創建せしめ玉ひ  
し處にして、爾來一千三百年  
の星霜を閱し、世に稀なる古  
名利とす。講堂、太子堂、金  
堂、桂宮院等あり。境内廣大  
にして、老松古梅鬱蒼とし、  
また櫻樹多く、三春の候は風  
光最もよし。

清 涼 寺

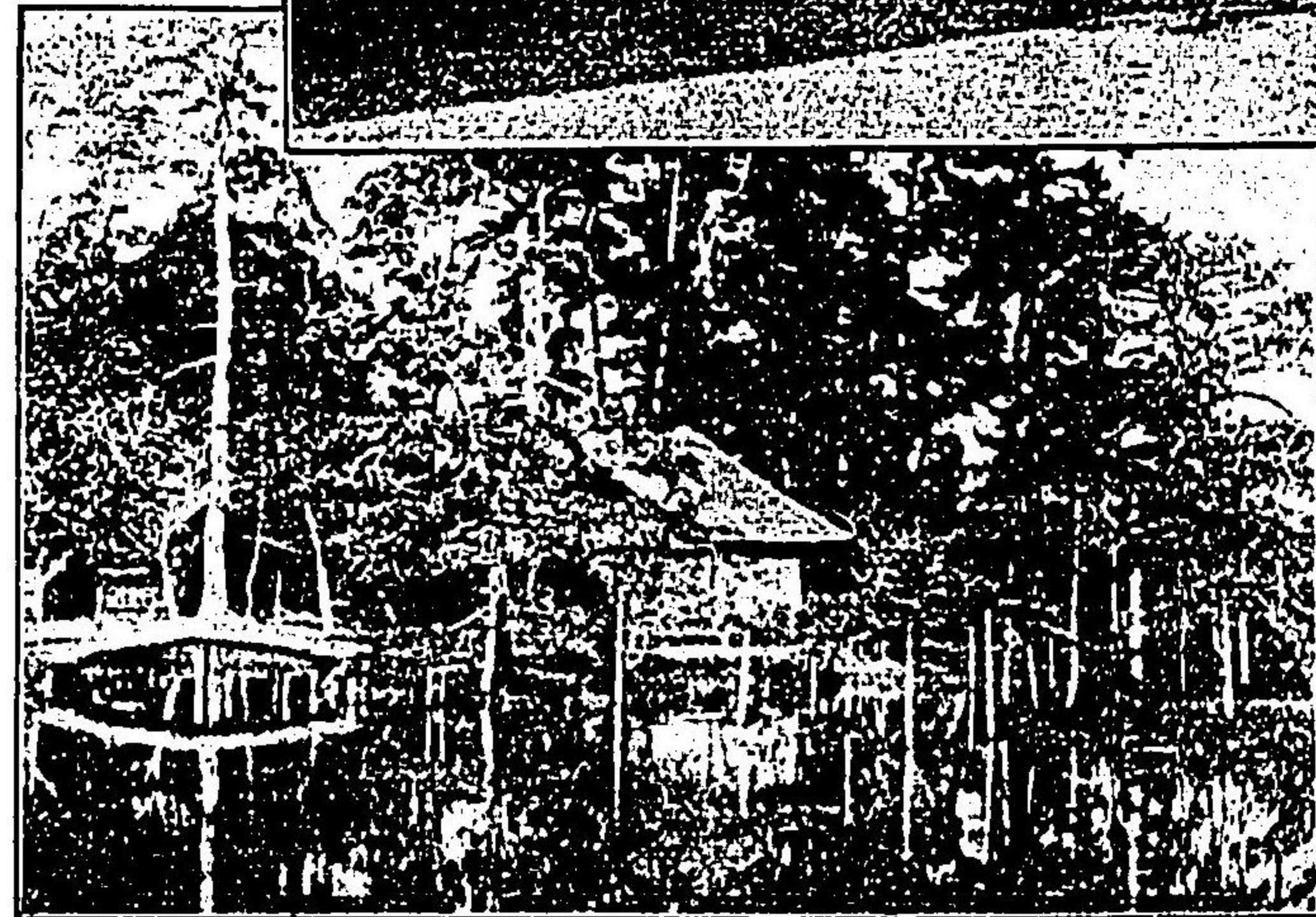
は葛野郡嵯峨村にあ  
り、俗に嵯峨の禪堂と  
いふ。本尊釋迦佛は立像五尺  
二分、釋尊在世の口、赤梅檀を以  
て毘首羯磨が影かしものとし、再  
傳して我國に至る、實に世界  
無比の靈像なり。堂塔多  
く、境内廣潤にして  
櫻樹松樹多し。

二尊院は同上嵯峨村にあり、  
小倉山と號す。古來紅葉の名  
所にして、山の半腹に定家が  
時雨亭と稱するあり。  
(實之)  
夕月夜小倉の山に啼鹿の  
聲の内にや秋はくるらん

寺 繪 法



松尾神社



宮ノ梅

天龍寺は同上嵯峨村にあり、  
 聖宗五山の二にして、足利尊氏が後醍醐天皇御追福の爲め建立せし處とし、開基は夢窓國師なり。佛殿は元治の兵燹に焼失せしが、近年再建せり。境内は老松古柏相錯はり、また蓮池あり、頗る幽静なり。

嵐山は葛野郡上山田村にあり大堰の清流其麓を繞り、滿山松楓樹多く、翠松其間に交錯して、春秋の眺め云ふべからず。また初夏の新樹によく、祭火によく、河鹿によく、三冬の雪景によく、四時一として佳ならざるなく、京都第一の勝地なり。

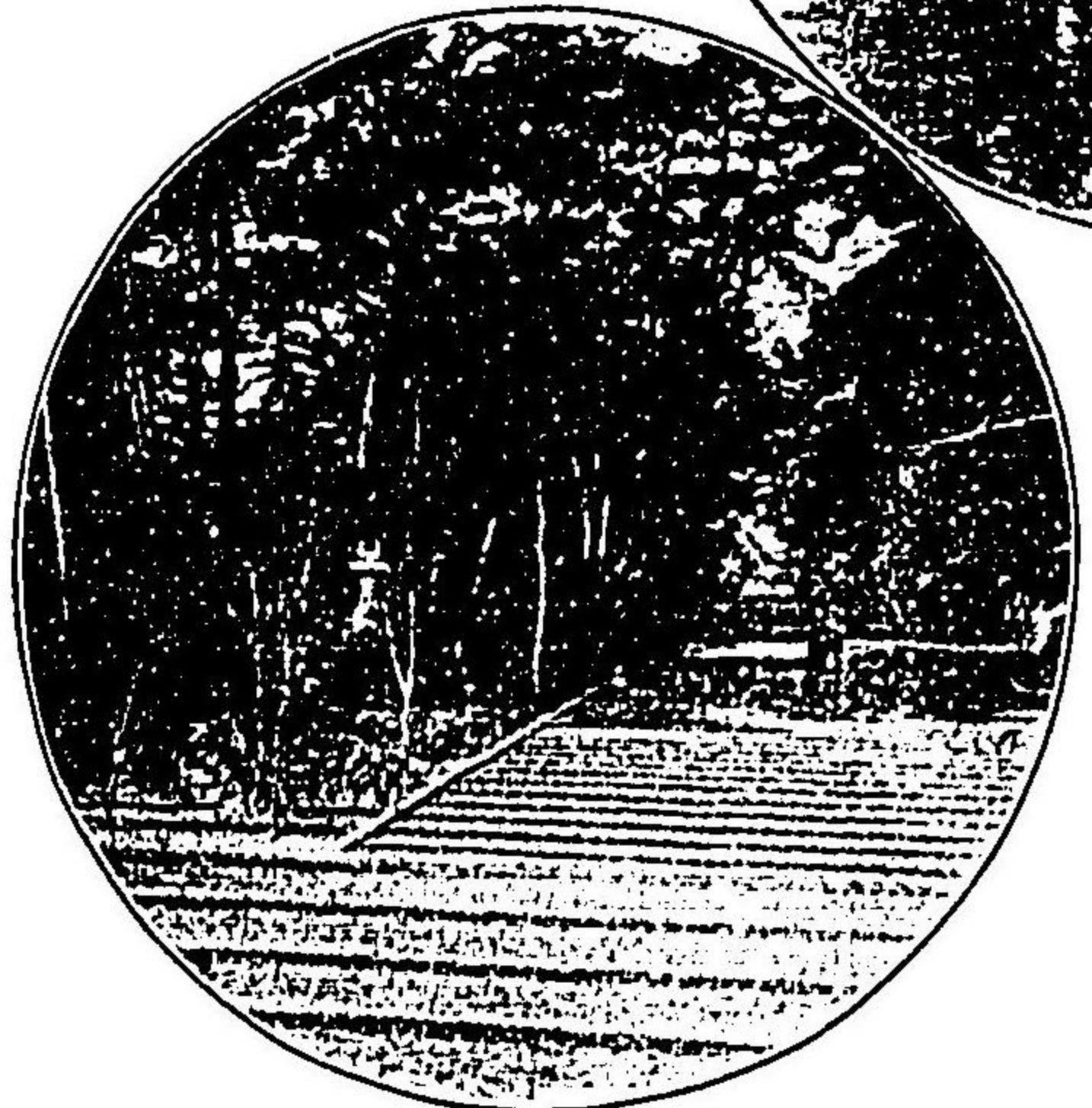
保津川大堰川の上流にして、兩岸相繋り怪岩奇石の起伏する處を奔流し、水勢洶湧、絶景頗る多し。丹波より輕舟に乗し此間を奔下せば、山走り崖飛び、倏忽にして嵐峽に着す。殊に初夏新緑露花の候最もよし。



社 神 日 向



寺 峰 寺



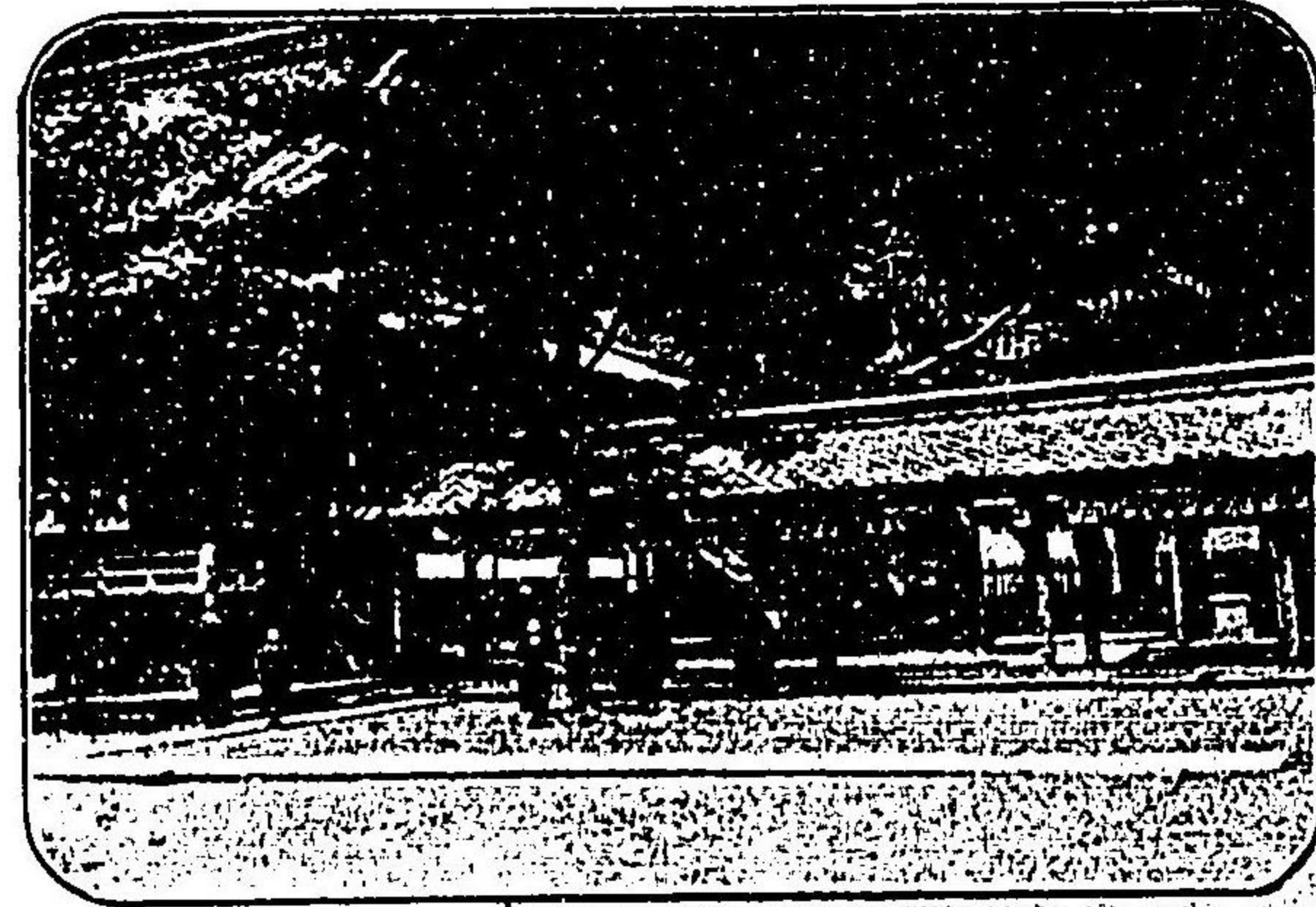
寺 明 光

法輪寺は高野郡上山田村にあり、本尊虚空蔵菩薩は日本三虚空蔵の隨一にして、莚敷放も著ろし。京阪の俗男女十三歳に至れば、本尊の智慧を授からんと欲し、春風麗日に乗ト争ひこゝに参詣す、之を十三詣りといふ。境内櫻樹多し。

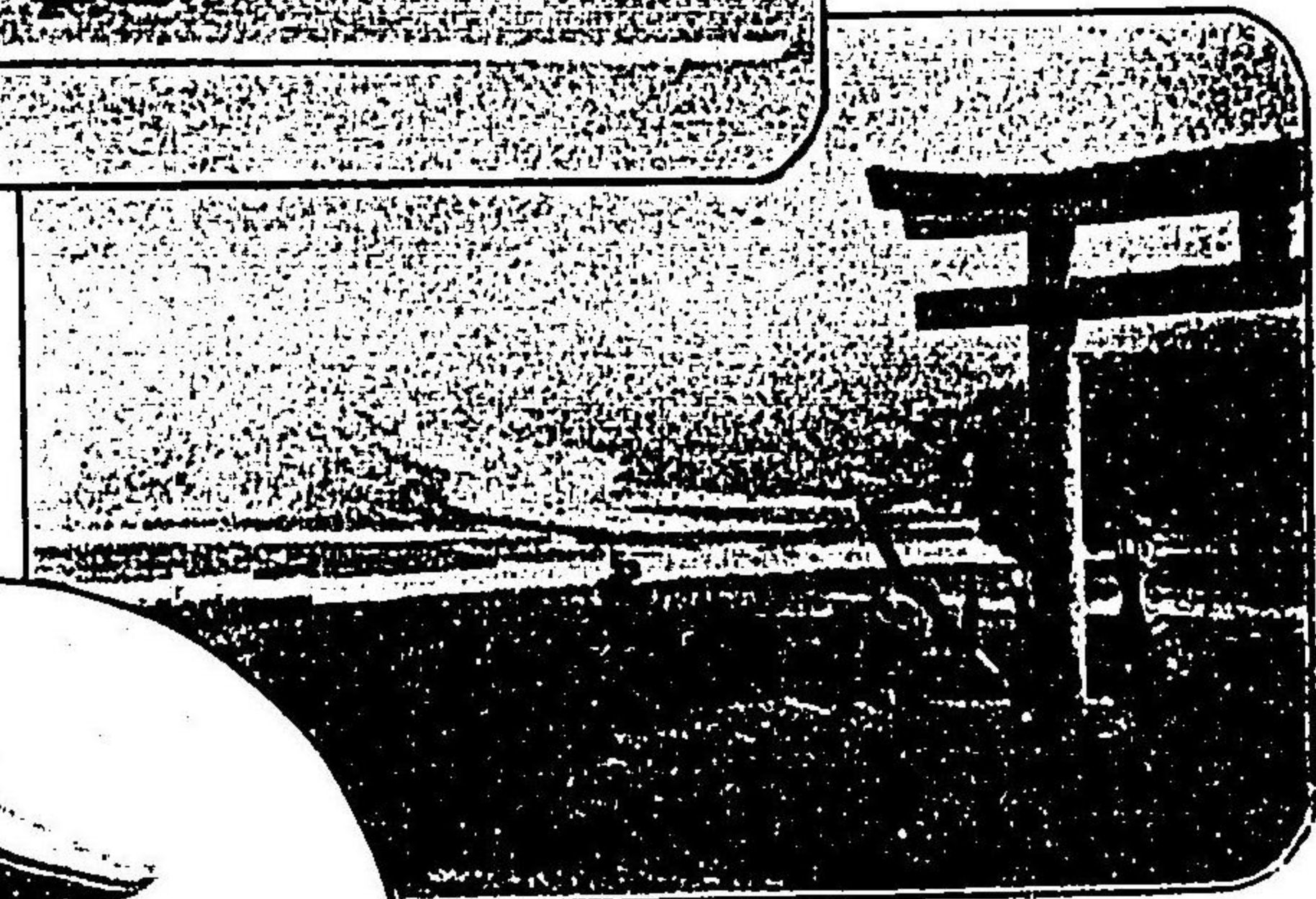
松尾神社は同上字松尾にあり官幣大社にして、祭神大山咋命、市杵島姫命を祀る。延暦中京都守護神となし玉ひ、洛西第一の大社なり。境内は老松古杉鬱々とし、神殿其間に煌々としいと輝とし、社頭はまた櫻楓樹多し。

梅宮は高野郡梅津村にあり、官幣中社にして、酒解神、大若子神、小若子神、酒解子神を祭る。境内は神林生茂り、清泉環流し、白から風趣あり、水邊多く燕十花を栽え、花時は輝々観るべし。

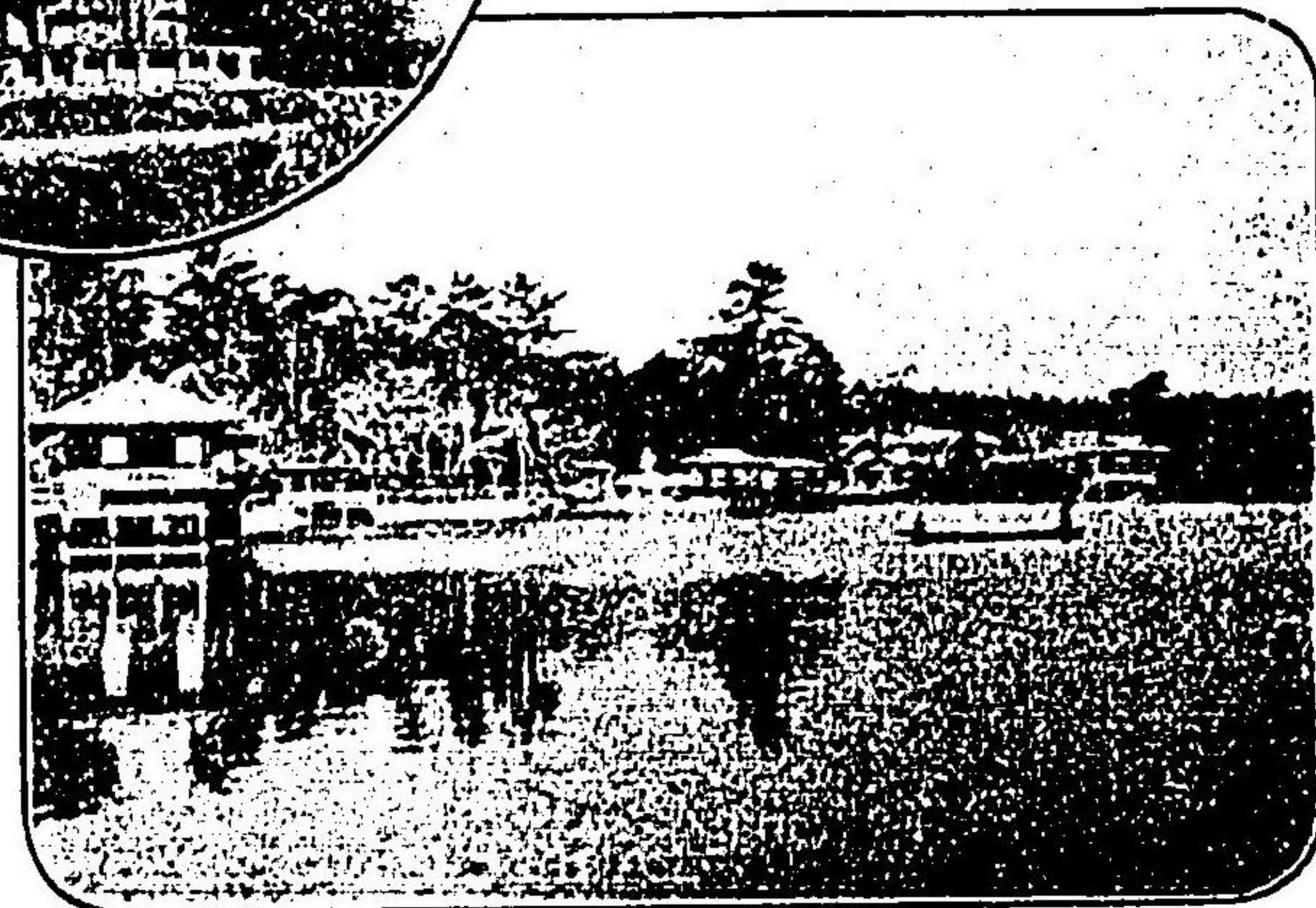
谷 楊



山 王 天



寶 寺



間 長

向日神社  
は乙訓郡向日岡にあ  
り、養老二年の鎮座にし  
て、本殿に神武天皇を祭る。  
社地を勝山と稱するは、豊太閤征  
韓の途次本社に賽し、社司を召し  
て地名を問ひしに、故さらば  
勝山と答へ太閤大に悦び  
しによると、境内櫻  
樹多し。

善峰寺  
は同郡小鹽村字善峰  
にあり、本堂、經堂、多  
寶塔、開山堂、阿彌陀堂、藥  
師堂、釋迦堂等あり、其壯嚴園部  
比類稀なり。寺域は山丘登坂  
して櫻楓樹多く、堂塔伽  
藍其間に掩映して風  
光絶佳なり。

光明寺  
は同郡乙訓村字粟生  
にあり、淨土宗西山派の  
總本山にして、熊谷蓮生坊の  
草創に由る。伽藍宏壯にして  
正親町天皇より法然上人遺廟の遺  
地、淨土根本の地といふべしと  
の繪旨を賜はる、以て其名  
利たるを知るべし。境  
内廣潤靜寂なり。

男 山 神 社



淀 川

楊谷寺は同郡海印寺村淨土谷にあり、世に楊谷觀音と稱す。境内に楊柳水、獨鉆水等の名蹟あり、古來此觀音は眼病に靈驗著ると稱し、遠近よりの參詣者極めて多し。

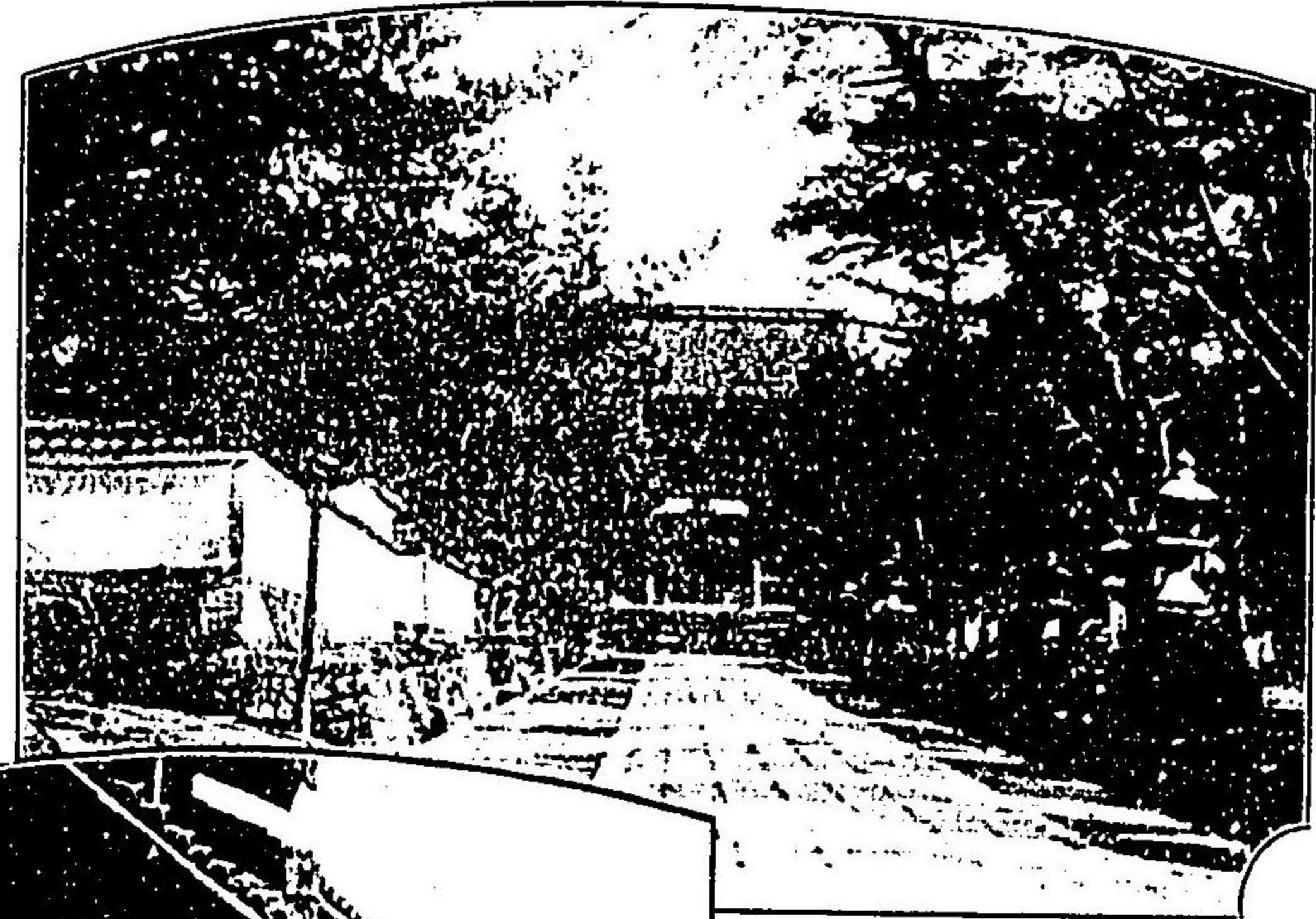
天王山は同郡大山崎村にあり、山城の西南端に屹立し、山勢雄偉なり。天正十年豊臣秀吉、明智光秀と山崎に戦ひ、兩軍此山を争ひしは人の知る處。山上に酒解神社あり。

叡 寺

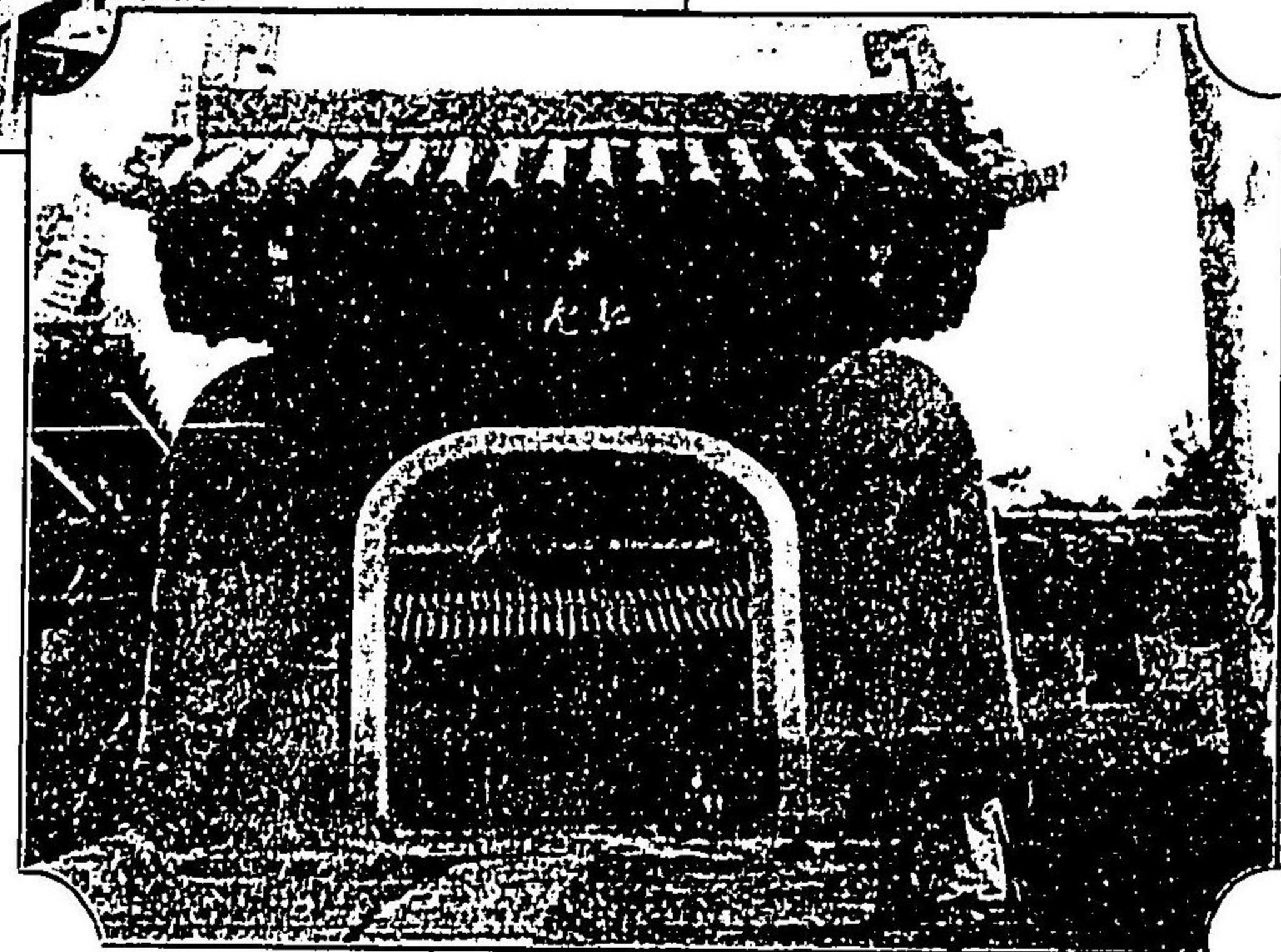
は天王山の山腹にあり、聖武天皇の勅額により、行基菩薩の開基なり。本堂并に九層石塔あり。又三重塔には大日如来を安んず。境内荒涼たり。

長岡大納宮は同郡乙訓村字開田にあり、菅公自筆の影像を祀る。境内に大池あり、池畔に梅風園多し。旗亭あり、酒を呼び餅を研るべく、實に西郊名所の一なり。

社 神 荷 楢



人形店ノ景



寺 峰 石

男山八幡宮は綾郡八幡町男山の山上にあり、官幣大社にして、祭神は應神天皇、神功皇后、比叡大神の三座を祀る。神殿を内外二字に分ち、其前に幣殿、舞殿あり、左右に廻廊あり、瑞垣は花鳥を彫り、五色を彩り、金銀を鏤め、全體の結構壯麗言はん方なし。神威いと多し。

(鎌倉右大臣)

飛かける八幡の山の山鳩の  
鳴なる聲は宮もと、ろに

淀川は五畿内第一の大河にして、渺々として濶海に注ぐ、沿岸淀城址、與軒神社等あり、昔は川岸に水車あり、波に隨ひ砕々とめぐりていと風情ありしが、今はなし。大橋、小橋あり。

(陸 恒)

五月雨に頼む網ても朽はて、  
波にひかる、淀の河船

社 神 森 藤



桃 山



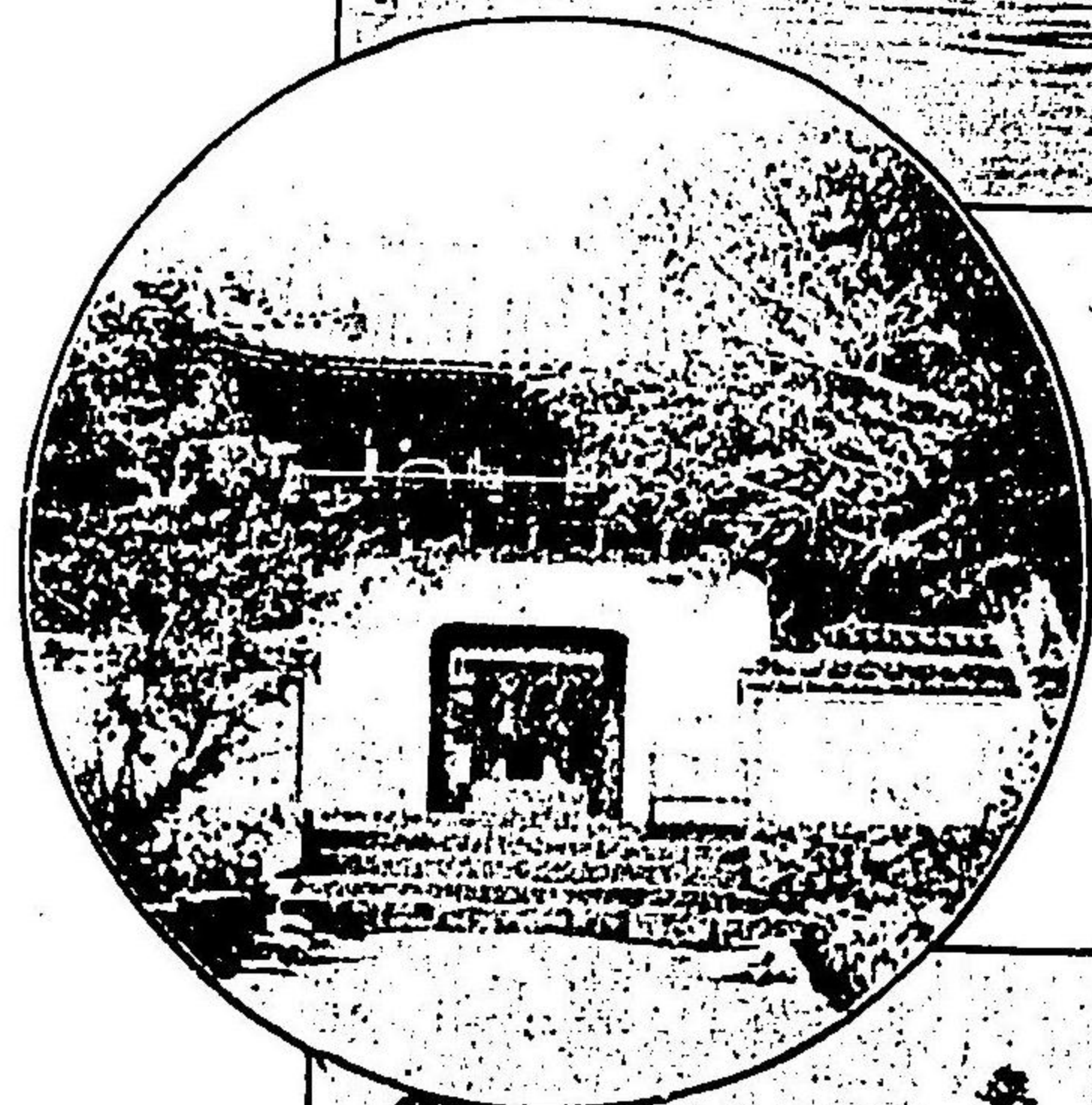
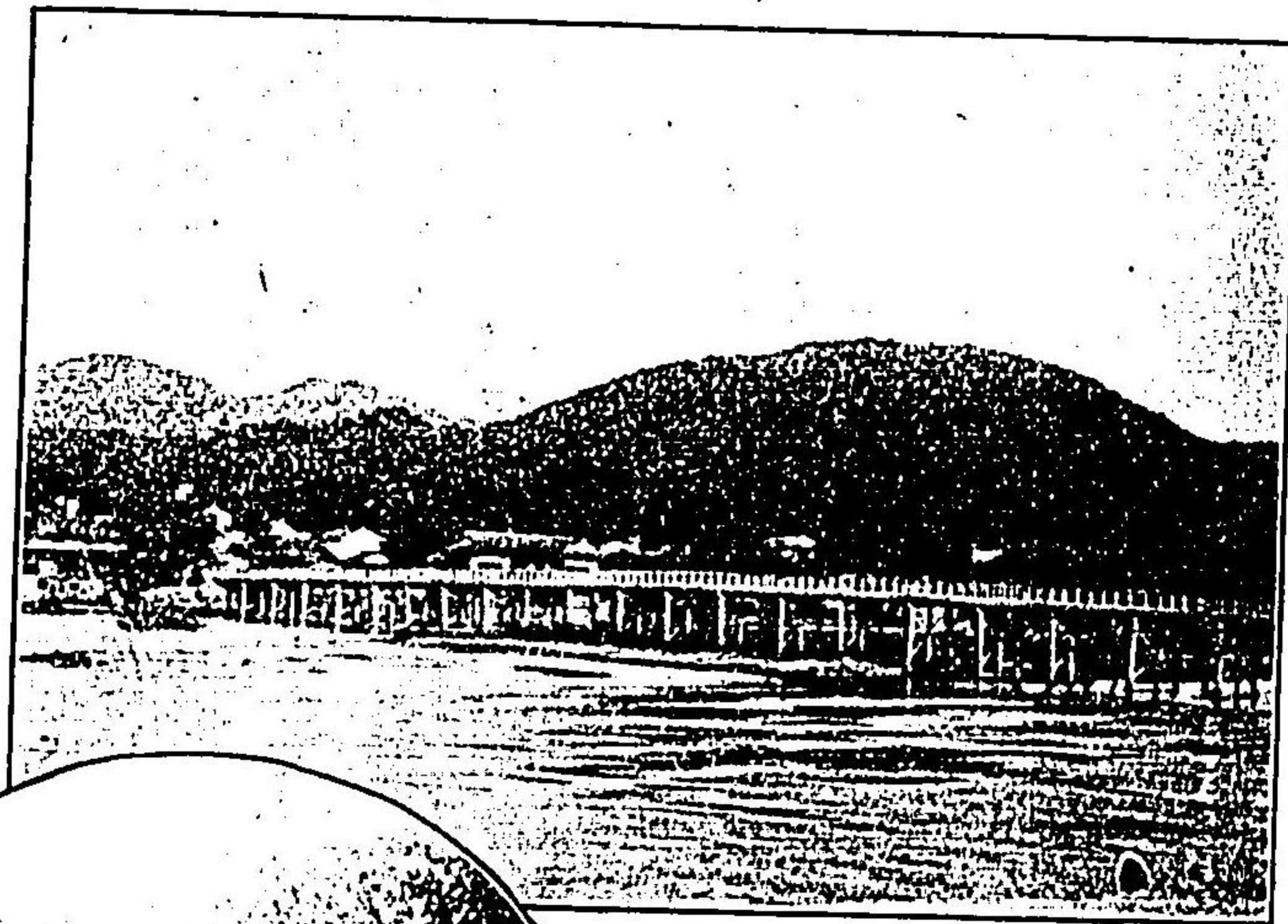
橋 月 観

稻荷神社は伏見町宇稻荷御前にあり、官幣大社にして、倉稻魂神、外七座を祀る。殿舎樓門頗る壯麗にして、諸國より参詣の人常に絶えず。殊に毎年二月初午と、四月二の午の祭禮は、最も群集雜沓を極む。

伏見人形は古來伏見の名物にして、沿道の露鋪多く之を寫ぎ、神狐、布袋、鈴でんぼ、其他くさんゝの土偶多し。名工幸右衛門曾てこゝに住し、近世の名工彩助またこゝに住して土偶を作り、今存する所の人形古廻は、多く其製に倣ふといふ。

石峰寺は稻荷神社の南二丁許の山上にあり、源宗黃檗派にして、開祖は千果和尚なり。表門は漢門に擬し、形狀奇巧にして、本堂には掛勝多し。後山に世宗若冲が、自ら畫きて石に彫らしめし五百羅漢あり。

宇治 橋



興聖寺



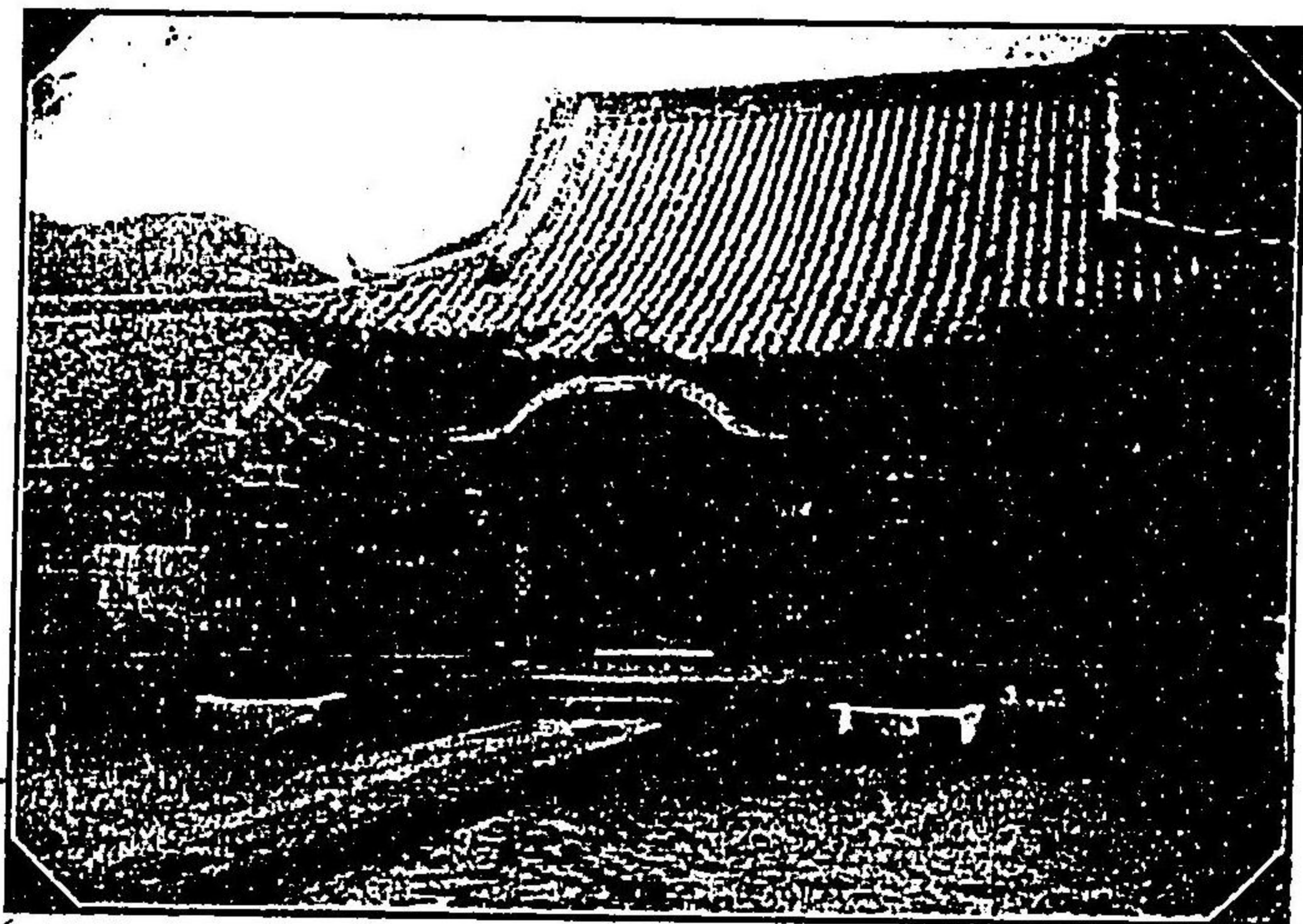
風雨堂

藤森神社は伏見町宇治橋前にあり、祭神は舍人親王、早良親王、及び伊豫親王の三座にして、府社とす。古昔は藤花多かりしも、今は其名姓を留むるのみ。例祭は六月五日にして、母衣甲冑を着け、旅櫓を飄へしたる騎馬武者の行列頗る美觀なり。

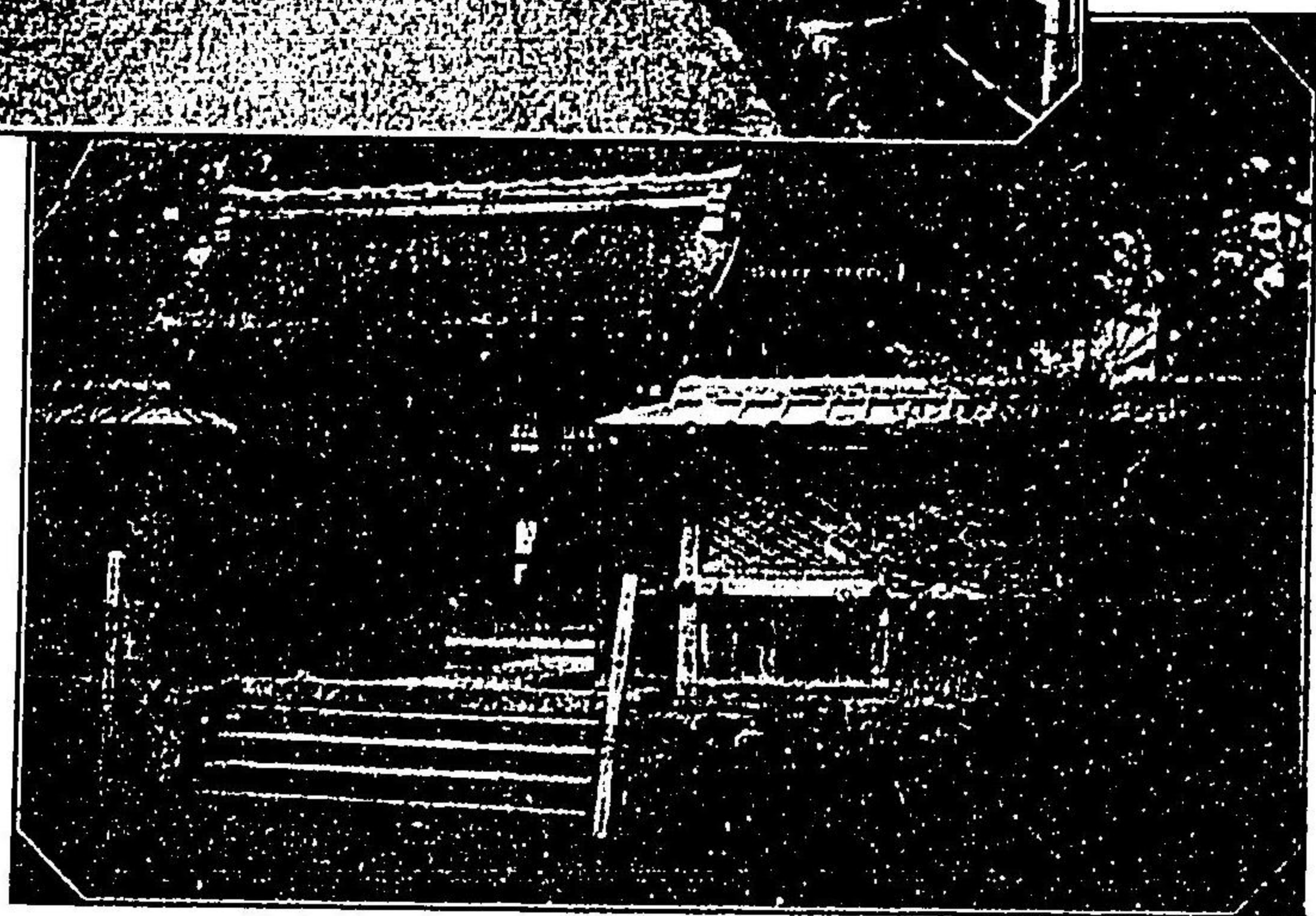
桃山は伏見町の東にあり、文祿年間豊太閤に、に城を築きて、金殿玉樓、高城深池、之を繕らすに諸大名の邸宅を以てせしが、關原戰後毀ちて山林と如地となり、如今はたゞ梅花の散々たるのみ、桃花の灼々たるのみ、朝陽恨として止ぬ矣。

觀月橋  
は宇治川に架す  
秀吉桃山在城の時、  
橋の西北に別所豊後守邸ありしより豊後橋と通稱し、また觀月に宜しとて觀月橋と云ふ。楯壁として長虹の水を依む如く、風光絶佳なり。

堂門沙毘



大津街道



社神羽諸

宇治橋は宇治川に架す、孝徳天皇の大化二年、僧道登、道昭、勅を奉じて始めて造るなり。降つて治承より元暦、承久、建武など幾回か橋を撤し岸を夾んで激戦ありしが、今は時清くして、水碧に山青く橋影ゆるやかに臥するのみ。

興聖寺  
は宇治郷宇山田にあり、禪宗曹洞派にして、道元禪師の開基なり。殿堂重重として、石門は宇治川に臨んで設く、風趣幽雅、恰かも南宗並甲の景に似たり。寺はまた山吹、櫻桐を以て著はる。

鳳凰堂は宇治橋の南二丁許にあり、藤原頼通の遺骸にして、全堂の結構を鳳凰に象り、更に屋上に金銅を以て造れる雄雉の鳳凰を置く。堂内は五彩を以て飾り、佛壇は寶玉螺鈿を鍍はめ、莊麗なる壁畫あり、藤原時代最も優秀の古建築なり。堂前に大池あり、風光頗るよし。

毘沙門堂は山科村大字安来にあり、本尊毘沙門天は傳教大師の作とし世に有名なり。中門、御成門、方丈等あり。近古以來法親王の入室あり、毘沙門堂門跡と稱す。堂殿壯麗にして、門外櫻樹多し。

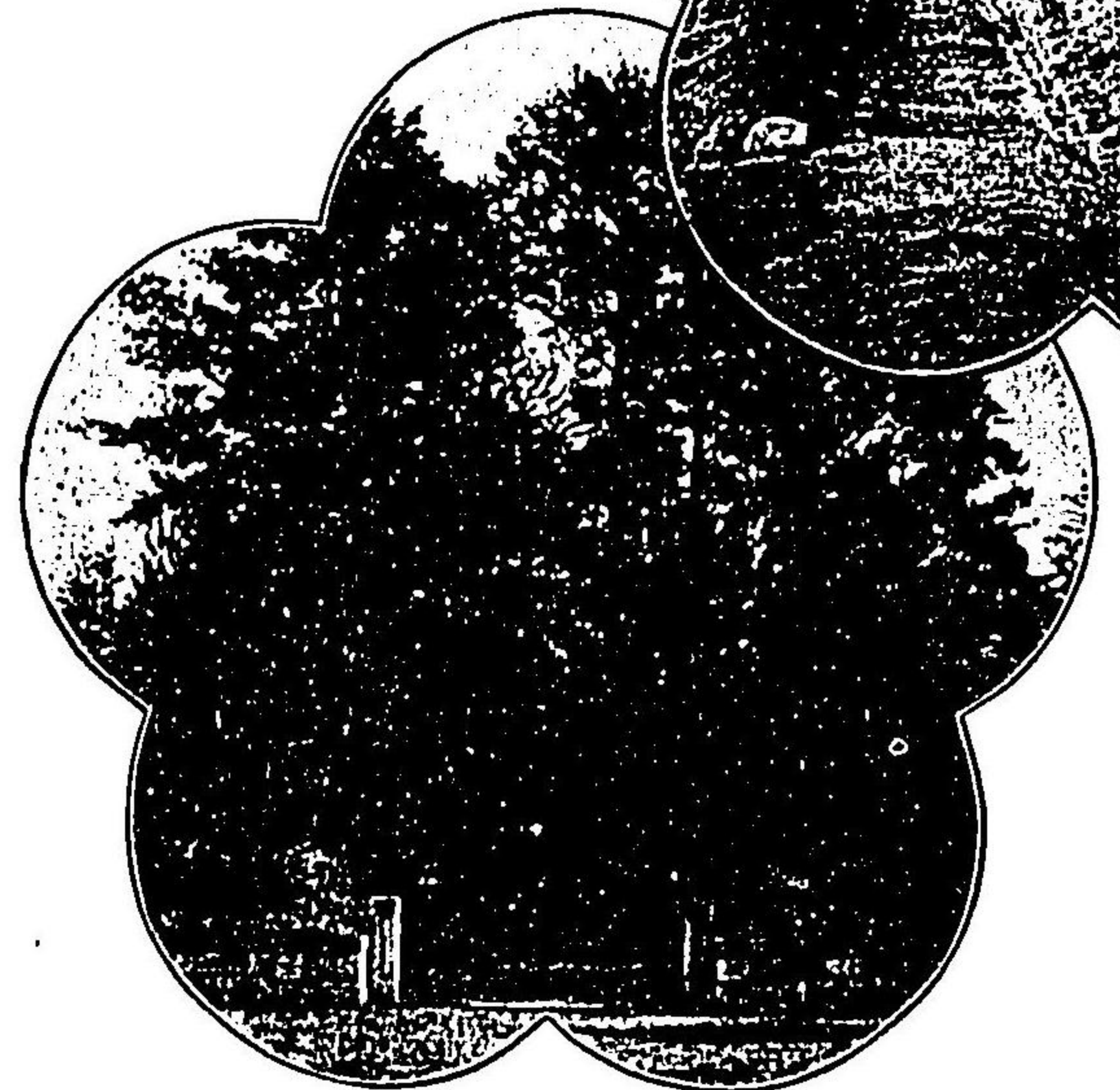
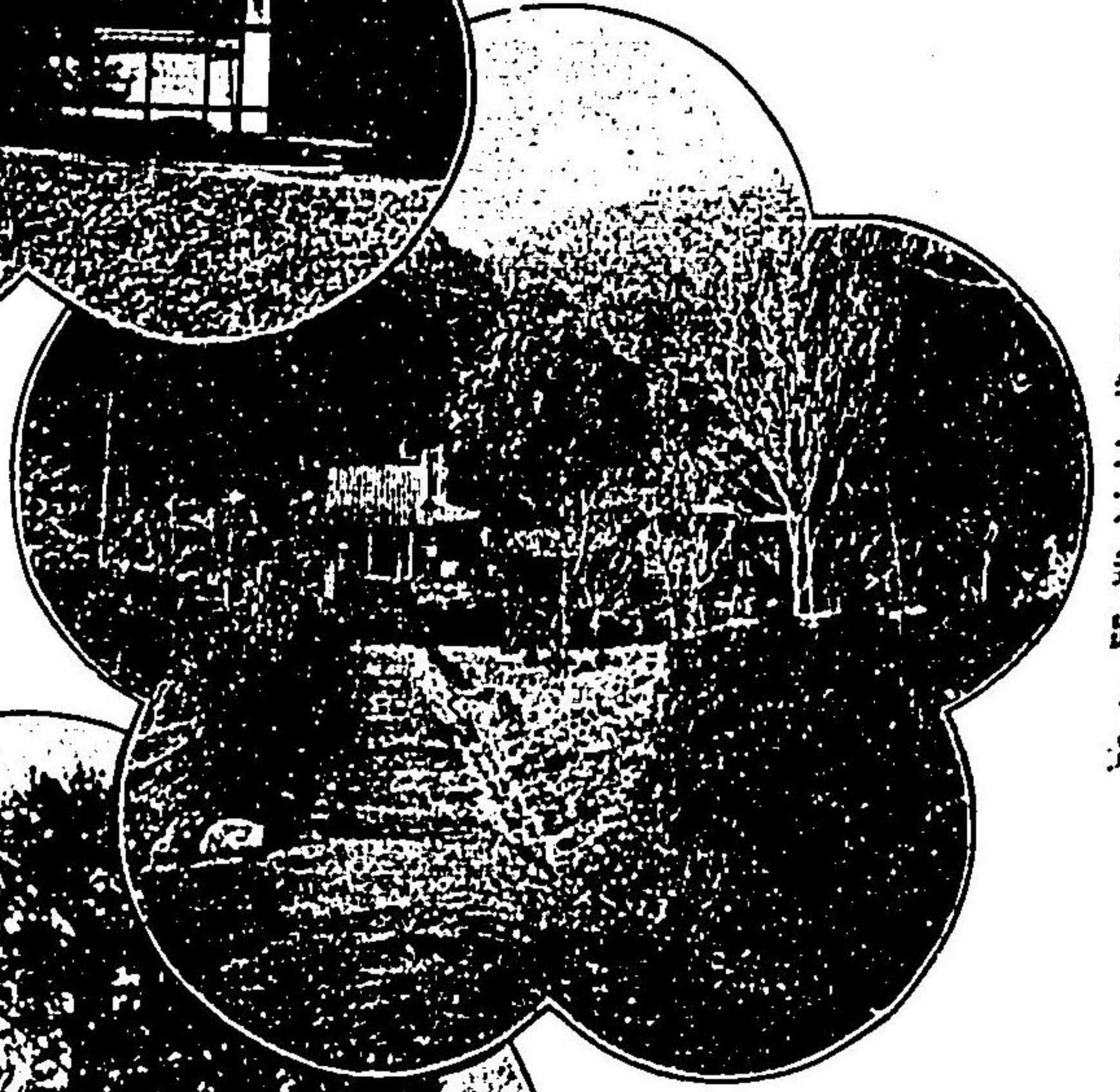
大津街道は近江國大津より京洛に入るの街道にして、後ろに返るは逢坂、三井の蒼翠、前に迎ふるは山科、日園等の諸山とし、左右には茅屋荒壁斷續す、春風一路、また多趣なり。

諸羽神社は山科村大字四宮にあり、清和天皇の貞觀四年勅して此地に御座せしめし處にして、祭神は天兒屋根命、天大玉命の二神とす。昔後の山を諸葉山といひ、蒼翠祠前に滴る。

勅修寺



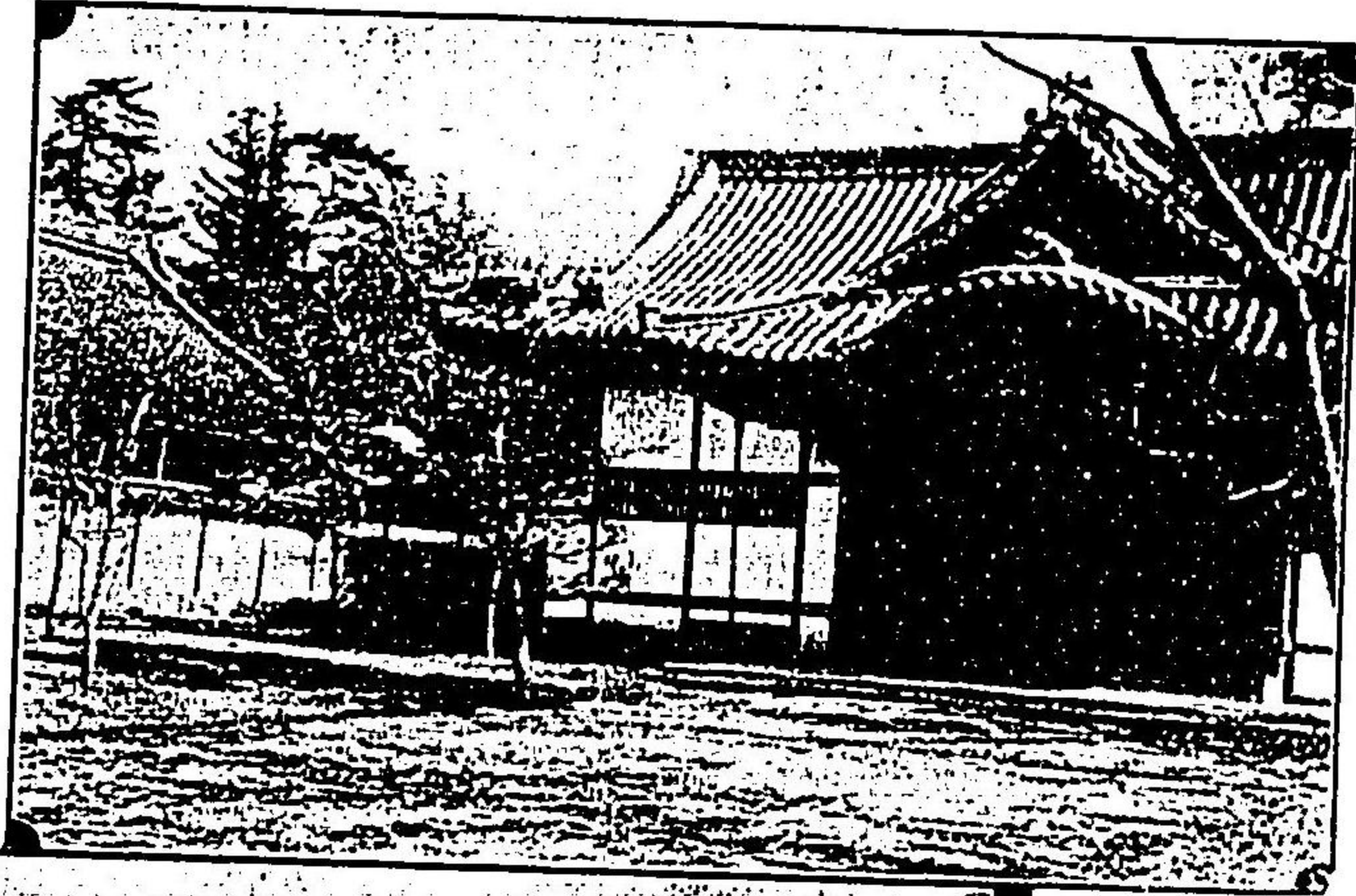
岩屋寺大石遺跡ノ景



伊ノ村ノ郷



院 心 隨



醍醐寺 経殿



寺 界 法

勸修寺

は醍醐村字勸修寺にあり、眞言宗の大本山にして、醍醐天皇の勸願所とし、代法親王の入室あり、勸修寺門跡と稱す。本堂、宸殿、書院、軍門殿等あり、堂殿宏壯にして、庭園幽邃なり。

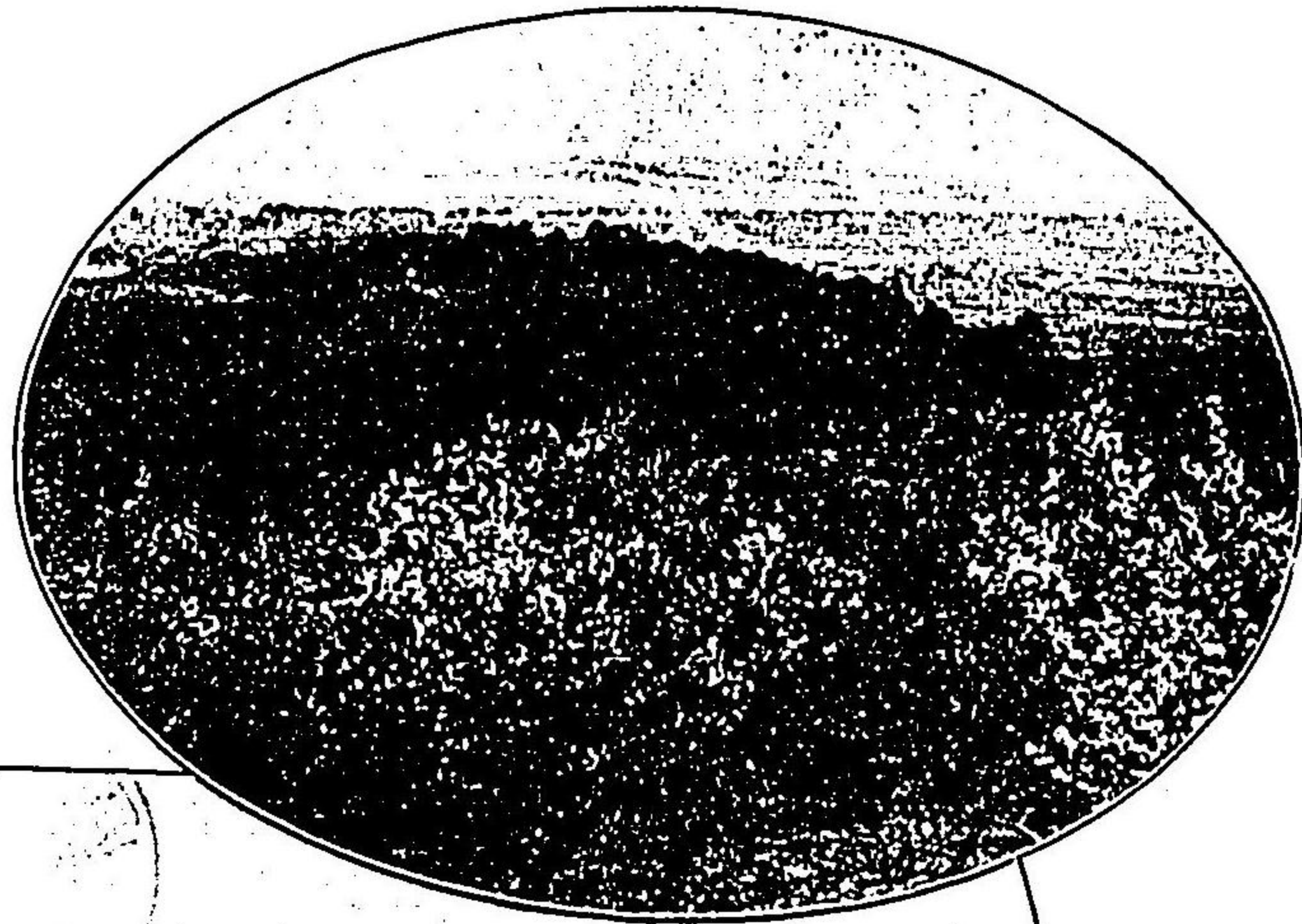
岩屋寺

は山科村字西野山の西南にあり、本尊不動明王は智證大師の作にして、大石真蓮の念持佛なり。境内に真蓮の宅址あり、即ち元禄年間真蓮が隠棲せし處にして、木像堂に四十七士の像を安んず。實に義士の遺物多し。

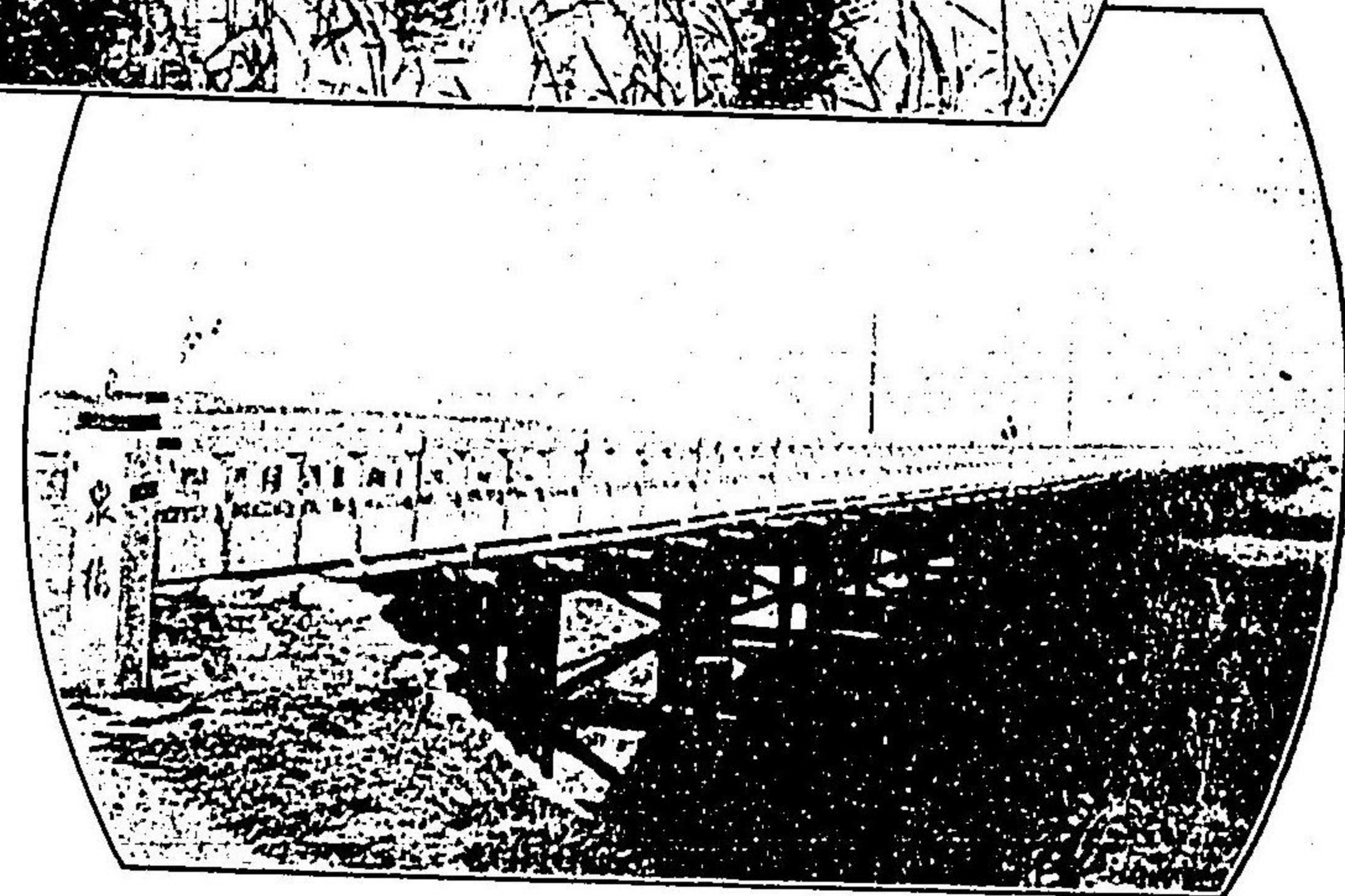
田村殿

の表は山科村字栗柄野の南にあり、中古の亂離に荒廢し、僅に斷垣を存せしが、明治二十八年大に修理を加へ、石垣を新にし、松竹を増栽す。時て認めば老樹鬱茂、兆城殿然、眞に偉人の廟塚たるにかなふ。

谷 菅



巨 椋 池



橋 津 木

龍心院は龍崎村字北野にあり  
眞言宗古義派の本山にして、  
堂殿宏壯なり。本堂に小野小  
町が艶書を貼て作りし小町地  
蔵あり。また當院竹林中に小  
町の木、附近に深草少將通路  
等あり、此地は小町が第址な  
りといふ。

龍崎寺は龍崎村にあり、龍崎  
天皇の勅額にして、開祖は理  
源大師なり。山上山下堂塔伽  
藍極て多し。宸殿は三寶院に  
あり、豐太閤の築造に、り、  
堂宇壯麗にして、林泉頗る奇  
趣あり。

法界寺は龍崎村字日野にあ  
り、本尊藥師佛は傳教大師の  
作にして、婦人乳汁に乏しき  
者祈願すれば必ず験ありと  
いふ。本堂は八百五十餘年を  
經たる俊秀の古建築にして、  
莊嚴なる壁畫あり。

笠置寺



水津川ヨリ笠置山ヲ望ム景



笠置温泉

背谷

は級喜郡長池郷  
より十八町許に  
あり、梅樹極めて多  
く、山に満ち谷に細  
り、儼然一白、香氣溢勃、  
花時の勝いふべからず  
名所には天の山、背  
谷川、一目千本、  
白坂、石原梅  
林等あり。

巨椋池は久世郡小倉村にあ  
り、宇治川の水源して池とな  
りしにて、周囲三里餘あり。  
水面渺茫として、水禽窟間に  
游泳し、風光明媚なり。池中  
魚蝦多く、ハス漁最も興味あ  
りといふ。

水津川は源を伊賀國山田郡よ  
り發し淀川に入る、古歌には  
多く泉川と稱せり。川底すべ  
て白砂にして、水緑に砂明に、  
白帆點々其間にかゝれるなど  
風光明媚得もいへず、水津橋  
は之に架したるものなり。

笠置寺は相樂郡笠置山の山上にあり、天武天皇白鳳年間の開基なり、山上巨岩怪石多く、真に神鏡鬼工と疑ふ。元弘元年後醍醐天皇北條氏の兵を避け、當山に行幸ありしは世の知る處、遺跡舊趾いと多し。

木津川より笠置山を望めば、一帶の青山蒼翠澤々とし、近時櫻楓樹を雜植して、春秋とも頗る美觀なり、山上に行宮遺趾紀念碑あり、彰仁親王の御筆にして、金字燦爛、朝陽斜照に赫く。

笠置温泉は笠置山下木津川の南岸にあり、温泉の湧出所は之より十數丁の上流なる河中にあり、冷温泉なるを、汲來りて此處にて温浴とするなり。此處の岸邊は巨岩磊砢として碧潭の中に起伏し、風光亦よし。

明治三十六年五月十四日印刷  
明治三十六年五月十七日發行

定價 金參拾錢

編者 藤井孫六

發行兼印刷者 藤井孫兵衛

京都市御幸町姉小路北八番戸

印刷所 京都印刷株式會社

京都市柳馬場二條下ル



發兌元

五車樓書店

電話特五百二十一番

京都市御幸町姉小路北入

近衛霞山公題辭 山縣含雪侯題辭  
内貴富柳市長序 黒田天外君編纂

# 京都名勝記

全三册

美濃半紙摺顔美本彩色木版  
并寫真版名所圖百四十餘ヶ  
所挿入七百頁金貳圓五拾錢

11/26  
本書は京都市参事會の藏版にしてかねて能文の聞け高き黒田天外君が十有六月の精力を傾注して大に實地を踏査し廣く群籍を涉獵し之を斷するに精明透徹の誠を以てし之を遺るに滄颯流暢の筆を以てして大成したるものにして京都の名勝は煥然として其精彩を發揮し皇宮仙苑は勿論靈社名刹山光風色は描寫して餘蘊なく更に社寺の寶物を詳記し重要物産の沿革を細述し史蹟舊趾を表彰し詩歌文詞を蒐録し一讀の下興趣津々手を解くに忍びざらしむ加之有名畫伯の繪畫二十葉鮮明精巧の寫真版百數十葉を挿入し殆んど錦上花を添るの觀あり固より片々たる坊間杜撰の編著と同一視すべからざる也弊店今同右發賣の榮を蒙ふり入念に調製可仕各社寺官衙學校は各一本を備へらるべきは云ふまでもなく來觀の旅客博雅の諸君は一讀して以て名勝探討の指針とし書齋臥遊の資となし玉はんことを謹んで冀ふ

81  
178

+

